

大学等名	京都ノートルダム女子大学
プログラム名	情報活用カプログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位 大学等全体のプログラム ③ 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

国際言語文化学部・英語英文学科／国際日本文化学科

④ 修了要件

国際言語文化学部では、「情報活用カプログラム」を構成する「基礎基幹」科目群から必修53科目（下記1～51～3）86単位と選択必修72科目（下記6～124～5）から81単位以上、選択必修5科目（下記6～10から）から8単位以上、「専門」科目群から必修2科目（下記13、14、11、12）4単位と選択必修7科目（下記15～2113～19）から4単位以上、「関連」科目群から選択必修2425科目（下記22～4520～4）から10単位以上を取得し、全体で34単位以上とすること。

「基礎基幹」：1. 情報技術リテラシー、2. 情報の科学と倫理、3. AIとデータサイエンス入門、4. 情報演習Ⅰa又は情報演習Ⅰb、5. 情報演習Ⅱ、6. SNSコミュニケーションスキル、7. 情報処理、8. プログラミング演習、9. 英語英文学基礎演習Ⅰ（英語英文学科対象）又は基礎演習Ⅰ（国際日本文化学科対象）、10. 英語英文学基礎演習Ⅱ（英語英文学科対象）又は基礎演習Ⅱ（国際日本文化学科対象）、~~6. 文章作成法Ⅰ、7. 文章作成法Ⅱ~~

「専門」：11. アルゴリズム基礎、12. AIとデータサイエンス、13. インターネット社会論、14. マーケティング論、15. 情報教育、16. 子供のネット安全教育の理論と実践、17. ICT活用教育、18. 英語英文学演習Ⅰ（英語英文学科対象）又は専門演習Ⅰ（国際日本文化学科対象）、19. 英語英文学演習Ⅱ（英語英文学科対象）又は専門演習Ⅱ（国際日本文化学科対象）

「関連」：20. 生命倫理、21. 暮らしの統計学、22. アカデミック・ライティング、23. キャリア実習Ⅰ、24. キャリア実習Ⅱ、25. キャリア形成ゼミ、26. インターンシップⅠ、27. インターンシップⅡ、28. 暮らしと電気・エネルギー、29. ことばのしくみ、30. 対人コミュニケーション、31. ことばの音と形態、32. ことばと社会、33. ことばと意味、34. ビジネスの基礎Ⅰ、35. ビジネスの基礎Ⅱ、36. ソーシャルマーケティング論、37. 女性起業論、38. 消費者行動の心理学、39. 知覚・認知心理学、40. 学習・言語心理学、41. ICTビジネス論、42. 中等教育実習Ⅰ、43. 中等教育実習Ⅱ、44. 卒業研究（情報分野を含むこと）、~~25. 短期インターンシップ、27. インターンシップ、33. 家庭電気・機械及び情報処理、38. 生活環境の心理学~~

必要最低単位数 34 単位

履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
情報技術リテラシー	2	○	○	○	○		プログラミング演習	2				○	○
情報の科学と倫理	2	○	○	○			アルゴリズム基礎	2	○		○	○	
AIとデータサイエンス入門	2	○	○		○	○	AIとデータサイエンス	2	○			○	
情報処理	2					○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
情報の科学と倫理	2	○	○		○		○				AIとデータサイエンス	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AIとデータサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	インターネット社会論	2		○			○	○			
SNSコミュニケーションスキル	2		○																		

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AIとデータサイエンス入門	2	○	AIとデータサイエンス		
アルゴリズム基礎	2	○		2	○

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報演習Ⅰa	その他	暮らしと電気・エネルギー	その他
情報演習Ⅰb	その他	ことばのしくみ	その他
情報演習Ⅱ	その他	対人コミュニケーション	その他
英語英文学基礎演習Ⅰ	その他	ことばの音と形態	その他
基礎演習Ⅰ	その他	ことばと社会	その他
英語英文学基礎演習Ⅱ	その他	ことばと意味	その他
基礎演習Ⅱ	その他	ビジネスの基礎Ⅰ	その他
マーケティング論	その他	ビジネスの基礎Ⅱ	その他
情報教育	その他	ソーシャルマーケティング論	その他
子供のネット安全教育の理論と実践	その他	女性起業論	その他
ICT活用教育	その他	消費者行動の心理学	その他
英語英文学演習Ⅰ	その他	知覚・認知心理学	その他
専門演習Ⅰ	その他	学習・言語心理学	その他
英語英文学演習Ⅱ	その他	ICTビジネス論	その他
専門演習Ⅱ	その他	中等教育実習Ⅰ	その他
生命倫理	その他	中等教育実習Ⅱ	その他
暮らしの統計学	その他	卒業研究	その他
アカデミック・ライティング	その他	文章作成法Ⅰ	その他
キャリア実習Ⅰ	その他	文章作成法Ⅱ	その他
キャリア実習Ⅱ	その他	短期インターンシップ	その他
キャリア形成ゼミ	その他	インターンシップ	その他
インターンシップⅠ	その他	家庭電気・機械及び情報処理	その他
インターンシップⅡ	その他	生活環境の心理学	その他

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、集合、ベン図「情報技術リテラシー」(4回目) ・デジタル情報量「情報の科学と倫理」(6, 7回) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回) ・相関係数、相関関係と因果関係「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回)
	1-7	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの基礎「情報の科学と倫理」(8回) ・アルゴリズムサーチ(線形探索)、最大値最小値、ソート(バブルソート、選択ソート、挿入ソート、シェルソート、クイックソート)、アルゴリズムの評価「プログラミング演習」(7, 8, 9回) ・アルゴリズムの表現(フローチャート)「アルゴリズム基礎」(3回) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「アルゴリズム基礎」(8, 9回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「情報技術リテラシー」(2, 3回目) ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AIとデータサイエンス入門」(3回) ・配列、木構造(ツリー)、グラフ「アルゴリズム基礎」(6, 10回) ・構造化データ、非構造化データ「AIとデータサイエンス入門」(4回)、「AIとデータサイエンス」(3回)
	2-7	<ul style="list-style-type: none"> ・文字型、整数型、浮動小数型、変数、代入、関数、引数、戻り値「AIとデータサイエンス入門」(6, 7回) ・プログラミング入門(変数、代入、順次・分岐・反復の理解)「情報処理」(5, 6, 7回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算、関数、引数、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング演習」(3, 4, 6, 12, 13, 14回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報化社会の問題点「情報の科学と倫理」(13回) ・データ駆動型社会、Society5.0「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・機器の発達とSNS、パソコン通信からインターネットへ「SNSコミュニケーションスキル」(2, 3回) ・データサイエンス活用事例「AIとデータサイエンス」(2回) ・Society5.0、ビッグデータの定義とデータ駆動型社会「インターネット社会論」(1, 7, 8回目)
	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データの収集、加工、分割/統合「AIとデータサイエンス入門」(3, 12回) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)
	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「情報の科学と倫理」(4回)、「AIとデータサイエンス入門」(2回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「AIとデータサイエンス」(2回)
	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「AIとデータサイエンス入門」(13回) ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AIとデータサイエンス」(6回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは? 「インターネット社会論」(7回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権の保護、デジタルシティズンシップ、情報通信とセキュリティ「情報の科学と倫理」(11, 12回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AI倫理、AIの社会受容性「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは? 「インターネット社会論」(7回目)
	3-3	<ul style="list-style-type: none"> ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIとデータサイエンス入門」(8, 9, 13回) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回)
	3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューラルネットワークの原理「AIとデータサイエンス入門」(13回)、「AIとデータサイエンス」(10回) ・実世界で進む深層学習の応用と革新(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(10回)
	3-9	<ul style="list-style-type: none"> ・AIの社会実装、ビジネス/業務への組み込み「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・AIの学習と推論、評価、再学習「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回) ・複数のAI技術を活用したシステム「AIとデータサイエンス」(2, 11, 12, 13回)
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群、応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	<ul style="list-style-type: none"> 「データ表現とアルゴリズム」 ・Wolfram言語によるアートプログラミング実習「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Web検索等の実用ソフトウェアのアルゴリズムの理解と課題発見「アルゴリズム基礎」(12, 13, 14回) ・分析用テキストデータ、画像データの収集/加工実習「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回)
	II	<ul style="list-style-type: none"> 「AI・データサイエンス基礎」 ・テキストマイニング技術を用いたデータビジュアライゼーション実習—「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Wolfram言語による機械学習プログラミング実習—「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。
- ・情報が社会に与える影響を理解できる。
- ・新たな情報を作り出し、課題を発見できる。
- ・課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。

大学等名	京都ノートルダム女子大学
プログラム名	情報活用カプログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位 大学等全体のプログラム ③ 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

現代人間学部・生活環境学科／心理学科／こども教育学科

④ 修了要件

現代人間学部では、「情報活用カプログラム」を構成する「基礎基幹」科目群から必修53科目（下記1～51～3）86単位と選択必修72科目（下記6～124～5）から81単位以上、**選択必修5科目（下記6～10）から8単位以上**、「専門」科目群から必修2科目（下記13～1411、12）4単位と**選択必修6科目（下記15～2013～18）から4単位以上**、「関連」科目群から**選択必修2427科目（下記21～4619～45）から10単位以上**を取得し、**全体で34単位以上**とすること。

「基礎基幹」：1. 情報技術リテラシー、2. 情報の科学と倫理、3. AIとデータサイエンス入門、4. 情報演習Ⅰa又は情報演習Ⅰb、5. 情報演習Ⅱ、6. SNSコミュニケーションスキル、7. 情報処理、8. プログラミング演習、9. 生活環境基礎演習Ⅰ（生活環境学科対象）又は心理学基礎演習Ⅰ（心理学科対象）又はこども教育基礎演習（こども教育学科対象）、10. 生活環境基礎演習Ⅱ（生活環境学科対象）又は心理学基礎演習Ⅱ（心理学科対象）又はこども教育フィールド研修（こども教育学科対象）、~~6.文章作成法Ⅰ、7.文章作成法Ⅱ~~

「専門」：11. アルゴリズム基礎、12. AIとデータサイエンス、13. インターネット社会論、14. マーケティング論、15. 情報教育、16. 子供のネット安全教育的理論と実践、17. ICT活用教育、18. 生活環境特論（生活環境学科対象）又は心理学演習（心理学科対象）又はこども教育演習（こども教育学科対象）

「関連」：19. 生命倫理、20. 暮らしの統計学、21. アカデミック・ライティング、~~22. キャリア実習Ⅰ、23. キャリア実習Ⅱ、24. キャリア形成ゼミ、25. インターンシップⅠ、26. インターンシップⅡ、27. 暮らしと電気・エネルギー、28. ことばのしくみ、29. 対人コミュニケーション、30. ことばの音と形態、31. ことばと社会、32. ことばと意味、33. ビジネスの基礎Ⅰ、34. ビジネスの基礎Ⅱ、35. ソーシャルマーケティング論、36. 女性起業論、37. 消費者行動の心理学、38. 知覚・認知心理学、39. 学習・言語心理学、40. ICTビジネス論、41. 初等教育実習Ⅰa、42. 初等教育実習Ⅱa、43. 初等教育実習Ⅰb、44. 初等教育実習Ⅱb、45. 卒業研究（情報分野を含むこと）、~~24.短期インターンシップ、26.インターンシップ、32.家庭電気・機械及び情報処理、37.生活環境の心理学~~~~

必要最低単位数 34 単位

履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
情報技術リテラシー	2	○	○		○		プログラミング演習	2			○		○
情報の科学と倫理	2	○	○	○			アルゴリズム基礎	2	○		○	○	
AIとデータサイエンス入門	2	○	○		○	○	AIとデータサイエンス	2	○			○	
情報処理	2					○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
情報の科学と倫理	2	○	○		○		○				AIとデータサイエンス	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AIとデータサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	インターネット社会論	2		○			○	○			
SNSコミュニケーションスキル	2		○																		

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AIとデータサイエンス入門	2	○	AIとデータサイエンス		
アルゴリズム基礎	2	○		2	○

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報演習Ⅰa	その他	ことばのしくみ	その他
情報演習Ⅰb	その他	対人コミュニケーション	その他
情報演習Ⅱ	その他	ことばの音と形態	その他
生活環境基礎演習Ⅰ	その他	ことばと社会	その他
心理学基礎演習Ⅰ	その他	ことばと意味	その他
こども教育基礎演習	その他	ビジネスの基礎Ⅰ	その他
生活環境基礎演習Ⅱ	その他	ビジネスの基礎Ⅱ	その他
心理学基礎演習Ⅱ	その他	ソーシャルマーケティング論	その他
こども教育フィールド研修	その他	女性起業論	その他
マーケティング論	その他	消費者行動の心理学	その他
情報教育	その他	知覚・認知心理学	その他
子供のネット安全教育的理論と実践	その他	学習・言語心理学	その他
ICT活用教育	その他	ICTビジネス論	その他
生活環境特論	その他	初等教育実習Ⅰa	その他
心理学演習	その他	初等教育実習Ⅱa	その他
こども教育演習	その他	初等教育実習Ⅰb	その他
生命倫理	その他	初等教育実習Ⅱb	その他
暮らしの統計学	その他	卒業研究	その他
アカデミック・ライティング	その他	文章作成法Ⅰ	その他
キャリア実習Ⅰ	その他	文章作成法Ⅱ	その他
キャリア実習Ⅱ	その他	短期インターンシップ	その他
キャリア形成ゼミ	その他	インターンシップ	その他
インターンシップⅠ	その他	家庭電気・機械及び情報処理	その他
インターンシップⅡ	その他	生活環境の心理学	その他
暮らしと電気・エネルギー	その他		

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、集合、ベン図「情報技術リテラシー」(4回目) ・デジタル情報量「情報の科学と倫理」(6, 7回) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回) ・相関係数、相関関係と因果関係「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回)
	1-7	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの基礎「情報の科学と倫理」(8回) ・アルゴリズムサーチ(線形探索)、最大値最小値、ソート(バブルソート、選択ソート、挿入ソート、シェルソート、クイックソート)、アルゴリズムの評価「プログラミング演習」(7, 8, 9回) ・アルゴリズムの表現(フローチャート)「アルゴリズム基礎」(3回) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「アルゴリズム基礎」(8, 9回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「情報技術リテラシー」(2, 3回目) ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AIとデータサイエンス入門」(3回) ・配列、木構造(ツリー)、グラフ「アルゴリズム基礎」(6, 10回) ・構造化データ、非構造化データ「AIとデータサイエンス入門」(4回)、「AIとデータサイエンス」(3回)
	2-7	<ul style="list-style-type: none"> ・文字型、整数型、浮動小数型、変数、代入、関数、引数、戻り値「AIとデータサイエンス入門」(6, 7回) ・プログラミング入門(変数、代入、順次・分岐・反復の理解)「情報処理」(5, 6, 7回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算、関数、引数、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング演習」(3, 4, 6, 12, 13, 14回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報化社会の問題点「情報の科学と倫理」(13回) ・データ駆動型社会、Society5.0「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・機器の発達とSNS、パソコン通信からインターネットへ「SNSコミュニケーションスキル」(2, 3回) ・データサイエンス活用事例「AIとデータサイエンス」(2回) ・Society5.0、ビッグデータの定義とデータ駆動型社会「インターネット社会論」(1, 7, 8回目)
	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データの収集、加工、分割/統合「AIとデータサイエンス入門」(3, 12回) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)
	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「情報の科学と倫理」(4回)、「AIとデータサイエンス入門」(2回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「AIとデータサイエンス」(2回)
	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「AIとデータサイエンス入門」(13回) ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AIとデータサイエンス」(6回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは? 「インターネット社会論」(7回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権の保護、デジタルシティズンシップ、情報通信とセキュリティ「情報の科学と倫理」(11, 12回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AI倫理、AIの社会受容性「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは? 「インターネット社会論」(7回目)
	3-3	<ul style="list-style-type: none"> ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIとデータサイエンス入門」(8, 9, 13回) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回)
	3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューラルネットワークの原理「AIとデータサイエンス入門」(13回)、「AIとデータサイエンス」(10回) ・実世界で進む深層学習の応用と革新(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(10回)
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群、応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	<ul style="list-style-type: none"> ・「データ表現とアルゴリズム」 ・Wolfram言語によるアートプログラミング実習「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Web検索等の実用ソフトウェアのアルゴリズムの理解と課題発見「アルゴリズム基礎」(12, 13, 14回) ・分析用テキストデータ、画像データの収集/加工実習「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回)
	II	<ul style="list-style-type: none"> ・「AI・データサイエンス基礎」 ・テキストマイニング技術を用いたデータビジュアライゼーション実習—「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Wolfram言語による機械学習プログラミング実習—「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。
- ・情報が社会に与える影響を理解できる。
- ・新たな情報を作り出し、課題を発見できる。
- ・課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。

大学等名	京都ノートルダム女子大学
プログラム名	情報活用カプログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位 大学等全体のプログラム ③ 教育プログラムの修了要件 学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

社会情報課程学環

④ 修了要件

社会情報課程学環では、「情報活用カプログラム」を構成する「基礎基幹」科目群から必修53科目(下記1～51～3)86単位と選択必修72科目(下記6～124～5)から81単位以上、選択必修5科目(下記6～10)から8単位以上、「専門」科目群から必修2科目(下記13、1411、12)4単位、選択必修6科目(下記15～2013～18)から4単位以上、「関連」科目群から選択必修2425科目(下記21～4419～43)から10単位以上を取得し、全体で34単位以上とすること。

「基礎基幹」:1. 情報技術リテラシー、2. 情報の科学と倫理、3. AIとデータサイエンス入門、4. 情報演習Ⅰa又は情報演習Ⅰb、5. 情報演習Ⅱ、6. SNSコミュニケーションスキル、7. 情報処理、8. プログラミング演習、9. 社会情報基礎演習Ⅰ、10. 社会情報基礎演習Ⅱ、~~6.文章作成法Ⅰ、7.文章作成法Ⅱ~~

「専門」:11. アルゴリズム基礎、12. AIとデータサイエンス、13. インターネット社会論、14. マーケティング論、15. 情報教育、16. 子供のネット安全教育の理論と実践、17. ICT活用教育、18. 社会情報演習

「関連」:19. 生命倫理、20. 暮らしの統計学、21. アカデミック・ライティング、~~22. キャリア実習Ⅰ、23. キャリア実習Ⅱ、24. キャリア形成ゼミ、25. インターンシップⅠ、26. インターンシップⅡ、27. 暮らしと電気・エネルギー、28. ことばのしくみ、29. 対人コミュニケーション、30. ことばの音と形態、31. ことばと社会、32. ことばと意味、33. ビジネスの基礎Ⅰ、34. ビジネスの基礎Ⅱ、35. ソーシャルマーケティング論、36. 女性起業論、37. 消費者行動の心理学、38. 知覚・認知心理学、39. 学習・言語心理学、40. ICTビジネス論、41. 中等教育実習Ⅰ、42. 中等教育実習Ⅱ、43. 卒業研究(情報分野を含むこと)、~~24.短期インターンシップ、26.インターンシップ、32.家庭電気・機械及び情報処理、37.生活環境の心理学~~~~

必要最低単位数 34 単位

履修必須の有無 令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
情報技術リテラシー	2	○	○		○		プログラミング演習	2			○		○
情報の科学と倫理	2	○	○	○			アルゴリズム基礎	2	○		○	○	
AIとデータサイエンス入門	2	○	○		○	○	AIとデータサイエンス	2	○			○	
情報処理	2					○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
情報の科学と倫理	2	○	○		○		○				AIとデータサイエンス	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AIとデータサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	インターネット社会論	2		○			○	○			
SNSコミュニケーションスキル	2		○																		

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AIとデータサイエンス入門	2	○	AIとデータサイエンス	2	○
アルゴリズム基礎	2	○			

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報演習Ⅰa	その他	ことばの音と形態	その他
情報演習Ⅰb	その他	ことばと社会	その他
情報演習Ⅱ	その他	ことばと意味	その他
社会情報基礎演習Ⅰ	その他	ビジネスの基礎Ⅰ	その他
社会情報基礎演習Ⅱ	その他	ビジネスの基礎Ⅱ	その他
マーケティング論	その他	ソーシャルマーケティング論	その他
情報教育	その他	女性起業論	その他
子供のネット安全教育の理論と実践	その他	消費者行動の心理学	その他
ICT活用教育	その他	知覚・認知心理学	その他
社会情報演習	その他	学習・言語心理学	その他
生命倫理	その他	ICTビジネス論	その他
暮らしの統計学	その他	中等教育実習Ⅰ	その他
アカデミック・ライティング	その他	中等教育実習Ⅱ	その他
キャリア実習Ⅰ	その他	卒業研究	その他
キャリア実習Ⅱ	その他	文章作成法Ⅰ	その他
キャリア形成ゼミ	その他	文章作成法Ⅱ	その他
インターンシップⅠ	その他	短期インターンシップ	その他
インターンシップⅡ	その他	インターンシップ	その他
暮らしと電気・エネルギー	その他	家庭電気・機械及び情報処理	その他
ことばのしくみ	その他	生活環境の心理学	その他
対人コミュニケーション	その他		

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、集合、ベン図「情報技術リテラシー」(4回目) ・デジタル情報量「情報の科学と倫理」(6, 7回) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回) ・相関係数、相関関係と因果関係「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回)
	1-7	<ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの基礎「情報の科学と倫理」(8回) ・アルゴリズムサーチ(線形探索)、最大値最小値、ソート(バブルソート、選択ソート、挿入ソート、シェルソート、クイックソート)、アルゴリズムの評価「プログラミング演習」(7, 8, 9回) ・アルゴリズムの表現(フローチャート)「アルゴリズム基礎」(3回) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「アルゴリズム基礎」(8, 9回)
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「情報技術リテラシー」(2, 3回目) ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AIとデータサイエンス入門」(3回) ・配列、木構造(ツリー)、グラフ「アルゴリズム基礎」(6, 10回) ・構造化データ、非構造化データ「AIとデータサイエンス入門」(4回)、「AIとデータサイエンス」(3回)
	2-7	<ul style="list-style-type: none"> ・文字型、整数型、浮動小数型、変数、代入、関数、引数、戻り値「AIとデータサイエンス入門」(6, 7回) ・プログラミング入門(変数、代入、順次・分岐・反復の理解)「情報処理」(5, 6, 7回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算、関数、引数、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング演習」(3, 4, 6, 12, 13, 14回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1	<ul style="list-style-type: none"> ・高度情報化社会の問題点「情報の科学と倫理」(13回) ・データ駆動型社会、Society5.0「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・機器の発達とSNS、パソコン通信からインターネットへ「SNSコミュニケーションスキル」(2, 3回) ・データサイエンス活用事例「AIとデータサイエンス」(2回) ・Society5.0、ビッグデータの定義とデータ駆動型社会「インターネット社会論」(1, 7, 8回目)
	1-2	<ul style="list-style-type: none"> ・データの収集、加工、分割/統合「AIとデータサイエンス入門」(3, 12回) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)
	2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「情報の科学と倫理」(4回)、「AIとデータサイエンス入門」(2回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「AIとデータサイエンス」(2回)
	3-1	<ul style="list-style-type: none"> ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「AIとデータサイエンス入門」(13回) ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AIとデータサイエンス」(6回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権の保護、デジタルシティズンシップ、情報通信とセキュリティ「情報の科学と倫理」(11, 12回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AI倫理、AIの社会受容性「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-3	<ul style="list-style-type: none"> ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIとデータサイエンス入門」(8, 9, 13回) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回)
	3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・ニューラルネットワークの原理「AIとデータサイエンス入門」(13回)、「AIとデータサイエンス」(10回) ・実世界で進む深層学習の応用と革新(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(10回)
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群、応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I	<ul style="list-style-type: none"> ・「データ表現とアルゴリズム」 ・Wolfram言語によるアートプログラミング実習「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Web検索等の実用ソフトウェアのアルゴリズムの理解と課題発見「アルゴリズム基礎」(12, 13, 14回) ・分析用テキストデータ、画像データの収集/加工実習「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回)
	II	<ul style="list-style-type: none"> ・「AI・データサイエンス基礎」 ・テキストマイニング技術を用いたデータビジュアライゼーション実習—「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Wolfram言語による機械学習プログラミング実習—「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。
- ・情報が社会に与える影響を理解できる。
- ・新たな情報を作り出し、課題を発見できる。
- ・課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。

大学等名	京都ノートルダム女子大学
プログラム名	情報活用カプログラム

プログラムを構成する授業科目について

① 申請単位

大学等全体のプログラム

 ③ 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

② 対象となる学部・学科名称

女性キャリアデザイン学環

④ 修了要件
女性キャリアデザイン学環では、「情報活用カプログラム」を構成する「基礎基幹」科目群から必修3科目（下記1～3）6単位と選択必修2科目（下記4～5）から1単位以上、選択必修5科目（下記6～10）から8単位以上、「専門」科目群から必修2科目（下記11、12）4単位、選択必修6科目（下記13～18）から4単位以上、「関連」科目群から選択23科目（下記19～41）から10単位以上を取得し、全体で34単位以上とすること。

「基礎基幹」：1. 情報技術リテラシー、2. 情報の科学と倫理、3. AIとデータサイエンス入門、4. 情報演習Ⅰa又は情報演習Ⅰb、5. 情報演習Ⅱ、6. SNSコミュニケーションスキル、7. 情報処理、8. プログラミング演習、9. 基礎演習Ⅰ、10. 基礎演習Ⅱ

「専門」：11. アルゴリズム基礎、12. AIとデータサイエンス、13. インターネット社会論、14. マーケティング論、15. 情報教育、16. 子供のネット安全教育の理論と実践、17. ICT活用教育、18. 専門演習

「関連」：19. 生命倫理、20. 暮らしの統計学、21. アカデミック・ライティング、22. キャリア実習Ⅰ、23. キャリア実習Ⅱ、24. キャリア形成ゼミ、25. インターンシップⅠ、26. インターンシップⅡ、27. 暮らしと電気・エネルギー、28. ことばのしくみ、29. 対人コミュニケーション、30. ことばの音と形態、31. ことばと社会、32. ことばと意味、33. ビジネスの基礎Ⅰ、34. ビジネスの基礎Ⅱ、35. ソーシャルマーケティング論、36. 女性起業論、37. 消費者行動の心理学、38. 知覚・認知心理学、39. 学習・言語心理学、40. ICTビジネス論、41. 卒業研究（情報分野を含むこと）

必要最低単位数

34

 単位 履修必須の有無

令和8年度以降に履修必須とする計画、又は未定

⑤ 応用基礎コア「Ⅰ. データ表現とアルゴリズム」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7	授業科目	単位数	必須	1-6	1-7	2-2	2-7
情報技術リテラシー	2	○	○		○		プログラミング演習	2			○		○
情報の科学と倫理	2	○	○	○			アルゴリズム基礎	2	○		○	○	
AIとデータサイエンス入門	2	○	○		○	○	AIとデータサイエンス	2	○			○	
情報処理	2					○							

⑥ 応用基礎コア「Ⅱ. AI・データサイエンス基礎」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9	授業科目	単位数	必須	1-1	1-2	2-1	3-1	3-2	3-3	3-4	3-9
情報の科学と倫理	2	○	○		○		○				AIとデータサイエンス	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○
AIとデータサイエンス入門	2	○	○	○	○	○	○	○	○	○	インターネット社会論	2		○			○	○			
SNSコミュニケーションスキル	2		○																		

⑦ 応用基礎コア「Ⅲ. AI・データサイエンス実践」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	授業科目	単位数	必須
AIとデータサイエンス入門	2	○	AIとデータサイエンス	2	○
アルゴリズム基礎	2	○			

⑧ 選択項目・その他の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
情報演習Ⅰa	その他	インターンシップⅡ	その他
情報演習Ⅰb	その他	暮らしと電気・エネルギー	その他
情報演習Ⅱ	その他	ことばのしくみ	その他
基礎演習Ⅰ	その他	対人コミュニケーション	その他
基礎演習Ⅱ	その他	ことばの音と形態	その他
マーケティング論	その他	ことばと社会	その他
情報教育	その他	ことばと意味	その他
子供のネット安全教育の理論と実践	その他	ビジネスの基礎Ⅰ	その他
ICT活用教育	その他	ビジネスの基礎Ⅱ	その他
専門演習	その他	ソーシャルマーケティング論	その他
生命倫理	その他	女性起業論	その他
暮らしの統計学	その他	消費者行動の心理学	その他
アカデミック・ライティング	その他	知覚・認知心理学	その他
キャリア実習Ⅰ	その他	学習・言語心理学	その他
キャリア実習Ⅱ	その他	ICTビジネス論	その他
キャリア形成ゼミ	その他	卒業研究	その他
インターンシップⅠ	その他		

⑨ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素	講義内容
(1) データサイエンスとして、統計学を始め様々なデータ処理に関する知識である「数学基礎(統計数理、線形代数、微分積分)」に加え、AIを実現するための手段として「アルゴリズム」、「データ表現」、「プログラミング基礎」の概念や知識の習得を目指す。	1-6 <ul style="list-style-type: none"> ・順列、組合せ、集合、ベン図「情報技術リテラシー」(4回目) ・デジタル情報量「情報の科学と倫理」(6, 7回) ・代表値(平均値、中央値、最頻値)、分散、標準偏差「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回) ・相関係数、相関関係と因果関係「AIとデータサイエンス入門」(11, 12回)
	1-7 <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムの基礎「情報の科学と倫理」(8回) ・アルゴリズムサーチ(線形探索)、最大値最小値、ソート(バブルソート、選択ソート、挿入ソート、シェルソート、クイックソート)、アルゴリズムの評価「プログラミング演習」(7, 8, 9回) ・アルゴリズムの表現(フローチャート)「アルゴリズム基礎」(3回) ・並び替え(ソート)、探索(サーチ)「アルゴリズム基礎」(8, 9回)
	2-2 <ul style="list-style-type: none"> ・情報量の単位(ビット、バイト)、二進数、文字コード「情報技術リテラシー」(2, 3回目) ・コンピュータで扱うデータ(数値、文章、画像、音声、動画など)「AIとデータサイエンス入門」(3回) ・配列、木構造(ツリー)、グラフ「アルゴリズム基礎」(6, 10回) ・構造化データ、非構造化データ「AIとデータサイエンス入門」(4回)、「AIとデータサイエンス」(3回)
	2-7 <ul style="list-style-type: none"> ・文字型、整数型、浮動小数型、変数、代入、関数、引数、戻り値「AIとデータサイエンス入門」(6, 7回) ・プログラミング入門(変数、代入、順次・分岐・反復の理解)「情報処理」(5, 6, 7回目) ・変数、代入、四則演算、論理演算、関数、引数、順次、分岐、反復の構造を持つプログラムの作成「プログラミング演習」(3, 4, 6, 12, 13, 14回目)
(2) AIの歴史から多岐に渡る技術種類や応用分野、更には研究やビジネスの現場において実際にAIを活用する際の構築から運用までの一連の流れを知識として習得するAI基礎的なものに加え、「データサイエンス基礎」、「機械学習の基礎と展望」、及び「深層学習の基礎と展望」から構成される。	1-1 <ul style="list-style-type: none"> ・高度情報化社会の問題点「情報の科学と倫理」(13回) ・データ駆動型社会、Society 5.0「AIとデータサイエンス入門」(2, 14回) ・機器の発達とSNS、パソコン通信からインターネットへ「SNSコミュニケーションスキル」(2, 3回) ・データサイエンス活用事例「AIとデータサイエンス」(2回) ・Society 5.0、ビッグデータの定義とデータ駆動型社会「インターネット社会論」(1, 7, 8回目)
	1-2 <ul style="list-style-type: none"> ・データの収集、加工、分割/統合「AIとデータサイエンス入門」(3, 12回) ・データ分析の進め方、仮説検証サイクル「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回) ・様々なデータ分析手法(回帰、分類、クラスタリングなど)「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)
	2-1 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT(情報通信技術)の進展、ビッグデータ「情報の科学と倫理」(4回)、「AIとデータサイエンス入門」(2回) ・ビッグデータの収集と蓄積、クラウドサービス、ビッグデータ活用事例「AIとデータサイエンス」(2回)
	3-1 <ul style="list-style-type: none"> ・汎用AI/特化型AI(強いAI/弱いAI)「AIとデータサイエンス入門」(13回) ・AIの歴史、推論、探索、トイプロブレム、エキスパートシステム「AIとデータサイエンス」(6回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-2 <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権の保護、デジタルシティズンシップ、情報通信とセキュリティ「情報の科学と倫理」(11, 12回) ・プライバシー保護、個人情報の取り扱い「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AI倫理、AIの社会受容性「AIとデータサイエンス入門」(14回)、「AIとデータサイエンス」(14回) ・AIの定義と期待、現在のAIの限界、三度目のAIブームが本物になれた理由とは?「インターネット社会論」(7回目)
	3-3 <ul style="list-style-type: none"> ・機械学習、教師あり学習、教師なし学習、強化学習「AIとデータサイエンス入門」(8, 9, 13回) ・実世界で進む機械学習の応用と発展(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(11, 12, 13回)
	3-4 <ul style="list-style-type: none"> ・ニューラルネットワークの原理「AIとデータサイエンス入門」(13回)、「AIとデータサイエンス」(10回) ・実世界で進む深層学習の応用と革新(自然言語処理)「AIとデータサイエンス」(10回)
(3) 本認定制度が育成目標として掲げる「データを人や社会にかかわる課題の解決に活用できる人材」に関する理解や認識の向上に資する実践の場を通じた学習体験を行う学修項目群、応用基礎コアのなかでも特に重要な学修項目群であり、「データエンジニアリング基礎」、及び「データ・AI活用企画・実施・評価」から構成される。	I <ul style="list-style-type: none"> ・「データ表現とアルゴリズム」 ・Wolfram言語によるアートプログラミング実習「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Web検索等の実用ソフトウェアのアルゴリズムの理解と課題発見「アルゴリズム基礎」(12, 13, 14回) ・分析用テキストデータ、画像データの収集/加工実習「AIとデータサイエンス」(3, 4, 5回)
	II <ul style="list-style-type: none"> ・「AI・データサイエンス基礎」 ・テキストマイニング技術を用いたデータビジュアライゼーション実習—「AIとデータサイエンス入門」(12回) ・Wolfram言語による機械学習プログラミング実習—「AIとデータサイエンス」(7, 8, 9回)

⑩ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

- ・情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。
- ・情報が社会に与える影響を理解できる。
- ・新たな情報を作り出し、課題を発見できる。
- ・課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。

授業コード	GEI2250A0J		
科目名	情報技術リテラシー A		
副題			
担当教員	伊藤 泰子		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	金曜1限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員	35人	備考	

科目の教育目標	いまや情報技術は、国家の社会基盤となりつつある。このような社会の中では、情報技術に関する一定の知識・技能を持つ人材が必要とされている。この科目では、国家試験である「ITパスポート試験」の技術水準をガイドラインとし、IT（information technology：情報技術）人材として共通に備えておくべき情報技術に関する基礎知識を習得することを目標とする。コンピュータのしくみ・基礎理論を理解し、どのような技術があるか学習し、それをどのように活用すべきかを考えていく。現在のネットワーク社会において必要不可欠なデータベース、ネットワーク、セキュリティなどの知識も習得する。
教育・学習の個別課題	<ul style="list-style-type: none">・コンピュータ基礎理論を理解する・コンピュータシステムを知る・データベースの基礎知識を学ぶ・インターネットのしくみと知識を学ぶ・セキュリティの基礎知識を学ぶ

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータの基礎理論	記憶容量の最小単位がわからない	bitやByte、2進数表記について知っている	基数変換、bit数による表現範囲がわかる	コンピュータ上の文字表現、色の表現など2進数表現を使って説明できる
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムのOSの名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ソフトウェアとハードウェアの理解	ソフトウェアとハードウェアが何かわからない	ソフトウェアとハードウェアを知っている	ソフトウェアとハードウェアの具体例を説明できる	PCの性能表を見ておおよその説明をすることができる
インターネットのしくみの理解	インターネットに興味がない	代表的なプロトコルを知っている	IPアドレスやドメイン名について知っている	IPアドレスのクラスやサブネットマスクを理解できる
セキュリティの知識	セキュリティに興味がない	セキュリティの必要性がわかる	どのようなセキュリティ技術があるか知っている	セキュリティの必要性や技術について、他人に説明できる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス 授業概要の説明、ITパスポートの紹介
第2回	情報に関する基礎理論1 2進数、基数変換など
第3回	情報に関する基礎理論2 情報量、A/D変換、文字の表現など
第4回	情報に関する基礎理論3 集合、確率、アルゴリズム、プログラミング（疑似言語）など
第5回	情報に関する基礎理論の関する理解度確認テストと解説
第6回	コンピュータの基礎知識 1 パソコンの性能を調べる パソコンの性能項目の発表
第7回	コンピュータの基礎知識2 ハードウェア・インターフェイスの種類と役割など

第8回	コンピュータの基礎知識 3 ソフトウェア、OSなど
第9回	マルチメディア マルチメディア技術やファイル形式など
第10回	データベースの基礎知識 データベースの種類、データベース設計、データ操作など
第11回	データベースの作成 データベースの作成、データの抽出などの実習を行う
第12回	ネットワーク 1 ネットワーク方式、プロトコルなど
第13回	ネットワーク 2 インターネットのしくみ、サービスなど
第14回	情報セキュリティ 脅威とその特徴、セキュリティ対策、暗号化技術など
第15回	まとめテスト、解答・解説
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	プレゼンテーション／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	・講義中心で行うが、必要に応じて実習も交える。 ・定期的に小テストを行う。 フィードバックとして、テスト実施後に解答の解説を行う。
準備学習の具体的な方法	講義対象とする教科書の内容は事前に告知するのでその部分を読んで予習しておく。さらに章ごとに小テストを実施するので、毎回きちんと復習しておくこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	授業参加度（50％）、テスト（50％）の総合点で評価する。
留意事項	

ノートPCの授業での利用	使用しない。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト				
ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集	FOM出版	FOM出版		最新版を使用
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。
-------------------	----------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI1200N0J		
科目名	情報の科学と倫理		
副題			
担当教員	神月 紀輔		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	水曜6限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	メディア利用（学則第 1 3 条第 2 項適用）

科目の教育目標	一昔前までコンピュータは高価なものだったが、今では安価でパソコンを購入できるようになり、スマートフォンとよばれる高性能なコンピュータを肌身離さず持ち歩くようになっている。便利な電子機器が当たり前かのように身の回りに溢れるようにあるがゆえに、それらがどのように動いているかなど気にすることが少なくなってきた。 本科目では、コンピュータがどのように動いているのか、コンピュータのあらゆるデータが内部ではどのように表現されているのかを学び、コンピュータとどのように向き合っていくかを考えられるようになることを知るとともに、扱われる情報の価値や、人権問題にも目を向け基礎的な情報倫理の知識も知ること目標とする。
教育・学習の個別課題	1. コンピュータの構造について学ぶ 2. 情報のデジタル化とアルゴリズムについて学ぶ 3. データサイエンスやAIの社会的意義を基礎的に学ぶ 4. 知的財産権・個人情報の保護などについて学ぶ

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	情報の扱い自体を意識できない。	情報を人の扱うものとして考える	人のための情報のやり取りとはどのようなものか考える	デジタル技術を応用し、人の未来のための使い方を考える
知識・理解力	アナログとデジタルの区別がない	情報のデジタル化についてその仕組みを理解し、内部構造を理解できる。	情報のデジタル化の仕組みが理解でき、PCの内部構造や、その他の機器の構造を理解できる	さまざまなアルゴリズムを理解し、デジタル化された機器の長所・短所がわかる。
言語力	情報機器に関する用語を理解しようとしない。	プログラムを動かすための言語があることを理解する。	簡単なプログラミングができる。	プログラミング言語を理解し、生活の中で役立てる。
思考・解決力	教えられたこと以上は考えようとしていない	デジタル化の応用が生活の中にあることを考える	プログラミング的思考をする力がある	機器も含めて、人と人のコミュニケーションも生かして問題を解決しようとする
共生・協働する力	先行研究や他者の意見を参考にしない	先行研究をもとに、情報技術について考えようとする	考えた結果を、周囲の人たちと共有し、さらに自分の考えを深めようとする。	レベル3に加えて、情報ネットワークなども正しく用いて、考えを深める。
創造・発信力	自分勝手な、情報の発信を行う。	自ら、周囲の状況を踏まえて、情報の扱い方を考える	デジタル技術などを踏まえて、情報の扱い方を考える。	レベル3に加えて、情報モラルも加味しながら情報の扱い方を考える

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	授業の概要紹介 電子教科書によるテキストの案内
第2回	情報理論とデジタル・アナログ
第3回	ハードウェアとソフトウェア
第4回	コンピュータの仕組みとOS、コンピュータの歴史
第5回	コンピュータの発展 小テスト1回目と解説
第6回	情報のデジタル化 数字、文字

第7回	情報のデジタル化 音声、画像
第8回	アルゴリズムとその考え方
第9回	情報の検索と収集 小テスト2回目と解説
第10回	情報の信頼性と信憑性
第11回	知的財産権の保護
第12回	情報通信の仕組みとセキュリティ
第13回	高度情報化社会の展望と問題点、デジタルシティズンシップ
第14回	情報モラルの考え方、小テスト3回目と解説
第15回	全体のまとめ、自己評価
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	オンライン：全ての回をオンラインで実施
アクティブラーニングの要素	PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	<p>この講義は、全講義をオンライン学習によって行う。 manabaコースを用いて講義前に授業資料・教材を配信する。 また、電子教科書（必ず購入すること）によるテキストを使用する。</p> <p>講義の流れ</p> <ol style="list-style-type: none">manabaコースのコースニュースに予定を配信するmanabaコースに指示されたテキストのページを読んでおく授業時間開始時に、manabaコースのコンテンツに教材を配信する。コンテンツの指示に従って学習を進めるresponで毎回のコメントを提出し、自分の理解度を把握しておくテキストでこの回の内容を復習する1に戻る月に1回のペースで小テストを行い、自分で学習の進捗を確かめる <p>responを用いて講義ごとの振り返りを行い、授業への質問・感想などの記入を求め、授業内でフィードバックを行う。 小テストを行うことにより、学びの定着を目指すので、小テストごとに学習の振り返りをするといよい。 コンテンツの資料は全講義が終了するまで、復習や抜けた講義のために、いつでも閲覧できるようにしておく。</p>
準備学習の具体的な方法	電子教科書によるテキストで予習復習を丁寧に行うこと 新たなトピックに入る前にキーワードや参考文献を提示するので学習を進めておくこと。なお、参考文献は図書館の指定図書のコーナーに配架する予定である。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	45
評価方法・評価基準	30点満点の小テストを3回実施し、授業への参加度（コメントの入力態度を含む）・毎回のresponへの授業コメントおよび自己評価を加えた10点を加算し100点満点で評価を行う。 3回の小テストで合計点が60点に満たない場合は、追試または課題を課すことがある。
留意事項	テキストとして電子教科書を購入すること（購入方法は別途連絡がある）。 オンラインによる学習のため、動画をみたり、responの提出ができるように、PCやスマホの準備をしておく。 質問はmanabaコースのスレッドで受け付ける。 初回に受講の仕方を説明する。

ノートPCの授業での利用	オンデマンドであるのでノートPCに限らず、ネットに接続されたPCは必要になる。
教員への連絡方法	manabaを利用／オフィシアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト			
情報の科学と倫理	神月紀輔	丸善雄松堂	電子教科書 購入方法は別途指示する
参考文献			
参考URL			

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI2451A0J		
科目名	AIとデータサイエンス入門 A		
副題			
担当教員	北村 美穂子		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	木曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	AI(人工知能)とは何でしょうか？また、AIと聞いて何を思い浮かべるでしょうか？人間のようにおしゃべりするロボットでしょうか？人間の仕事を奪う脅威でしょうか？ AIについては、人間の知能とどう違うのかを主眼におき、特に、コンピュータで言葉を扱う技術、自然言語処理について学びます。また、データサイエンスについては簡単な統計の知識やデータを可視化する方法を学びます。 身につけた知識を実習で体感できるよう、プログラミング実習も行います。最後に社会的な問題にも触れ、人間とAIが共存する社会について考察できる知識を養うことを目標とします。
教育・学習の個別課題	<ul style="list-style-type: none">データサイエンスの基礎・概要を学ぶプログラミング言語を理解・習得するAIリテラシーを学ぶ社会におけるAI・データの役割を学ぶ

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
データサイエンスの基礎・概要の理解	データの可視化・分析の方法がわからない	データの可視化・分析の方法を知っている	データを可視化・分析できる	データを可視化・分析して、課題を発見できる
プログラミング言語の理解と習得	プログラミング言語に興味がない	サンプルのプログラムを見ながら自分で書ける	サンプルのプログラムをベースに異なるプログラムを自分で書ける	サンプルのプログラムをベースに、目的に合うプログラムを自分で考えて書ける
AIリテラシーの習得	AIリテラシーに興味がない	AIリテラシーの力として、AIのしくみや原理の理解が必要なことを知っている	AIリテラシーの力としてAIのしくみや原理を理解しようとし、専門知識を学んでいる	AIリテラシー関連の専門知識(機械翻訳など)が豊富で、他人にも説明できる
社会におけるAI・データの役割の理解	社会におけるAI・データの役割に興味がない	社会におけるAI・データの役割をなんとなく理解している	社会におけるAI・データの役割を理解している	社会におけるAI・データの役割を理解し、例をあげて説明することができる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

NDカリキュラム		学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス <ul style="list-style-type: none">授業の目的・進め方についての説明WolframAlphaを使ってみよう
第2回	AIによる技術および社会の変化 <ul style="list-style-type: none">AIによる技術の変化(インターネット、IoT、5G)、AIによる社会の変化(ソサエティ5.0、シェアリングエコノミー他)Wolfram言語の基本操作の説明と実習
第3回	データ活用のための基礎知識 <ul style="list-style-type: none">データの種類、コンピュータ内でのデータの扱い(数字、文字)プログラミング実習(Wolfram言語におけるデータ処理)
第4回	データ活用のための技術(データ解析、非構造化データ) <ul style="list-style-type: none">データ解析とは、非構造化データ(画像、音、音声)の扱いプログラミング実習(画像、音、音声処理)
第5回	第2回から第5回のまとめ <ul style="list-style-type: none">小テストおよび講評
第6回	プログラミング言語概論 <ul style="list-style-type: none">プログラミング(アルゴリズムとデータ構造)、プログラミング言語の歴史、種類と特徴プログラミング実習(条件分岐、反復等の基本制御)
第7回	プログラミング実習 <ul style="list-style-type: none">プログラミング実習(アートプログラミング)

第8回	AIの事例 自然言語処理(1) <ul style="list-style-type: none">テキスト解析(形態素解析, 構文解析)プログラミング実習(文字列処理, テキストの文法構造)
第9回	AIの事例 自然言語処理(2) <ul style="list-style-type: none">テキスト解析(意味解析, 辞書とコーパス)プログラミング実習(Wolfram言語の知識ベース)
第10回	第6回から第9回のまとめ <ul style="list-style-type: none">小テストおよび講評アートプログラミング課題の作品発表・ディスカッション
第11回	データサイエンスの基礎 <ul style="list-style-type: none">AIと統計学の関係, データの種類と収集方法, ヒストグラムと基本統計量, 統計解析プログラミング実習(可視化, 基本統計量の計算, 相関関係)
第12回	データビジュアライゼーション <ul style="list-style-type: none">様々な可視化(グラフ, ワードクラウド, 地図上の可視化)プログラミング実習(データビジュアライゼーション)
第13回	機械学習とは <ul style="list-style-type: none">AIと人間の学習の違い, 教師あり学習・教師なし学習とは, 機械学習(分類, 予測), 生成AIプログラミング実習(Wolfram言語の機械学習, 分類, 予測)
第14回	AIが社会に与える影響 <ul style="list-style-type: none">AI活用における課題と未来(AIと仕事, AIと上手く付き合うには)プログラミング実習(Wolfram言語のAI)
第15回	全体のまとめ <ul style="list-style-type: none">まとめのテストおよび講評データビジュアライゼーション課題のレポート発表・ディスカッション本授業の総括
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	プレゼンテーション／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none">・毎回、講義とプログラミング実習を交えた授業を行なう。・実習では主にWolfram言語を使い、講義で学習した内容を実際に体験することで理解を深める。また、必要に応じて作成したプログラムを提出する。・授業後は毎回responを使って理解度をはかり、コメントを収集する。・月に1回程度の小テストを実施し、理解度を確認する。テストの結果を元に講評を行い、必要に応じて再度講義に取り入れるなどして理解の定着を図る。・プログラム実習や課題は自宅からオンラインでもできるので、授業で学んだことを復習すること。積極的・主体的に学んでほしい。
準備学習の具体的な方法	<ul style="list-style-type: none">・事前に配布するテキストで、予習をして授業に参加すること。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は事前に予告するので、準備をして参加すること。・AI、データサイエンス関係の事柄に日頃から興味を持ち、ニュースなどをよく見ておくこと。・前時の内容の復習をしっかりとしておくこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	授業参加度(30%), レポート・課題(30%), 小テスト・まとめテスト(40%)の総合点で評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none">・プログラミングの知識・経験は問わないが、PCの基本操作やテキスト入力ができることを前提として授業を進める。・授業の内容をベースにして、オリジナルのプログラムを作って提出するなど、発展的な取り組みを歓迎する。

ノートPCの授業での利用	なし(講義室に設置のPCにて実習を行う)
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト				
後日指定				
参考文献				
大学基礎データサイエンス	伊藤大河・河村和也・内田瑛・河合麗奈	実教出版	978-440-7361-223	
参考URL				
Wolfram データサイエンスとAI: https://www.wolfram.com/featureset/data-science/ Wolfram Alpha: https://www.wolframalpha.com/ Wolfram Programming Lab : https://www.wolfram.com/programming-lab/				

実務経験のある教員による実践的科目	現在、最先端のAI技術を含むプログラム言語をベースにしたアプリケーションのマーケティングや開発業務に携わっている教員が、その経験を生かし講義を行う。 日本のIT企業にて自然言語処理処理の研究開発に長年携わる、現在はWolfram Alpha LLCコンサルタント。
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI1400A0J		
科目名	情報演習 I a A		
副題			
担当教員	大谷 俊郎		
単位数	1単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	月曜4限
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員	40名	備考	「情報演習Ib」を修得すると履修することはできない

科目の教育目標	コンピュータシステムの基本的な操作（電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。 学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、マウスとキーボードの基本操作、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを実習を通して実践的に身につける。さらに、大学のネットワーク環境、クラウド環境についても習得する。
教育・学習の個別課題	以下の操作の基礎スキル（大学での課題解決や研究に活用できるレベル）を習得する。 ・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護） ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法 ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解 ・大学内コンピュータシステム利用のネットワーク環境、クラウドに関する理解 ・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用 ・マウスとキーボード操作、タッチタイピングの習得 ・論文作成のための日本語文書作成 ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用 ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用 ・ファイルの拡張子に関して、ファイルの管理、フォルダの概念の理解

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などではできるが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっていないが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

NDカリキュラム			学修率
ND1	自分を育てる力		-
ND2	知識・理解力		-
ND3	言語力		-
ND4	思考・解決力		100%
ND5	共生・協働する力		-
ND6	創造・発信力		-

授業計画	
第1回	ガイダンス ガイダンス、PCの基礎知識、PCのマウスとキーボード入力の基礎、manabaの利用について、学内の設備利用に関して、タッチタイピング練習
第2回	コンピュータ環境の利用 OSの理解、Windowsの基本操作、フォルダとファイルの管理、ファイルの拡張子に関する理解、日本語入力の基礎、大学での電子メールの操作、情報検索
第3回	大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用 本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用法など）
第4回	日本語文書作成ソフトの基本操作(1) 実習用データのダウンロードと解凍（展開）の操作、Wordについて基本的な文書を作成しよう Officeアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint）のバージョンを調べる方法 大学提供のOffice365に関して、デスクトップ版との違いなど
第5回	日本語文書作成ソフトの基本操作(2) Wordでの図や表の作成と挿入、SmartArtグラフィックスの作成、Excelグラフの挿入、図表番号の設定、画像ファイルの取り扱いと加工について
第6回	表計算ソフトの基本操作(1) Excelの基本操作、データの入力、ブックの保存とフォルダ管理 各目のタッチタイピングの練習結果をExcelで管理
第7回	表計算ソフトの基本操作(2) 表を作成しよう（罫線の設定、数式の入力、SUM/AVERAGE/MAX/MINなどの関数の利用、小数点以下の処理、他）
第8回	表計算ソフトの基本操作(3) グラフを作成しよう（グラフの機能、グラフの作成、他） 各自のPCやスマホで作成したファイルのクラウド保存、大学のプリンタでの印刷に関して
第9回	表計算ソフトの基本操作(4) 表を印刷しよう（用紙の設定、ヘッダーとフッターの設定、PDFでの保存、他） 大学の演習室でのプリンタ利用環境の確認、大学で作成したファイルのクラウド保存に関して Excelの練習問題（表の作成、関数の利用、グラフの作成）
第10回	プレゼンテーションソフトの基本操作(1) PowerPointの基本操作の確認、プレゼンテーションを作成しよう タッチタイピングの中間報告
第11回	プレゼンテーションソフトの基本操作(2) オブジェクトを挿入しよう（図形の作成、画像の挿入、表の作成、SmartArtグラフィック、他）、プレゼンテーションの構成を変更しよう

第12回	プレゼンテーションソフトの基本操作(3) プレゼンテーションに動きを設定しよう（アニメーションの設定）、プレゼンテーションの印刷と各種の形式でのPDF保存、音声入力および動画への変換、他
第13回	日本語文書作成ソフトの基本操作(3) 長文のレポートを編集しよう（ページ番号の挿入、見出しの設定、脚注の挿入、他）
第14回	日本語文書作成ソフトの基本操作(4) 文章を校閲しよう（校閲機能を使った表記の統一、表記のゆれチェック、検索と置換、他） タッチタイピングの速度の確認、授業内容の総復習
第15回	Word/Excel/PowerPointの実技確認テストとまとめ 【最終課題】としての実技確認テストの実施、終了後に講評
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	Windows/パソコンでの実習をベースに授業を行う。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや授業中に示された資料を通じて理解する。
準備学習の具体的な方法	復習を兼ねた複数の課題を作成・提出してもらうので、期日までに提出すること。さらに、最終日に実施される【最終課題】としての「実技確認テスト」は必ず受けること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	15
評価方法・評価基準	通常課題の提出を中心とした授業参加度を「60%」、「実技確認テスト」としての【最終課題】の提出を「40%」とした総合点で評価する。タッチタイピングの学期末の速度は後者に含む。
留意事項	2024年度までのP検（ICTプロフィシエンシー検定）3級以上、もしくはMOS(Microsoft Office Specialist)の2科目以上(Wordともう1科目)を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

ノートPCの授業での利用	情報演習室での授業のため、演習室のデスクトップパソコンを利用する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト			
『情報リテラシー アプリ編<改訂版>（Windows 10／Office 2019対応）』	富士通エフ・オー・エム	FOM出版	978-4-86510-418-9
参考文献			
参考URL			

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI1401P0J		
科目名	情報演習 I b P		
副題			
担当教員	吉田 智子		
単位数	1単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	メディア利用（学則第13条第2項適用） 「情報演習Ia」を修得すると履修することはできない

科目の教育目標	コンピュータシステムの基本的な操作（電子メール、WWW、蔵書検索システムの利用など）や、レポートや論文作成に必要な基本的な概念や操作（文書作成、ファイル管理、印刷方法など）を習得する。これらは、大学での課題解決のためや、情報を分析評価し整理し、文書にまとめて発表するという、大学での研究活動に必要な不可欠な技能である。 学生として、さらには社会人としての業務を行うのに不可欠である「情報モラル」の理解、マウスとキーボードの基本操作、キーボードからのタッチタイピングの習得、日本語文書作成ソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作に関しては、高校卒業までに学んだことの復習も含めて、大学での論文作成（データの分析と考察、含）や論文発表に使えるレベルを、実習を通して実践的に身につける。さらに、大学のネットワーク環境、クラウド環境についても習得する。 なお、このクラスは第1回目のみ対面授業を実施するが、それ以降は、オンライン授業（オンデマンド方式）での授業実施を予定している。
教育・学習の個別課題	・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護） ・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法 ・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解 ・大学内コンピュータシステム利用のネットワーク環境、特にクラウドに関する理解 ・研究活動推進のためのE-Mailの利用、情報検索の活用 ・マウスとキーボードの基本操作、タッチタイピングの習得 ・論文作成のための日本語文書作成 ・論文作成（特に、データの分析と考察）のための表計算ソフトの活用 ・論文発表のためのプレゼンテーションソフトの活用 ・ファイルの拡張子について・ファイル管理・フォルダの概念の理解

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの利用に関する操作と知識	ログインとログアウトの必要性、ファイルとフォルダの利用などを意識したことがない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作など是可以するが、必要性は理解できていない	ログインとログアウト、ファイルとフォルダの操作などが、概念を理解して実施できている	コンピュータシステムの利用に関する知識が豊富で、人に概念と操作の両方が説明できる
タッチタイピングの習得	キーボードを見て、キーを探しながら入力している	タッチタイピングの重要性はわかっているが、練習不足でタッチタイピングはできていない	タッチタイピングの重要性をわかり練習中で、キーを見ないでほぼ入力できる	タッチタイピングを完全に修得済みである
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書は作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に、日本語文書を作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な日本語文書を自分で作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能を自由自在に使って、レポートや論文を作成することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（基本的な関数、グラフの利用も含）を作成することができる	データの分析と考察のために必要となる機能も含めて、表計算ソフトを自由自在に活用することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	例題で紹介された操作を応用させて、基本的な文書（アニメーションの設定も含）を作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
Webによる情報収集と蔵書検索システムの利用	Webによる情報収集や蔵書検索システムの利用ができない	例題どおりの操作であれば、操作マニュアルの指示を参考に、利用することができる	例題で紹介された操作を応用させて、Webによる情報収集や蔵書検索システムが利用できる	自分の書きたいレポートや論文に必要な情報を、Webによる情報収集や蔵書検索システムを利用して入手し、効果的に利用することができる
パソコンでの電子メールの利用	パソコンでの電子メールを利用できない	授業で扱う例題どおりの内容のメールであれば、操作マニュアルの指示を参考に電子メールを書いて送ることができる	自分が送りたい内容の電子メールを、件名や宛先、本文に書くべき項目を正しく含み、送ることができる	メール内容の著作権や、相手の電子メールシステムの添付ファイル上限サイズも考慮し、適切な件名や宛先、自分の署名などを含む、形式の整った電子メールを書き、送ることができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

NDカリキュラム			学修率
ND1	自分を育てる力		-
ND2	知識・理解力		-
ND3	言語力		-
ND4	思考・解決力		100%
ND5	共生・協働する力		-
ND6	創造・発信力		-

授業計画	
第1回	ガイダンス【対面授業】 ガイダンス、ファイルの拡張子について、E-mailの利用、manabaについて、学内の施設利用に関して、タッチタイピング練習
第2回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 コンピュータ環境の利用 OSの理解、フォルダとファイルの管理、ファイル管理、入力の基礎、情報検索
第3回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 大学図書館を中心とした蔵書検索システムの利用

	本学の図書館の活用（OPACの利用・文献探索・データベース活用法など）
第4回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 日本語文書作成ソフトの基本操作(1) Wordについて、基本的な文書を作成しよう
第5回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 日本語文書作成ソフトの基本操作(2) 図や表を挿入しよう
第6回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 表計算ソフトの基本操作(1) Excelについて、データを入力しよう
第7回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 表計算ソフトの基本操作(2) 表を作成しよう（罫線の設定、数式の入力、関数の入力、他）
第8回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 表計算ソフトの基本操作(3) 表を印刷しよう（用紙の設定、ヘッダーとフッターの設定、PDFでの保存、他）
第9回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 表計算ソフトの基本操作(4) グラフを作成しよう（グラフの機能、グラフの作成、他）
第10回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 プレゼンテーションソフトの基本操作(1) PowerPointについて、プレゼンテーションを作成しよう
第11回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 プレゼンテーションソフトの基本操作(2) オブジェクトを挿入しよう（図形の作成、画像の挿入、表の作成、他）、プレゼンテーションの構成を変更しよう
第12回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 プレゼンテーションソフトの基本操作(3) プレゼンテーションに動きを設定しよう（アニメーションの設定）、プレゼンテーションを印刷と各種の形式でのPDF保存、音声入力および動画への変換、他
第13回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 日本語文書作成ソフトの基本操作(3) 長文のレポートを編集しよう（見出しの設定、脚注の挿入、他）
第14回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 日本語文書作成ソフトの基本操作(4) 文章を校閲しよう（校閲機能を使った表記の統一、他）、タッチタイピングの速度の確認、授業内容の総復習
第15回	【オンライン（オンデマンド）を利用】 実技確認テストとまとめ 実技確認テストとしての【最終課題】の実施とmanabaでの提出。終了後にmanabaで講評
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	オンライン：全ての回をオンラインで実施
アクティブラーニングの要素	実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	Windowsパソコンでの実習をベースに授業を行う。テキストでは、Windows10／Office2019をベースに解説しているため、macOSの利用者の場合、テキスト内容が実際の操作と異なる場合がある。 このクラスは第1回目は対面授業を実施するが、それ以降は、オンライン（manabaでの教材提示を利用したオンデマンド方式）での授業実施を予定している。
準備学習の具体的な方法	復習を兼ねた複数の課題をmanabaで提出してもらうので、期日までに必ず提出すること。さらに、最終日に実施される「実技確認テスト」としての【最終課題】は必ず受け、直ちにmanabaで提出する必要がある。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	15
評価方法・評価基準	通常課題の提出を中心とした授業参加度を「70%」、【最終課題】を含むテストとしての提出物を「30%」とした総合点で評価する。
留意事項	manabaを利用したオンライン（オンデマンド方式）で授業が実施されるため、授業概要、特にどのような提出物をいつ提出する必要があるかを授業開講時に把握しておく必要がある。 オンデマンド方式で実施するため、質問のある学生は、システム管理課のサービス窓口（ユージニア館2階の情報サポート窓口やシステム管理課）を利用するなど、対面での指導が受けられる機会を積極的に活用して主体的に学びを進めること。 2024年度までのP検（ICTプロフィシエンシー検定）の3級以上、もしくは MOS（Microsoft Office Specialist）の2科目以上（Wordともう1科目）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて（こちらでコピーを取って原本は返却します）、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト			
情報リテラシー アプリ編 Windows10 Office2019対応	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM出版	978-4-86510-418-9
参考文献			
参考URL			

実務経験のある教員による実践的科目

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI2400A0J		
科目名	情報演習Ⅱ A		
副題			
担当教員	大谷 俊郎		
単位数	1単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	月曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員	35人	備考	「情報演習I」を履修していることが望ましい

科目の教育目標	大学や企業・組織で日常的に使われている日本語文書ソフトと表計算ソフト、及びプレゼンテーションソフトに関して、応用スキルを習得する。今後の学生生活・社会生活において、適切なツールを的確かつ効率よく使いこなせる技術・能力を習得することを目標とする。
教育・学習の個別課題	以下の操作の応用スキル（研究活動、社会人として活用できるレベル）を習得する。 <ul style="list-style-type: none">・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解・日本語文書ソフト・表計算ソフト（表計算、グラフ、データベース、関数、データ分析）・プレゼンテーションソフト・ソフトとソフト間の相互利用

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
日本語文書作成ソフトの操作	日本語文書作成ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの文書であれば、操作マニュアルの指示を参考に作成することができる	表や画像などの表現力をアップさせる機能、目次の自動生成など、必要な機能を使って、レポートや論文を作成することができる	自由自在に日本語文書作成ソフトを操作することができる
表計算ソフトの操作	表計算ソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりの表であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	各種の関数を利用、複数のシートの操作、データベースの活用など、必要な機能を使って操作することができる	自由自在に表計算ソフトを操作することができる
プレゼンテーションソフトの操作	プレゼンテーションソフトを使った文書を作成できない	授業で扱う例題どおりのプレゼンテーション画面であれば、操作マニュアルの指示を参考に、作成することができる	特殊効果、アニメーションの設定を含めて、必要な機能を使って操作することができる	自由自在にプレゼンテーションソフトを操作することができる
各種ソフトの選択と統合	作成する文書に適したソフトを選んだり、統合したりできない	授業での指示を参考に、作成する文書に応じたソフトを選んだり、他のソフトで作ったものを統合したりできる	例題で紹介されたソフトの選択と統合を応用させて、ソフトを統合させた文書を作成することができる	Word、Excel、PowerPointで実現可能な文書が自由自在に作成できる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

NDカリキュラム			学修率
ND1	自分を育てる力		-
ND2	知識・理解力		-
ND3	言語力		-
ND4	思考・解決力		100%
ND5	共生・協働する力		-
ND6	創造・発信力		-

授業計画	
第1回	ガイダンス <ul style="list-style-type: none">・情報モラルに関する理解（情報の信憑性と知的財産権の保護）・図書館の利用法・文献探索・データベース活用法・情報の分析評価、整理、アウトプットに関する理解・PC操作スキルの確認、文書作成基本操作の確認など
第2回	日本語文書作成ソフトの応用操作(1) <ul style="list-style-type: none">・図表の挿入・表現力をアップする機能など
第3回	日本語文書作成ソフトの応用操作(2) <ul style="list-style-type: none">・長文レポートの編集・文書の校閲・目次の自動作成など
第4回	日本語文書作成ソフト総復習 <ul style="list-style-type: none">・日本語文書作成ソフトの機能確認・ビジネス文書作成など
第5回	プレゼンテーションソフトの基本操作 <ul style="list-style-type: none">・プレゼンテーションの作成・オブジェクトの挿入・アニメーションの設定などスライドの基本的な作成方法など
第6回	プレゼンテーションソフトの応用操作 <ul style="list-style-type: none">・別アプリのデータ活用

	<div>・スライドマスターの編集</div> <div>・役立つ機能・応用的な使い方など</div>
第7回	<div>プレゼンテーションソフト総復習</div> <div>・プレゼンテーションの流れ</div> <div>【テスト】PowerPoint文書の作成と提出</div>
第8回	<div>表計算ソフトの基本操作</div> <div>・データの入力</div> <div>・表の作成</div> <div>・グラフの作成など</div>
第9回	<div>表計算ソフトの応用操作(1)</div> <div>・絶対参照・相対参照</div> <div>・表の編集</div> <div>・表の印刷など</div> <div>【テスト】Excel文書1の作成と提出</div>
第10回	<div>表計算ソフトの応用操作(2)</div> <div>・複合参照</div> <div>・複数シートの操作</div> <div>・ユーザー定義の表示形式</div> <div>・条件付き書式の設定など</div>
第11回	<div>表計算ソフトの応用操作(3)</div> <div>・関数の利用</div> <div>論理関数（IF、AND、OR）</div> <div>統計関数（COUNTA、COUNTIF）</div> <div>検索関数（VLOOKUP）</div> <div>統計関数（FREQUENCY）など</div>
第12回	<div>表計算ソフトの応用操作(4)</div> <div>・データベースの操作</div> <div>ソート、抽出、集計</div> <div>【テスト】Excel文書2の作成と提出</div>
第13回	<div>表計算ソフトを利用したデータ分析</div> <div>・高度なグラフ作成</div> <div>・データベースの応用など</div>
第14回	<div>表計算ソフトの総復習</div> <div>・ピボットテーブルの作成</div> <div>・マクロの利用など総復習</div> <div>表計算ソフトの総復習</div>
第15回	<div>実技確認テストとまとめ</div> <div>【テスト】最終課題の作成・提出</div> <div>解答・解説、まとめ</div>
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	実習を行いながら操作と概念を習得する。実習課題を行うために必要となる知識については、テキストや資料を通じて理解する。
準備学習の具体的な方法	【復習課題について】 毎授業復習問題を提示するので、事後学習として実施し期限までに提出すること。 【その他】 プレゼンテーションソフトの課題は、課題作成時に必要となる情報収集などの事前準備を要する（テーマは事前に授業内で提示する）。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	15
評価方法・評価基準	授業参加度・授業態度（復習問題の提出、授業への取り組み姿勢を含む）（50%）、課題（50%）の総合点で評価する。
留意事項	MOS（Microsoft Office Specialist）の3科目以上（Word/Excel/PowerPoint/Accessのうちの3科目以上）を取得した学生は、この科目の単位として認定を受けることができる。単位認定を希望する学生は、「単位認定申請書」に必要事項を記入し、合格証書の原本を添えて、期日（認定を希望する学期の授業最終日）までに教務課に申し出ること。資格などが認定された日の翌日から起算して3年を経過した日を申請の期限とする。ただし、これらの検定に合格している学生が、普通にこの授業を受けることを選択することも可能であり、その場合は、評価の点数を得ることができる（単位認定の場合は、成績表には「認定」とだけ記述され、GPAに算入されない）。

ノートPCの授業での利用	必要としない
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト				
情報リテラシー アプリ編<改訂版> (Windows 10/Office 2019対応)	富士通エフ・オー・エム	FOM出版	978-4-86510-418-9	「情報演習Ⅰ」と同じ書籍です
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等）に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI1450N0J		
科目名	SNSコミュニケーションスキル		
副題			
担当教員	神月 紀輔		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	月曜5限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	メディア利用（学則第13条第2項適用）

科目の教育目標	インターネットやSNS(Social Network Service)の仕組みや内容を概観し、特性を理解しながら望ましいネットコミュニケーションのあり方を考え実践する。	
教育・学習の個別課題	・SNSの特性を知ること ・ネット上でのコミュニケーションの方法を考えることができる ・ネット上のトラブル回避や、相談期間の使い方を知る ・どのような機器になっても、コミュニケーションに必要な事柄を考えることができる	

ループリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ネットの特性を理解しようとしな	人の話を聞こうとする	自分以外の人の考えに耳を傾ける	広い視野で物事を判断しようとする
知識・理解力	デジタルの知識を得ようとしな	デジタル技術の仕組みを知ろうとする	デジタル技術の仕組みを理解している	仕組みを理解したうえで、SNSのコミュニケーションの特性を理解している
言語力	わかりにくい言葉で話す	わかりやすい言葉を選ぶことができる	専門的な英語の略語などの意味を理解できている	英語でのメッセージのやり取りの方法を知っている
思考・解決力	トラブルがあっても放置する	コミュニケーションのトラブルについて考える	得られた知識を使いコミュニケーションについて問題を解決しようとする	動画や静止画・スタンプ・絵文字などの特性を理解し、ネットへの投稿ができる。
共生・協働する力	人と一緒に問題解決に当たらない	問題解決を周囲の人と当たろうとする	人の助けになろうとする。	関係機関やネット上の検索なども用いて、周囲の人と一緒に問題解決に当たる
創造・発信力	SNSなどを使つてのネットコミュニケーションに興味がない	自分で考えて発信することができる	周囲の人や通信の相手のことを考えた発信ができる	相手にわかりやすい手段を創造し、よりよいコミュニケーションをすることができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	オリエンテーション この授業の進め方
第2回	現在の青少年のネット利用
第3回	機器の発達とSNS
第4回	パソコン通信からインターネットへ
第5回	SNSの黎明期 電子掲示板（BBS）
第6回	電子メールとSNS、i-mode
第7回	SNSの躍進 Mixi
第8回	SNSの発展 Facebook X
第9回	LINE Instagram TicTokなど
第10回	SNSコミュニケーションの特性
第11回	LINEマスターになろう
第12回	子供たちに指導するには

第13回	トラブルに巻き込まれたら
第14回	未来型SNS これからのSNS
第15回	まとめと自己評価
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	オンライン：全ての回をオンラインで実施
アクティブラーニングの要素	PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	身の回りにあるネットコミュニケーションの特性などに興味を持ちながら授業を受け、その内容を基に新たに自分としてどのようにSNSやネット上のコミュニケーションを進めればいいのか考える。 基本的には復習中心でよいが、既習の内容をどのように生かしていくかの思考力は自分で伸ばす必要がある。 授業後は毎回responを使って理解度をはかり、コメントを収集する。
準備学習の具体的な方法	日々の情報関係の事柄に興味を持ち、ニュースなどをよく見ておくこと。 前時の内容の復習をしっかりとっておくこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	授業を受ける態度（40%）：コメントなどの提出（内容も含む） 以前の自分と変わったかの自己評価（40%）：アンケートをとり、それを基に自己評価する コミュニケーションを取ろうとする態度（20%）：この授業におけるオンラインでのコミュニケーションに参加しようとする姿勢を評価する
留意事項	トピックは新しいSNSができた場合などで変更することがある。

ノートPCの授業での利用	すべてオンラインのため、ネットにつながるPCを準備してください。
教員への連絡方法	manabaを利用／オフィスアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI2450A0J		
科目名	情報処理 A		
副題			
担当教員	伊藤 泰子		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	水曜1限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員	35人	備考	

科目の教育目標	インターネット上で使えるさまざまなサービス（機能）は、新しいコミュニケーション手段であり、情報伝達のためのメディアである。その中心は電子メールとWebページと言える。それらの操作を覚えるのはむずかしくないが、それを活用できる能力（ネットワークリテラシー）を身につけるには、教育が必要である。 この科目では、各機能の特性、多様性や可能性を理解するために、講義に加えて実習も行う。Webページの制作では、HTMLタグを直接記述する方法でのページを記述し、情報発信力を習得する。さらに、コンピュータの本質を理解するために、プログラミング実習も行う。
教育・学習の個別課題	<ul style="list-style-type: none">・コンピュータの基礎知識・インターネットの機能としくみ・電子メールのコミュニケーション特性・Webを利用した情報検索・情報発信の役割を持つWebサーバーや全文検索システムのしくみの理解・プログラミング入門・画像ファイル、テキストデータのファイル形式と役割・HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性・HTMLとCSSによるWebページ制作実習

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータシステムの理解	コンピュータシステムに興味がない	利用しているコンピュータシステムのOSの名前を知っている程度である	利用しているコンピュータシステムを理解しようとし、専門知識を学んでいる	利用しているコンピュータシステムについての専門知識が豊富で、他人にも説明できる
ネットワークリテラシーの習得	ネットワークリテラシーに興味がない	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみの理解が必要なことを知っている	ネットワークリテラシーの力として、電子メールや情報検索のしくみを理解しようとし、専門知識を学んでいる	ネットワークリテラシー関連の専門知識が豊富で、他人にも説明できる
Webページによる情報発信の方法と可能性の理解	Webページによる情報発信に興味がない	授業で扱う例題どおりのWebページであればHTMLを記述して、公開できる	自分が情報発信したい内容のWebページを制作して、公開できる	著作権や、画像のファイルサイズも考慮し、適切なタイトルや項目名のWebページを制作して、公開できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも可能性にも興味がない	OSやアプリケーションがプログラムで記述されていることを知っている	授業で扱う例題のプログラムが理解できる	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス ・授業概要の説明
第2回	コンピュータの基礎知識 ・メモリ、補助単位 ・ハードウェア ・ソフトウェア
第3回	インターネットでできること ・インターネット上の機能（電子メール、Webページなど）の理解と利用 ・電子メールのコミュニケーション特性と配送のしくみの理解
第4回	データ・ファイル形式について ・メーリングリストの登録 ・バイナリデータ、テキストデータのデータ形式と役割 ・画像形式の種類と特徴

第5回	コマンドを利用したコンピュータ操作 ・ディレクトリ（フォルダ）の階層構造の理解 ・コマンド実習
第6回	Webページの批判的閲覧 ・Webページを利用した情報検索
第7回	World Wide Webについて ・HTMLで記述するWWWの情報提供のしくみと可能性
第8回	Webページ制作実習(1) HTML基本 ・文書構造の定義
第9回	Webページ制作実習(2) HTML応用 ・画像挿入 ・リンク設定 ・表作成など
第10回	Webページ制作実習(3) CSS基本 ・文書構造要素に対するデザイン作成
第11回	Webページ制作実習(4) CSS応用 ・IDやクラスを使った細かなデザイン作成
第12回	Webページ課題作成(1) ・サイト企画
第13回	Webページ課題作成(2) ・コンテンツ、デザイン作成
第14回	課題提出とまとめ ・ファイル転送によるWebページの学内公開、 ・まとめテスト、解答・解説
第15回	プログラミング実習 ・JavaScriptを利用したプログラミング実習
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	講義と実習を交えながら授業を行なう。適宜、小テストやレポート課題も課す。教科書として、『改訂新版インターネット講座』を使う。 フィードバックとして、試験・レポート提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。
準備学習の具体的な方法	講義対象となる教科書のページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。さらに、小テストや授業中に書くレポートや課題が課せられる場合は、事前に予告するので、準備をして参加すること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	授業参加度（30%）、レポート・課題（20%）、テスト（50%）の総合点で評価する。
留意事項	本科目を履修するにあたっては、「情報演習I」を履修済か、その内容をすでに習得していること。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト				
改訂新版インターネット講座	吉田智子 他	北大路書房	9784762828300	
参考文献				
参考URL				
https://mirailogical.com/yito/nd/ipro.html				

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。
-------------------	----------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI2452N0J		
科目名	プログラミング演習		
副題			
担当教員	伊藤 泰子		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	火曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員	35人	備考	

科目の教育目標	プログラミングを通して、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していけるような、論理的・創造的な思考、及びプログラミング技術を養うことを目標とする。 はじめはビジュアルプログラミングソフト・Scratchを利用し、簡単なブロック操作でプログラムの流れを理解する。次に基本的なアルゴリズムについて学習し、適切な問題解決方法について考える。最後はJavaScriptを使い、本格的なコード記述式のプログラムを作成し、実践的なプログラミングスキルを習得する。
教育・学習の個別課題	・基本制御構造を理解 ・イベントに対応したプログラムの作成 ・代表的なアルゴリズムの理解と評価 ・コード記述式のプログラムの作成

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
制御構造の理解	制御構造がわからない	個々の制御構造が理解できる	制御構造を組み合わせてコーディングできる	逐次・選択・反復を適切な順序で組み合わせて、要求に応じたプログラムを完成できる
イベントに対応したプログラム作成	イベントがわからない	イベントの種類がわかる	イベントに対応した処理が実行できる	ユーザーエクスペリエンスを意識したプログラムを作成できる
アルゴリズムの理解	アルゴリズムを知らない	代表的なアルゴリズムを知っている	代表的なアルゴリズムが理解できる	代表的なアルゴリズムをプログラムで表現できる
プログラミングの記述と可能性の理解	プログラミングの記述にも可能性にも興味がない	授業で扱う例題どおりのプログラムであれば記述して、実行できる	与えられた課題のプログラムを記述して、実行できる	自分が作りたいプログラムの仕様を考えて記述し、実行できる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス ・授業概要の説明 ・Scratch アカウントの作成など
第2回	Scratchの基本 ・ステージ、スプライト、スクリプトとは ・「動き」「見た目」「音」ブロックの利用
第3回	プログラムの基本1 ・「制御」ブロックの利用 ・繰り返し処理 ・分岐処理
第4回	プログラムの基本2 ・「変数」ブロックの利用
第5回	イベント処理 ・「イベント」ブロックの利用
第6回	イベント処理 ・「メッセージ」ブロックの利用
第7回	Scratchの応用 ・ブロック定義 ・リストの利用

第8回	アルゴリズム 1 ・累計・平均、サーチ（線形探索）、最大値最小値
第9回	アルゴリズム 2 ・ソート（バブルソート、選択ソート、挿入ソート）
第10回	アルゴリズム 3 ・ソート（シェルソート、クイックソート） ・アルゴリズムの評価
第11回	Webページ作成技術 ・HTMLとCSS JavaScript 1 ・JavaScriptとは
第12回	JavaScript 2 ・基本制御構造（順次、反復、選択）
第13回	JavaScript 3 ・イベントを利用したコードプログラミング
第14回	JavaScript 4 ・イベントを活用したプログラミング作成
第15回	JavaScript 5 ・JavaScript復習課題
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	プレゼンテーション／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	実習形式で行う。適宜、演習課題や小テストも課す。フィードバックとして、課題・テスト提出後に解答の解説・要点のまとめを行う。
準備学習の具体的な方法	【復習課題について】毎授業、復習問題を提示するので、自分のペースでじっくり復習しながら問題を解いておくこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	授業参加度（40％）、課題（50％）、テスト（10％）の総合点で評価する。
留意事項	

ノートPCの授業での利用	使用しない。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト
参考文献
参考URL
http://www.notredame.ac.jp/~yito/prog/index.html

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》システム構築、Webサイト構築、アプリ制作などの実務経験あり。
-------------------	----------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGS3500A0J		
科目名	英語英文学演習Ⅰ		
副題			
担当教員	大川 淳		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	水曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	90	前提科目	
定員		備考	必修

科目の教育目標	本講義ではアメリカの短編小説を精読し、また先行研究および批評理論に関わる文献を渉猟することによって、文学に関わる専門知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。 前期は毎回の予習範囲を最小限にとどめ、小範囲のテキストを文法および一語一句が包摂する意味や比喩を読解しながら読むことを目指す。 これらの目標を踏まえ、英語を正確に読む力を養い、また文学だけではなく、世界にあふれている物事について、多角的に考える力を修得する。
教育・学習の個別課題	1. テキストを精読する。（Close Reading） 2. 批評的視点を習得する。 3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。 4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチ。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力：文学テキストの原書精読の努力を惜まず、積極的に学問と向き合う姿勢がある。	できない	できる	優れている	非常に優れている
知識・理解力：文学作品の背景を理解し、精読を通じて文学知識を習得している。	できない	できる	優れている	非常に優れている
言語力：原書の英語を辞書を用いて正確に読むことができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている
思考・解決力：テキストの分析を通じて、作品の考察を論理的に行うことができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている
共生・協働する力：ディスカッションを通じて、他者の意見を理解することができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている
創造・発信力：ディスカッションを通じて自分の意見を発信することができる。またテキストの考察を論理的に構築することができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	100%
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	Introduction：Theodore Dreiserの文学
第2回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp.1-5）
第3回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp.5-9）
第4回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp. 10-14）
第5回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp. 15-19）
第6回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp. 20-24）
第7回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の考察に関するpresentation・先行研究調査
第8回	Kate Chopin "Regret"の精読と読解(pp. 11-13)

第9回	Kate Chopin "Regret"の精読と読解(pp. 14-16)
第10回	Kate Chopin "Regret"の考察に関するpresentation・先行研究調査
第11回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" (pp.42-44)
第12回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" (pp.42-45)
第13回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" (pp.46-49)
第14回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" (pp.50-51)
第15回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" の考察に関するpresentation・先行研究調査
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	<p>本講義で行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。</p> <p>したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。</p> <p>授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語（文法）レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。</p> <p>プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。</p>
準備学習の具体的な方法	全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。 プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	平常点 40％ 授業態度、ゼミへの貢献度、Presentation Final paper 60％
留意事項	

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィシアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト	
参考文献	
参考URL	

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	CSB1600P0J		
科目名	基礎演習Ⅰ P		
副題			
担当教員	堀 勝博		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	木曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	必修 クラス指定

科目の教育目標	「基礎演習」は、国際日本文化学科1年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。前期の基礎演習は、大学の授業の履修方法や単位習得の仕組みを理解すること、大学生として求められる「調べる」「読む」「書く」「話す」といった基本的な日本語能力を養うことを目標とする。また、大学の中で新しい人間関係を構築していくことも目標とする。
教育・学習の個別課題	1 大学での「学び」および授業や単位の仕組みについて理解する。 2 基礎的な日本語力を実践的に習得する。 3 図書館の利用の仕方を理解し、文献や資料を収集する。 4 時事問題を理解する。 5 レポートの書き方の基礎的な方法を理解する。 6 レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。 7 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組み、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組み、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見を持ち、他者に伝えようとしない。	自分の意見を持ち、他者に伝えようすることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段と手法によって伝えることができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 国際日本文化学科

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	ガイダンスー自校教育（大学の沿革、建学の精神等）、自校教育（大学の学歌） （学生手帳に載っている資料を中心に）
第2回	日本語能力を高めるためには キャリア・ガイダンス
第3回	敬語とは何か 実践的なノート・テイキング
第4回	敬語の要点 時事問題：社会・環境
第5回	漢字と表記 図書館について
第6回	言葉の意味 図書館での資料検索
第7回	語彙と文法 著作権、剽窃と引用（引用のルール、剽窃・盗作、知的財産権へ配慮等）

第8回	個人面談（１） 時事問題：国際
第9回	日本語能力の把握
第10回	word、excel を活用した文書、メール、レポートの書き方・文献読解（１）－内容把握(オンライン)
第11回	外部講師による一斉授業またはフィールドワーク（近隣施設の見学）
第12回	文献読解（２）－精読（オンライン）
第13回	文献読解（３）－要約作成とクリティカル・リーディング
第14回	文献読解のまとめ－ふり返りとレポート作成
第15回	個人面談（２）、前期まとめ－後期にむけて
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	ブレンド：対面とオンライン併用で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）／反転授業
教育・学習・フィードバックの方法	1 授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。 2 一部の回はオンラインで実施する可能性がある。 3 情報検索方法を学び、実践する。 4 収集した資料を読み内容を理解する。 5 理解した内容をレポートにまとめてみる。 6 レポートに対するコメントを読み、レポートを完成させる。
準備学習の具体的な方法	1 テキストを読んで、内容を理解しておく。 2 疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。 3 課題に対して積極的に取り組む。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	以下の方法・基準によって評価する。 （１）課題への取組姿勢と内容：70％ （２）学期末提出レポート：30％ ただし、欠席 5 回以上で、単位の取得は困難となる。
留意事項	授業の順序や内容は変更することがある。 オンライン授業の回は変更することがある。 外部講師による招待講演を実施することがある。 学外ヘフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。 見学（近隣の施設）または講師を招待しての一斉授業は、実施回を変更する可能性がある。また、社会情勢などによって中止することがある。

ノートPCの授業での利用	レポート作成のための調査・執筆上の指導を受けたりする際に使用する予定である。
教員への連絡方法	manabaを利用／その他（教員より別途指示）

テキスト				
『知のナビゲーター』	中澤務・森貴史・本村康哲編	くろしお出版	978-4-87424-372-5	2007年4月
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGF1150A0J		
科目名	英語英文学基礎演習 II A		
副題			
担当教員	田口 茂樹		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	月曜4限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	本科目では、前期基礎演習Iで習得した「学びの方法」に関する知識を実践的に応用し、英語英文学科での「学び」の主要トピック（英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学・英語学、外国語習得・教授法、等）に関して具体的な学びに触れながら、二年次以降の専門教育の履修が円滑に進むよう準備を行う。特に論文（レポートおよびAcademic Paper）の書き方に焦点を当て、様々なタイプの論文を執筆する方法を獲得する。
教育・学習の個別課題	1.英語英文学科の学びの中心である、英語圏文学文化、コミュニケーション、言語学、英語学、および英語教育学の基礎を概観し、それぞれに対する知的関心と興味を養う。 2.上記それぞれの学術領域における基本的な論文（レポート・Academic Paper）の書き方を習得し、二年次以降の本格的な専門学習に必要なアカデミックスキルを養う。 3.英語英文学科の学生として学びのコミュニティを形成し、自律的であると同時にお互いが刺激、援助し合える学びの環境を構築する。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を獲得できていない。	自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を獲得しつつある。	自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を獲得できている。	自らに相応しい学びの形を構築するための基礎的な知識と態度を獲得し、明確な学習設計を行う力を持っている。
知識・理解力	大学での学びに必要な基礎的な考え方、概念が理解できない	大学での学びに必要な基礎的な考え方、概念を理解できる。	大学での学びに必要な基礎的な考え方、概念を理解し、これらを批判的に検討できる。	大学での学びに必要な基礎的な考え方、概念を理解し、これらを活用して自らの学習・研究を進められる。
思考・解決力	人文学・人文科学における表象や現象を客観的に記述したり分析的に捉えることは難しい	人文学・人文科学における表象や現象を客観的に記述することはできるが、分析的に捉えることは難しい	人文学・人文科学における表象や現象を客観的に記述し、分析的に捉えることができる	人文学・人文科学における表象や現象に関する自身の分析を一般化（理論化）し、モデルの検証ができる。
共生・協働する力	様々な現象の記述・分析に関して他者の意見を参考にできない	様々な現象の記述・分析に関して他者の意見を踏まえた上で自らの考えを深めることができる。	様々な現象の記述・分析に関して他者の意見を利用し、自らの考えを批判的に再検討することができる。	レベル3の能力を他者にも推奨し、これを促進することができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	100%
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	Orientations / Critical Thinking Revisited
第2回	Argumentation & Debate
第3回	領域別演習 Session 1 Week 1: on Critical Review（文献の批判的レビュー）
第4回	領域別演習 Session 1 Week 2: on Research Questions（問題・課題の設定）
第5回	領域別演習 Session 1 Week 3: on Analysis（分析の行い方）
第6回	領域別演習 Session 1 Week 4: Peer Review & Revision
第7回	領域別演習 Session 2 Week 1: on Critical Review（文献の批判的レビュー）
第8回	領域別演習 Session 2 Week 2: on Research Questions（問題・課題の設定）

第9回	領域別演習 Session 2 Week 3: on Analysis （分析の行い方）
第10回	領域別演習 Session 2 Week 4: Peer Review & Revision
第11回	領域別演習 Session 3 Week 1: on Critical Review （文献の批判的レビュー）
第12回	領域別演習 Session 3 Week 2: on Research Questions （問題・課題の設定）
第13回	領域別演習 Session 3 Week 3: on Analysis （分析の行い方）
第14回	領域別演習 Session 3 Week 4: Peer Review & Revision
第15回	Review & Discussion
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	<1> 英語英文学科の学びの中心である四つの学術領域に関して導入講義演習を行う。 <2> それぞれの領域におけるCritical Literature Reviewを行う。 <3> 受講生が自らの意思で選択した1領域（あるいは複合領域）における研究論文を完成させる。
準備学習の具体的な方法	学期を通じ、各領域（文学、言語学、コミュニケーション学）で研究論文を1本ずつ完成させる。各領域の研究論文執筆にそれぞれ4週間を費やし、4週間の中でCritical Literature Review、Peer Review、Revision等の演習を行う。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	45
評価方法・評価基準	(1) 授業参加（出席、講義へのリアクション、作業、WSの提出等）25 % (2) Assignment 1 (各領域のセッション内で指示する) 5 x 3 = 15 % (3) Assignment 2 (Review Paper or Research Paper：試験に相当：各領域で解説) 20 x 3 = 60 %
留意事項	本科目は、4名の教員による共同開講形式で展開され、合同演習と個別演習によって構成される。個別演習期間は受講生はグループに分割され、それぞれのグループが個別演習（文学、言語学、コミュニケーション学領域）をそれぞれ順に受講する。受講する個別演習の順序、教室などについては授業中の指示に従うこと。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィシアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	CSB1650P0J		
科目名	基礎演習 II P		
副題			
担当教員	朱 鳳		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	木曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	必修 クラス指定

科目の教育目標	後期の「基礎演習」は、前期での学びをさらに深め、2年次の「発展演習」へと繋げていく授業である。この授業では、「調べる」「読む」「書く」といった基本的な能力を高めるとともに、基本的なプレゼンテーションの方法を習得することを目標とする。また、教員や友人と互いに学び合う関係を構築していくことを目指している。
教育・学習の個別課題	(1) 資料を読み、書かれた内容を理解する。 (2) 資料に書かれた内容について考察する。 (3) 基本的なプレゼンテーションの方法を習得する。 (4) 人の意見を聞く態度を養う。 (5) 学生や教員と互いに学び合う関係を築く。 (6) レポートの書き方の基礎を修得するとともに、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見を持ち、他者に伝えようとしない。	自分の意見を持ち、他者に伝えようとするすることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段と手法によって伝えることができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 国際日本文化学科

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	オリエンテーション、文献読解（1）－人口減少の先にあるものは－
第2回	文献読解（2）－いのちの現場から－（オンライン）
第3回	文献読解（3）－流動化する世界－（オンライン）
第4回	レポート作成（1）－大学での学びとライティング、わかりやすく説明する－
第5回	レポート作成（2）－説得力のある主張をする－
第6回	レポート作成（3）－レポートの基礎知識、レポートを書く－、大学図書館を利用してみる

第7回	レポート作成（４）－引用・注・参考文献表、ミニレポートを書く－
第8回	－斉授業－分属説明会－
第9回	個別面談
第10回	プレゼンテーション（１）－大学での学びとプレゼンテーション、プレゼンテーションとは－(オンラン)
第11回	プレゼンテーション（２）－高度なプレゼンテーションをする－
第12回	プレゼンテーション（３）－ドキュメントを使ったプレゼンテーション－
第13回	公共図書館を利用してみる（歴彩館訪問予定）
第14回	プレゼンテーション（４）－発表とピアレビュー－
第15回	学期末レポート準備、基礎演習（後期）まとめ－発展演習にむけて－
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	ブレンド：対面とオンライン併用で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	（１）授業は全体講義とクラス別のゼミによって行う。 （２）一部の回はオンラインで実施する。 （３）文献や資料を読み内容を理解する。 （４）文献や資料に書かれた内容について考察する。 （５）自身の考察をレポートにまとめる。 （６）プレゼンテーションの基礎的な方法を理解する。 （７）プレゼンテーションを行い、質疑応答に参加する。 （８）プレゼンテーションの内容をレポートにまとめる。
準備学習の具体的な方法	（１）テキストを読んで、内容を理解しておく。 （２）課題に関連する参考文献や資料を調査する。 （３）自分の考えがどのように表現できるか検討しておく。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	以下の方法・基準によって評価する。 （１）課題への取組姿勢と内容：70％ （２）学期末レポート：30％ ただし、欠席５回以上で、単位の取得は困難となる。
留意事項	授業の順序や内容は変更することがある。 オンライン授業の回は変更することがある。 外部講師による招待講演を実施することがある。 学外へフィールドワークに出ることがあり、その際は交通費等の実費がかかることがある。

ノートPCの授業での利用	・プレゼンテーション資料作成などで利用する。
教員への連絡方法	manabaを利用／その他（教員より別途指示）

テキスト				
『知のナビゲーター』	中澤務・森貴史・本村康哲編	くろしお出版	978-4-87424-372-5	2007年4月出版
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	SLF1301A0J		
科目名	生活環境基礎演習Ⅰ A		
副題			
担当教員	司馬 麻未		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	金曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	本演習では、「自校教育」を通して、対話から始まる学びの道筋を確認し、大学生での学びの目標を設定する。さらに、「読む」「書く」といった言語力を高める演習を通して、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を修得し、レポート作成時における「文献（引用文献や参考文献）」の適切な引用方法を身につける。また、本大学・本学科での学習に必要な基礎的技能を修得し、現代日本の生活や福祉、社会における諸問題について主体的に考える力を養う。 本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、4年間を見通した学習や活動の計画を立てるとともに、4年後の社会人として巣立つ自身を思い描くことを促しつつ「キャリア」そのものの考え方を理解することを目的とする。
教育・学習の個別課題	1) 自校教育を通じて学びの目標を設定する。 2) 一定期間に決められた分量の文章を読みみる。 3) 要約の方法を身につける。 4) レポート作成を通して文章の書き方や文献の調べ方、引用の仕方、剽窃等のルールを身につける。 5) 夏期休暇中に文献を読むことを課題とする。これは生活環境基礎演習Ⅱの評価に加える。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力・言語力	要約することができない。	文章を読んで指定された箇所を要約できる。	書き手の意図を踏まえて適切に要約できる。	本全体における指定された章の位置づけを把握しながら書き手の意図を踏まえて適切に要約できる。
思考・解決力・創造・発信力	レポートを作成できない。	要約と意見を踏まえてレポートを作成できる。	要約と意見を踏まえて、さらに文献を調べて内容を深めたレポートを作成できる。	要約と意見を踏まえてレポートを作成し、素地の中で新しい見方や考え方を深めた考察に入れられる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 生活環境学科

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	100%
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス 基礎演習Ⅰの授業概要および大学での学びについて
第2回	キャリア講座
第3回	学修カウンセリング①(個別面談等)
第4回	ノートの取り方
第5回	情報リテラシー①（メールの書き方）
第6回	情報リテラシー②（引用の仕方と剽窃）
第7回	自校教育(学歌含む)
第8回	図書館文献検索講習
第9回	PCの使い方(Word) 要約①(テキストの読み方)
第10回	要約②(前回課題の振り返りと修正)
第11回	レポートの書き方①(形式と内容、引用の仕方)

第12回	レポートの書き方②(前回課題の振り返りと修正)
第13回	PCの使い方(Excel) レポートの作成
第14回	学修カウンセリング②(個別面談、個別振り返り等)
第15回	全体の振り返り
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／反転授業
教育・学習・フィードバックの方法	1) 少人数単位のクラスに分かれて実施する。 各クラスに属する学生と担当教員は終始変わらず、生活環境基礎演習Ⅱ～Ⅳのクラスと同一である。 2) テキストや配付プリントに沿って進めていく。毎週課題が出されるので、次回までに行うこと。 3) 提出された課題は、教員がコメントをつけて返却する。コメントは見直し、修正できるように復習すること。 4) 教員や受講生同士での対話を重視する。受講生からの積極的な発言を期待する。
準備学習の具体的な方法	1) コメントをつけて返却された課題は、必ず見直し、修正すること。 2) 毎回の授業までに必ずテキストを読み、予習しておくこと。 3) 毎週課題が出される。次回までに仕上げて授業に臨むこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	原則全出席とする。 授業態度、課題の取り組み、各テキスト終了時のレポート課題に対して総合的に評価する。 評価は授業参加度(30%)、授業における課題への取り組み状況(40%)、レポート(30%)により行う。
留意事項	「授業計画」から内容や順番が変更になることがある。変更点や授業で使用する文献の情報等は、その都度授業のなかでアナウンスする。毎回必ず出席すること。

ノートPCの授業での利用	必要に応じて適宜使用する。ノートPC、USBを使用する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト				
知へのステップ 第5版	学習技術出版会編	くろしお出版	9784874247891C1081	その他は別途案内する。
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmgs-support@notredame.ac.jp

授業コード	SLF1251A0J		
科目名	生活環境基礎演習Ⅱ A		
副題			
担当教員	司馬 麻未		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	金曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	本演習では大きく2つの学びの軸を置く。第1は、生活環境基礎演習Ⅰを通して得た基礎的スキルを踏まえて、「食べる」「装う」「住まう」「営む」「支える」をテーマとした学内での体験グループ活動を通して、生活環境に関わる幅広い知識と基礎技能を身につけることを目的とする。その体験で得られた知見を文献調査の裏付けによって発展的にまとめる学習を通して、理解力を高め、基礎的学習スキルを磨く。第2の軸は、社会調査の基本的な知識や考え方を身につけ、物事を客観的に見る力を養うことである。 本学科の第1学年の入門科目として位置づけ、前期の振り返りと4年間を見通した学習やその他の活動計画を立てることを通して学生生活や自身の歩む道を明確にし、「キャリア獲得」への意識を高める。
教育・学習の個別課題	1) 5つのテーマワークでの体験から広く生活環境の基礎を学び、2年次以降の専門的な学びを意識する。 2) 社会調査の基本的な知識や考え方を身につけ、物事を客観的に見る力を養う。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
衣食住、生活経済、福祉に関わる幅広い知識と基礎技能を身につける	衣食住、生活経済、福祉に関わる知識を説明できない	衣食住、生活経済、福祉に関わる複数領域の知識を説明できる	衣食住、生活経済、福祉に関わる3つ以上の領域の知識を説明できる	衣食住、生活経済、福祉に関わる知識を広く総合的に説明できる
社会調査の知識と基礎技能を身につける	社会調査の知識や考え方を身につけようとしな	社会調査の基本的な知識や考え方が理解できる	社会調査の基本的な知識や考え方をを用いて、物事を客観的に説明することができる	レベル3に加えて、レポート作成の際に活かすことができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 生活環境学科

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス: 基礎演習Ⅱの授業概要の説明
第2回	キャリア講座
第3回	テーマワーク①「装う」
第4回	テーマワーク②「食べる」
第5回	テーマワークの振り返りと学びの共有
第6回	テーマワーク③「住まう」
第7回	テーマワーク④「営む」
第8回	テーマワーク⑤「支える」
第9回	テーマワークの全体の振り返り
第10回	社会調査① 社会調査の基本（知識、方法）
第11回	社会調査② 調査票の作成
第12回	社会調査③ 倫理的配慮
第13回	ここまでの振り返りと学びの共有
第14回	生活環境基礎演習Ⅳと合同授業

第15回	「基礎演習」全体の振り返り
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	1) 生活環境基礎演習Ⅰと同一クラスを構成する。 2) 各テーマワークによる体験からの学びをクラスで共有する。 3) 5つのテーマワークによる体験からの学びを踏まえて、日々の実践の中から現代日本の生活環境の諸課題を取り上げ、その課題解決のための方策を提起していくことを目指した1年次研究レポートを作成する。 4) 講義や演習を通して、社会調査の基本的な知識や考え方を身につける。
準備学習の具体的な方法	1) コメントをつけて返却された課題は、必ず見直し、修正すること。 2) 毎回の授業までに指定された部分のテキストを読み、予習しておくこと。 3) 課題は、次回までに仕上げて授業に臨むこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	40
評価方法・評価基準	(1) 授業参加度（テーマワークレポートを含む）：50％ (2) レポート：50％（開講前課題も含む）
留意事項	授業内容に変更または順番が入れ替わる可能性がある。変更がある場合は、授業内でアナウンスをするので、授業には毎回必ず出席すること。 テーマワークは内容により担当者が異なるので、担当者の指示に従うこと。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	PSB1100N0J		
科目名	心理学基礎演習Ⅰ		
副題			
担当教員	伊藤 一美、武藤 翔太、空間 美智子、薦田 未央		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	火曜4限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	必修

科目の教育目標	共に学ぶ友人や心理学科教員との関わりを通して、大学での学びの基盤を形成する。そして、日本語の文章や数字で表されるデータについて、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に磨きをかける。 初年次ゼミであることから、本学の建学理念や学歌、学内のリソース等を知り、4年間の学修イメージを作っていく。 また、上級生や卒業生等ゲストスピーカー等との交流等を通じて、心理学を活かしたキャリアイメージを醸成する。
教育・学習の個別課題	①大学での学習に必要な基礎的日本語能力やデータ活用の基礎の習得を通じて、アカデミックリテラシーを身につける。その中でも、大学生として正しいレポートの書き方の基礎を習得し、レポート作成時の「文献（引用文献や参考文献）」の適切な扱い方を身につける。 ②資料やデジタルファイルの管理方法、オンラインを用いた学習方法について習得する。 ③学生同士あるいは正・副担任を核とした学科教員との人間関係を構築する。 ④社会の中での心理学の役割や職種についての知識を習得し、専門教育に向けて動機づけを行い、社会的視野を広げる。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	心理学の学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることができる程度できる	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることがかなりできる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	ある程度グループ活動を他者と協力して行うことができる	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行う力がかなりある
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がかなりある

ND6

授業計画	
第1回	全体オリエンテーション（学生・教員とも同室） ・統括からの授業のシラバス・スケジュールの説明 ・学生と教員やTA（大学院生）との交流、連絡方法の確認など ※テーマA・B・C・Dについては、グループ単位での活動なので、グループによって順序と教室が異なる。 以降、全体もしくはグループ単位で教員全員が担当。
第2回	テーマA「大学というフィールドを知ろう」（情報収集編） ・小グループに分かれて学内ラリーを行い、学内の学習環境、キリスト教関連のスポットなどを把握 ・ND手帳の利用、manabaなどの機能を用いて情報共有
第3回	テーマA「大学というフィールドを知ろう」（発展・活用編） ・小グループに分かれて学内ラリーを行い、学内の学習環境、学生生活支援のリソースなどを把握 ・ND手帳の利用、manabaなどの機能を用いて情報共有
第4回	全体会Ⅰ（NDを知ろう・NDの心理学教育を知ろう） ・本学の沿革や建学の精神を学ぶ ・本学の学歌を学ぶ ・ND心理学科の特徴とコースについて知る
第5回	テーマB「好きなものをPRしよう」（紹介編） ・グループやペアで、自分の好きなもの（メディア、推し、ペット、食べ物、地元などなど）を紹介 ・紹介文となるレポート作成 ・関連する既存情報や既存データの引用を学ぶ
第6回	テーマB「好きなものをPRしよう」（チラシ作成編） ・紹介文となるレポートを推敲 ・WordやPowerPoint等を用いたPRチラシ作成
第7回	全体会Ⅱ（心理学科のコースや資格・6モデルについて） ・各コースの学びの流れを知る ・学科での学びや取得できる資格を把握する ・6つのモデルでの学びについて理解する

第8回	中間オリエンテーション（前半の振り返り） ・各グループごとに、担当教員とともに前半の活動振り返り ・グループ担当教員との個別面談（学修カウンセリング）
第9回	テーマC「商品試験をしてみよう」（評価ポイント探索編） ・身近なアイテム（例：消しゴム）について、観察 ・小グループに分かれて、情報共有し、評価のポイントを考え、商品試験（＝実験）の計画立案を開始
第10回	テーマC「商品試験をしてみよう」（実験編） ・グループに分かれて、実験を実施 ・評価データをExcelに入力、グラフ・表に加工 ・グループないしは個人でレポート作成に着手
第11回	テーマC「商品試験をしてみよう」（発展編） ・実験結果をPowerPointにまとめる（グループないしは個人） ・グループでのプレゼンテーション、あるいは相互評価 ・活動の振り返り
第12回	テーマD「レポートを作成しよう」（基礎編） ・レポートの種類を知り、アカデミックライティングの基礎を学ぶ（Word活用を含む） ・文献引用の方法など研究倫理の基礎を学ぶ ・いくつかの指定テーマ、あるいはそれ以外から、関心のあるものを選ぶ
第13回	テーマD「レポートを作成しよう」（作成編） ・複数の指定テーマ（それ以外でもOK）について、各自でショートレポートを作成 ・文献の引用方法について意識付けを行う
第14回	テーマD「レポートを作成しよう」（相互評価編） ・作成したショートレポートを（名前を伏せて）相互に閲覧 ・指定された他の受講生のレポートについて相互に講評を（名前を伏せて）伝える ・レポート作成を含む研究倫理についてのまとめ
第15回	全体の振り返り ・各グループごとに、担当教員とともに前半の活動振り返り ・グループ担当教員との個別面談（学修カウンセリング）
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	グループに分かれて、ローテーション方式で行う。内容は、 ①教員によるオリエンテーション ②各自での調べ学習・レポート等の作成、③グループでの作業 ④ディスカッション・相互評価 ⑤発表 ⑥その他。 上級生やOGの体験報告会の聴講、本学でのコースでの学びの紹介などを行う予定。 課題に対するフィードバックは、授業中またはmanabaで行う。
準備学習の具体的な方法	1. 高校までの国語・数学の学習や総合的な学習の時間での発表学習を繰り返す 2. 前回までの授業内容を確認し、分からないことがあれば質問できるように準備する 3. 小レポートの作成や発表に向けた準備等、指示された課題に取り組む 4. 日ごろから社会の出来事や身の回りの事柄から、心に関わる現象について関心に向け、テーマを拾っていく
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	授業参加度・授業態度70%、発表・レポート30%とする。
留意事項	グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。 そのため、グループによってテーマA・B・C・Dの実施順は異なる。 回によって教室が異なるので、オリエンテーション時の資料に従い、その都度気を付けること。 実習遂行についての懸念がある場合には、初回のオリエンテーション時、あるいはmanabaや授業前後に個別に、グループ担当教員や統括教員に相談すること。

ノートPCの授業での利用	オリエンテーションや各テーマで指示する。 個人用ノートPCは必須ではない。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	PSB1350N0J		
科目名	心理学基礎演習 II		
副題			
担当教員	仲倉 高広、中藤 信哉、尾崎 仁美、下田 麻衣		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	火曜4限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	必修

科目の教育目標	友人や心理学科教員との関わりを深め、心理学科の専門科目を学ぶ基盤を形成する。そして、「読むこと」「理解すること」「書くこと」「伝えること」の力に、さらなる磨きをかける。また、心理学を活かしたキャリアについてゲストスピーカーや上級生との交流を通して学ぶ。
教育・学習の個別課題	1.アカデミックリテラシーの構築（読むこと、理解すること、文章や図・表にまとめること、発表すること等） 2.人間関係の構築（学生同士および担任を核とする心理学科教員との関わりを深める） 3.専門教育への導入（心理学科の専門教育を受けるための基盤形成） 4.社会の中での心理学の役割や職種についての知識習得（専門教育に向けて動機づけを行い社会的視野を広げる）

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	学習を通して、自分を育てる動機がみられない	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をある程度持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をおおむね持っている	心理学の学びを通して、自分を育てる動機をかなり持っている
知識・理解力	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な知識がかなりある
言語力	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がみられない	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がある程度ある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がおおむねある	心理学を学ぶために必要な基礎的な言語力がかなりある
思考・解決力	与えられた課題について、考えることが難しい	与えられた課題について、考えることができる程度できる	与えられた課題について、考えることがおおむねできる	与えられた課題について、考えることができる
共生・協働する力	他者と協力して活動することが難しい	グループ活動を他者と協力して行うことができる程度できる	グループ活動を他者と協力して行うことがおおむねできる	グループ活動を他者と協力して行うことができる
創造・発信力	自分の考えを表現することが難しい	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がある程度ある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がおおむねある	自分の考えを言葉や文章で表現する基礎力がかなりある

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 心理学科 コース配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	100%
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	全体オリエンテーション *教員全員担当
第2回	テーマA（心理学の文献を読む－文献講読とディスカッション） *半数のグループは、テーマBに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第3回	テーマA（心理学の文献を読む－発表と振り返り） *半数のグループは、テーマBに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第4回	テーマB（グラフを読み取ろう－身近なグラフ探し） *半数のグループは、テーマAに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第5回	テーマB（グラフを読み取ろう－グラフの読み取り） *半数のグループは、テーマAに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第6回	全体会 I（フィールド研修・インターンシップについて） *教員全員担当
第7回	テーマC（情報メディアから社会を覗いてみよう－社会における課題や問題について調べる、考える） *半数のグループは、テーマDに取り組む。 *教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。

第8回	テーマC（情報メディアから社会を覗いてみよう－ディスカッションと発表資料の作成） ＊半数のグループは、テーマDに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第9回	テーマC（情報メディアから社会を覗いてみよう－発表と振り返り） ＊半数のグループは、テーマDに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第10回	中間オリエンテーション（前半の振り返り） ＊各グループごとに、担当教員とともに振り返りを行う
第11回	テーマD（データ集計を体験しよう－質問紙調査のブレ体験） ＊半数のグループは、テーマCに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第12回	テーマD（データ集計を体験しよう－発表資料作成） ＊半数のグループは、テーマCに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第13回	テーマD（データ集計を体験しよう－グループ発表） ＊半数のグループは、テーマCに取り組む。 ＊教員はグループ単位に分かれて、全員が担当。
第14回	全体会Ⅱ（就職内定者報告、資格・コース選択説明） ＊教員全員担当
第15回	まとめ ＊各グループごとに、担当教員とともに振り返りとまとめを行う。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	AからDの各テーマをグループに分かれてローテーション方式で学ぶほか、全体会やグループに分かれての振り返りを行う。具体的な内容としては、①教員によるオリエンテーション ②グループでの作業 ③討論 ④発表 ⑤小レポート ⑥その他、上級生やOGの体験報告会の聴講などを行う予定。課題に対するフィードバックは、授業中またはmanabaで行う。
準備学習の具体的な方法	・心理学基礎演習Ⅰの授業内容について、前期のmanabaコースを見ながら学習内容を振り返っておくこと。また、前期に獲得した力と、獲得できなかった力を振り返る。 ・前回までの授業内容を確認し、分からないことがあれば質問できるように準備する。 ・小レポートの作成や発表に向けた準備等、指示された課題に取り組む。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	40
評価方法・評価基準	授業参加度・授業態度70%、発表・レポート30%とする。
留意事項	グループごとにローテーション形式ですべてのテーマを体験する。そのため、グループによってテーマA・B・C・Dの実施順は異なり、回によって教室が異なるので、気を付けること。テーマAおよびCは佐藤・松島、テーマBおよびDは中藤・仲倉が担当予定である。 全体会の内容は、変更される場合もある。

ノートPCの授業での利用	A～Dのテーマにより、ノートPCを授業で利用することがある。ノートPCを利用する場合は、事前に各テーマの担当教員より連絡を行う。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EDB1203N0J		
科目名	こども教育基礎演習		
副題			
担当教員	神月 紀輔、高田 佳孝、石井 浩子、古庵 晶子、太田 容次、田中 裕喜、佐藤 真太郎、園田 雪恵、藤本 陽三、河佐 英俊、江川 正一、栗栖 ゆみ子、内田 洋子、荻原 桂子		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	木曜1限
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	必修

科目の教育目標	大学生生活に必要な基礎知識を身につける。
教育・学習の個別課題	教育・保育ための基礎的な学習課題を見つけ、今後の学習を進めることができるようにする。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教育・保育に興味を持ってない。	教員としての力をつけようとする。	自主的に文献を読み、理想の教員の姿を創造できる	積極的に研究会やボランティアに参加し、そのことを生かして、目指すキャリアに近づこうとする。
知識・理解	教育に関する情報から知識を得ようとしていない。	学習指導要領などを理解し、学校や保育園の現状や実情を知識として持っている。	文部科学省や厚生労働省のWebページなどから最新の情報を得ようとする。	自ら得た情報に加え、教員や文献を用い、自主的に知識を得ようとする。
言語力	文章表現力に乏しく、外国語に関しても興味が無い。	大学生としてのレポート等の書き方がおおむね理解できる。	様々な人とのコミュニケーションをとるために、自主的に言語の学習をしている。	卒業論文程度の文章力を持ち、また、外国語に関してもコミュニケーションの手段として積極的に活用し、外国語の文献を理解しようとする。
思考・解決力	問題の解決を人にゆだねてしまっている。	これまでの学習を生かし、自ら問題を解決しようとする。	これまでの学習や経験を活かし、自ら問題解決を探り、他の学生や教員などとも一緒に解決の道を探る。	先行研究などを生かし、問題に関して熟考し、筋道を立てて問題を解決しようすることができる。
共生・協働する力	他の学生とのディスカッションを行わない。	他の学生とのディスカッションにより学ぼうとする	学生だけでなく、教員や現職教員からも学ぼうとする。	自らがリーダーになって、積極的にディスカッションを働きかけ、自分以外の学生の学びも考える。
創造・発信力	自分の考えを、人にわかる言葉で表現できない。	自分の考えを、序論・本論・結論の形でまとめることができる。	他者の意見を参考にしながら、自分の意見をまとめ、レポートや論述としてまとめることができる。	国内外の事例なども参考にしながら、広い視野で自分の考えをまとめ、プレゼンテーションやWebページなどに発信できる。

ND6

授業計画	
第1回	オリエンテーション（神月） なぜ女子大で学ぶのか、設立の理念、この大学の学びの特徴、カレッジソングを聴く
第2回	将来の自己実現に向けて、大学生生活の目標とスケジュール（神月）
第3回	良い文章を書くには（荻原） わかる文章、ストレートにわかる文章、レポート作成
第4回	読むこと（田中） 要点をつかむ、感想を述べる
第5回	引用の方法、剽窃・盗作のないように（佐藤）
第6回	情報処理演習（Word）（神月）
第7回	情報処理演習（Excel）（神月、全員）
第8回	民主主義社会の一員として「大人としての自分自身について」（河佐）
第9回	自立した女性を目指して「女性の体と健康」（内田）
第10回	大学での学び「主体的に学ぶこと」（太田）
第11回	こども教育学科での学び「教育・保育者を志して」（田中）
第12回	幼稚園・保育園の保育とは（石井・園田）
第13回	小学校の教育とは（栗栖）
第14回	「将来への自己実現に向けて、大学生生活の目標とスケジュール（修正）」（神月）
第15回	4年後の私にメッセージ（全員）
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク
教育・学習・フィードバックの方法	グループディスカッションや自学自習を基本とし、教員からの話を基に、自分の知識を磨いていく。 各回ごとの担当教員から出される課題への対応が求める。
準備学習の具体的な方法	出席できるように体調を整えること。 新聞・テレビ・インターネットなどの情報を活用し、保育・教育に対して、積極的に情報を収集しておく。 学びに対して、わからないところを事前に調べたり、教員に質問したりして、自ら積極的に取り組める準備をしておく。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	*授業への主体的な参加・意欲・態度（40％） *各講義の担当者より課された課題を評価する（60％）
留意事項	この授業は、こども教育フィールド研修と連動して行う。 一部、オンライン授業を実施する可能性もある。授業時にアナウンスするので、留意すること。 学科で作成した「こども教育ハンドブック」を購入すること。購入については講義で連絡する。

ノートPCの授業での利用	各講義担当者の指示に従うこと。 講義の内容によっては、PCやタブレットの持参を支持されることもあり得る。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL
授業中に指示する。

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》 有資格者として勤務経験あり（石井） 教員として学校勤務経験あり（神月、藤本、河佐、江川、栗栖、太田、園田、高田、佐藤） 病院等での診療経験あり（内田）
-------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EDB1500N0J		
科目名	こども教育フィールド研修		
副題			
担当教員	高田 佳孝、石井 浩子、神月 紀輔、古庵 晶子、太田 容次、田中 裕喜、佐藤 真太郎、園田 雪恵、藤本 陽三、河佐 英俊、江川 正一、栗栖 ゆみ子、内田 洋子、荻原 桂子		
単位数	1単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	木曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	必修

科目の教育目標	保育所の保育士や保育士経験者、幼稚園・小学校の教員や教員経験者などの話を聴き、各学校園の観察実習をおこなった上で、自身のコース選択の視点を獲得する。
教育・学習の個別課題	①保育現場での保育士や保育士経験者の話を丁寧に聴き取り、理解することができる。 ②教育現場での教員や教員経験者の話を丁寧に聴き取り、理解することができる。 ③保育・教育現場についての知識を深め、教職を目指すことの責任を理解し、その後のコース選択、講義等に活かすことができる。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
学びに向かう力	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、説明できない	これから自分自身にどういった学びや経験が必要か、おおまかに説明できる	これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる	自身のキャリアを見据え、これからどういった学びや経験が必要か明確に説明することができる
キャリア選択	自らの考えでコース選択をすることができない	講義内容を踏まえて、自らの考えでコース選択をすることができる	講義内容を踏まえたり将来のキャリアを見据えたりして、自らの考えで納得したコース選択をすることができる	
社会人基礎力	観察実習や講話において、社会人の基礎として相応しい態度を実践できない	観察実習や講話において、社会人の基礎として相応しい態度を、教員からの助言に基づいて実践できる	観察実習や講話において、社会人の基礎として相応しい態度を十分に理解し、自ら実践できる	
協働する力	グループで共有したり話し合ったりすることができない	グループで共有したり話し合ったりするなど、他者と関わるができる	グループで共有したり話し合ったりする良さを理解し、積極的に他者と関わるができる	レベル3に加え、協働によって、最適解を検討することができる。
知識・理解力（保育・教育現場の話）	保育・教育現場についての話を聴いて、理解することができない	保育・教育現場についての話を聴いて、ある程度、理解することができる	保育・教育現場についての話を聴いて、整理して理解することができる	保育・教育現場についての話を聴いて、子どもや指導者の姿をイメージしながら、理解することができる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 こども教育学科 コス配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	100%
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	講義オリエンテーション（履修相談/抗体確認/グループ確認など）
第2回	キャリア（主に保育職や教育職）について
第3回	保育所とはどんなところか・保育士の仕事
第4回	保育所観察実習事前指導
第5回	保育所観察実習
第6回	保育所観察実習のリフレクション
第7回	幼稚園とはどんなところか？・幼稚園教諭の仕事
第8回	幼稚園観察実習事前指導

第9回	幼稚園観察実習
第10回	幼稚園観察実習のリフレクション
第11回	小学校とはどんなところか・小学校教諭の仕事
第12回	小学校観察実習事前指導
第13回	小学校観察実習
第14回	小学校観察実習のリフレクション
第15回	コース分属説明会（各担任ごとの面談と相談）
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	①教員によるオリエンテーション ②保育・教育現場でのインタビュー ③実習や講話後の振り返り、レポート作成 なお、レポートについては、教員が添削しフィードバックする。
準備学習の具体的な方法	自分の子どもの頃の学習の記録・学習の作品類を見直し、保育所または幼稚園・小学校などのそれぞれの教育現場で、子どもの姿はどのようなものなのか、指導者の言動はどのようなものなのかなどの観点を整理しておく。また、現職保育士や現職教員の話を聴く者としての、態度・姿勢なども十分考えておく。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	15
評価方法・評価基準	授業参加態度（40点）、観察実習への主体的な参加（10点×3回＝30点）、観察実習のレポート（10点×3回＝30点） ＊レポートは手書きで集め、採点后実習先の保育所、幼稚園、小学校へ届ける。 ＊保育・教育現場についてのブレンド型授業のため、原則、すべて出席すること
留意事項	・保育・教育現場の事情、または社会状況により、シラバス通りとならない可能性があるため、担当教員のアナウンスを聞き、留意すること。 ・保育・教育現場の現職教員や実習経験者の講話については、適切な聴く態度、受講姿勢を心掛けること。 ・こども教育基礎演習と連携しながら演習を進める。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目≫有資格者として勤務経験あり（石井） 教員として学校勤務経験あり（藤本、河佐、江川、高田、太田、園田、佐藤、栗栖、神月）
-------------------	-----------------------------------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	INF1401N0J		
科目名	社会情報基礎演習Ⅰ		
副題			
担当教員	吉田 智子、北村 美穂子		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	木曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	「社会情報基礎演習」は、社会情報学環の1年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。特に前期に実施される「社会情報基礎演習Ⅰ」は、大学の学びや研究で求められる基本的な能力を養うことを目標とする。また、この授業を通して大学での新しい人間関係として、学生が教職員と互いに学び合う関係性を築くことも目指している。
教育・学習の個別課題	1. 社会情報課程での「学び」について理解する。 2. 図書館の利用の仕方を理解し、文献や資料を収集する。 3. 自分のキャリアを考える機会を持つ。 4. 情報技術の基礎や情報リテラシーを実習を通して学ぶ。 5. データを活用した問題解決方法を知る。 6. 自校教育（本学の沿革、建学の精神、学歌など）を学ぶ。 7. 学生が教職員と互いに学び合う関係性を築く。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組み、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組み、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを、言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見を持ち、他者に伝えようとしない。	自分の意見を持ち、他者に伝えようすることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段と手法によって伝えることができる。

ND6

授業計画	
第1回	ガイダンス（この授業の位置づけの理解と今後の予定の把握）、ND手帳をテキストに大学での学びについての概要　＜講義室にて＞
第2回	【大学での学び方入門①～自校教育を題材に～】大学の授業のメモの取り方講座 自校教育（創立者マザー・テレジア・ゲルハルディンガー、シスター・キャロライン、シスター・ユーージニア、他）を題材にメモを取りながら授業を受ける、学歌を暗記して歌えるようになるまでの計画　＜講義室にて＞
第3回	【大学での学び方入門②～レポートの作成～】大学の授業のレポートの書き方講座（引用規則など）、卒業研究を目標とした学びの道筋　＜講義室にて＞
第4回	【大学での学び方入門③】図書館とOPACの活用、論文や情報の検索　＜演習室にて＞
第5回	【キャリアを考える①】キャリア講座（社会人基礎力、インターンシップ等の内容を知ろう、他）、キャリアセンター紹介　＜講義室にて＞
第6回	【キャリアを考える②】情報関連のキャリアに関するゲスト講義（実施回は変更の可能性あり）＜講義室にて＞
第7回	【情報技術に親しむ①】メールを使った大学生としてのコミュニケーション技法、OneDriveを活用したファイル保存　＜演習室にて＞
第8回	【情報技術に親しむ②】メモ帳を利用したテキスト文書の作成からのWebページ作成入門　＜演習室にて＞
第9回	【学修カウンセリング①】社会情報学環で習得可能な資格に関して、期末レポートに関して学びに関して（情報交換）＜講義室にて＞
第10回	【学修カウンセリング②】個別面談の実施、教員とのメールでのコミュニケーションによる情報交換（実習）＜演習室にて＞
第11回	【情報技術に親しむ③】Wolfram Alphaの利用　～AI、プログラミング、知識データベースの実践(1)～　＜演習室にて＞
第12回	【情報技術に親しむ④】Wolframプログラミング環境の利用　～AI、プログラミング、知識データベースの実践(2)～　＜演習室にて＞
第13回	【社会情報での学び①】社会情報学環でのこれからの学びに関してのガイダンス、各自の前期の振り返り　＜講義室にて＞
第14回	【社会情報での学び②】問題解決のためのPPDAC（Problem・Plan・Data・Analysis・Conclusion）サイクルの利用　＜講義室にて＞
第15回	【社会情報での学び③】期末レポートに関するピアレビューと前期のまとめ　＜講義室にて＞

定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない
授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション／実習、実験／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	<div>1 授業は基本的にゼミ方式で行う。</div> <div>2 一部の回はPC実習を伴う。</div> <div>3 情報検索方法を学び、資料を読み内容を理解する。</div> <div>4 データを活用した問題解決方法を知る。</div> <div>【教育・学習・フィードバックの具体的な方法】</div> <div>・授業で提示されたスライドなどの視聴覚教材はmanabaで公開される。</div> <div>・授業内でコメントなどの提出を要求されることがある。</div> <div>・課題（提出されたレポート）に対して、教員からのコメントがmanabaを使って行われる。</div>
準備学習の具体的な方法	<div>1 疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。</div> <div>2 課題に対して積極的に取り組む。</div>
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	以下の方法・基準によって評価する。 （１）授業への参加度（積極性・毎回の提出物の内容）70％ （２）期末レポート 30％
留意事項	テーマや授業の順序は変更することがある。 外部のゲスト講師や客員教授による招待講義を実施することが予定されている。
ノートPCの授業での利用	講義室で実施される回には、授業にノートPCを持参することを推奨する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト				
参考文献				
知へのステップ	学習技術研究会	くろしお出版	978-4-87424-789-1	
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	INF1452N0J		
科目名	社会情報基礎演習 II		
副題			
担当教員	濱中 倫秀		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	木曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	「社会情報基礎演習」は、社会情報学環の1年次生を対象として、大学での「学び」について理解するとともに、「学び方」の基礎を習得するための授業である。後期の「社会情報基礎演習」は前期で学んだ基礎知識を生かしつつ、プロジェクトの中で課題発見～解決のプロセスを実践的に学ぶことを目標とする。
教育・学習の個別課題	1. 社会情報学環の「学び」について理解する。 2. グループ作業の基礎を実践を通して学ぶ。 3. 課題の発見からデータ収集と分析、まとめとプレゼンテーションまでの一連の流れを実践を通して学ぶ。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献・データ分析方法について理解できない。	授業の内容や用いられている文献・データ分析方法について理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献・データ分析方法について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献・データ分析方法について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	調査分析の目的・内容や結果、自分の考えを言語を用いて表現できない。	調査分析の目的・内容や結果、自分の考えを言語を用いて表現できる。	調査分析の目的・内容や結果、自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、調査分析の目的・内容や結果、自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとするができる。	課題の問題点を明らかにしたり、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとすることがない。	グループワークに参加しようとするができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見を持ち、他者に伝えようとしない。	自分の意見を持ち、他者に伝えようとすることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段と手法とによって伝えることができる。

ND6

授業計画	
第1回	ガイダンス（プロジェクトの説明、講義の進め方とグループワークの注意点）
第2回	問題解決のためのフレームワーク PPDACサイクルとは
第3回	データ収集と分析の基礎
第4回	グループ作業＜1＞ 調査対象の発表・共同作業の基礎を学ぶ
第5回	グループ作業＜2＞ 様々なグループ作業ツールを学ぶ
第6回	グループ作業＜3＞ グループ分けと問題の発見、課題の検討
第7回	グループ作業＜4＞ 企画提案の立案
第8回	グループ作業＜5＞ 企画提案への相互フィードバック
第9回	グループ作業＜6＞ 企画提案の方向性決定・ブラッシュアップ、調査票（インタビュー）内容の検討
第10回	グループ作業＜7＞ 企画提案の中間発表・フィードバック
第11回	グループ作業＜8＞ 企画提案へのフィードバックを受けてブラッシュアップ
第12回	グループ作業＜9＞ アンケートとインタビュー収集および分析
第13回	グループ作業＜10＞最終発表へのプレゼンテーション作成
第14回	グループ作業＜11＞プレゼンテーションの最終確認・リハーサル
第15回	グループ作業＜12＞最終プレゼンテーション、後期授業の振り返り
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション／実習、実験／PBL（課題解決型学習）

教育・学習・フィードバックの方法	【講義の実施方法】 ・講義形式に加えて受講生同士の意見交換・グループワークの機会も頻繁に設ける。 ・ PowerPointを使用した教材を用いる。 ・ 双方向性を意識し、講義中の指名発問も積極的に行う。 【学習の方法】 ・ 授業中、特にグループワーク実施の際は積極的に発言・関与すること。 （ポストイットやペン、白紙等は教室に準備するので活用すること） ・ manabaで提出されたレポートに対しては講評を入れて本人に公開する。
準備学習の具体的な方法	1 疑問に思ったことや分からなかったことを書き出しておく。 2 課題に対して積極的に取り組む。 3 グループワークで意見を言うのが苦手な人は、あらかじめアイデアを準備してから授業にのぞむ。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	以下の方法・基準によって評価する。 (1) 課題への取り組み姿勢と内容：70％ (2) 課題解決案及びプレゼンテーション内容：30％
留意事項	テーマや授業の順序は変更することがある。

ノートPCの授業での利用	授業にノートPCを持参することを推奨する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィシアワー※専任教員のみ

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	WCD1100N0J		
科目名	基礎演習Ⅰ		
副題			
担当教員	岩崎 れい、平野 美保、Steven Herder		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	火曜2限
授業以外に必要な標準学修時間		前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	本学の学生としての自覚を育むとともに、アカデミックスキルおよびキャリア形成に関する基礎的な知識や技能、能力、態度を身につけることを目標とする。授業は少人数による演習形式で進行され、本学の建学精神や教育理念についての理解を深めるとともに、大学の授業や単位制度の仕組み、図書館の利用方法、レポートの書き方等について実践的に学修する。各回の授業内容については、可能な限りライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に関連した題材を用い、必要に応じてフィールドワークやワークショップ等の体験的活動を盛り込みつつ、基礎演習Ⅱの学修内容との関連性・連続性に留意して系統的に構成する。
教育・学習の個別課題	<ul style="list-style-type: none">• 本学の建学精神・理念・歴史について学ぶ。• アカデミックスキルを向上させる。• 社会人との交流を含めた実践活動を通じて、ライフキャリア・ビジネスキャリア形成に関する知識、スキルを向上させる。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようとすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとししない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見を持ち、他者に伝えようとしない。	自分の意見を持ち、他者に伝えようとする可以尝试。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段と手法とによって伝えることができる。

ND6

授業計画	
第1回	イントロダクション：年間を通じた基礎演習の内容・方法の説明、大学4年間の計画立案
第2回	ノート・テイキングの目的と方法、キャリアガイダンス
第3回	学内探検：学内施設の効果的な利用とキャリアアラボの使い方
第4回	ノートルダム学（1） 歴史と概要 （オンデマンド）
第5回	ノートルダム学（2） 女子教育の系譜
第6回	特別講義またはフィールドワーク
第7回	図書館オリエンテーションと文献探索
第8回	個人面談／読書計画（ポートフォリオの一部）の作成
第9回	個人面談／進路に向けた学習計画（ポートフォリオの一部）の作成
第10回	時事問題／クリティカルリーディング
第11回	レポートの執筆① 概論・テーマの見つけ方・テーマに関する意見交換
第12回	レポートの執筆② 問いの立て方・文献探索と収集・問いについてのプレゼンテーション
第13回	レポートの執筆③ 構成と論理的展開・引用と剽窃及び著作権
第14回	レポートの執筆④ 実践と見直し
第15回	まとめ：前期の振り返り
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	ブレンド：対面とオンライン併用で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション／反転授業／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	・アカデミックスキルを獲得するため、レポートの書き方など実践的に取り組む。 ・ライフキャリア・ビジネスキャリア形成に関する知識・スキルを獲得するため、社会人との交流やフィールドワークをする。 ・ポートフォリオ作成、ディスカッション、プレゼンテーション等を通じて、自己のキャリアデザインを検討するための情報を獲得する。またその際、随時、フィードバックがある。
準備学習の具体的な方法	・ゲストやフィールドワークなど次回の学習について関連の内容を調べておくこと ・ポートフォリオをある程度作成しておくこと ・レポート作成、プレゼンテーションの準備等、授業内でできなかったことを次回までに進めておくこと
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	評価は、レポート（30％）、授業参加（40％）、ポートフォリオ等提出物（30％）に基づいて、総合的に行う。
留意事項	・ゲスト講師等を迎える可能性がある。 ・実践的な授業のため、状況に合わせて内容、方法、スケジュールを調整する。 ・フィールドワークの際には、交通費や入館料等が必要である。

ノートPCの授業での利用	原則、ノートPCを使用する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト				
学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版 スキルを学ぶ21のワーク	桑田てるみ編	実教出版	978-4-407-33614-6	
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	WCD1400N0J		
科目名	基礎演習 II		
副題			
担当教員	平野 美保、岩崎 れい、Steven Herder		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	火曜2限
授業以外に必要な標準学修時間		前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	基礎演習Ⅰに引き続き、アカデミックスキルおよびキャリア形成に関する基礎的な知識や技能、能力、態度を身につけることを目標とする。授業は少人数による演習形式で進行され、文献・資料に対する精読や批判的読解の方法、アイデアの創出と整理の方法、プレゼンテーションの方法等について実践的に学修する。各回の授業内容については、可能な限りライフキャリアおよびビジネスキャリア形成に関連した題材を用い、必要に応じてフィールドワークやワークショップ等体験的活動を盛り込みつつ、2年次の「発展演習」の学修内容との関連性・連続性に留意しつつ系統的に構成する。
教育・学習の個別課題	<ul style="list-style-type: none">アカデミックスキルを向上させる。社会人との交流を含めた実践活動を通じて、ライフキャリア・ビジネスキャリア形成に関する知識、スキルを向上させる。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業の内容や用いられている文献について理解できない。	授業の内容や用いられている文献について、理解しようと調査することができる。	授業の内容や用いられている文献について調査し、理解することができる。	授業の内容や用いられている文献について理解し、他の資料や術語の調査ができる。
言語力	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できない。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて表現できる。	文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。	受信者を意識しながら、文献の内容や自分の考えを言語を用いて適切に表現できる。
思考・解決力	課題の問題点を明らかにしたり、解決しようとしたりできない。	課題の問題点を明らかにし、解決しようとすることができる。	課題の問題点を明らかにし、解決することができる。	課題の問題点を明らかにし、解決したうえで、新たな課題に挑むことができる。
共生・協働する力	グループワークに参加しようとしなない。	グループワークに参加することができる。	グループワークに積極的に参加することができる。	グループワークに積極的に参加し、協力し合う関係を構築できる。
創造・発信力	自分の意見を持ち、他者に伝えようとしない。	自分の意見を持ち、他者に伝えようとするすることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段によって伝えることができる。	自分の意見を持ち、他者に効果的な手段と手法とによって伝えることができる。

ND6

授業計画	
第1回	イントロダクション：ポートフォリオの作成方法の理解、社会人Aに関する事前学習
第2回	社会人Aとの交流
第3回	振り返り（社会人Aとの交流）：ディスカッションとポートフォリオの作成、共有
第4回	レポートの書き方①：引用の書き方確認
第5回	【オンデマンド】 フィールドワーク先の事前学習
第6回	フィールドワーク
第7回	振り返り（フィールドワーク）：ディスカッションとポートフォリオの作成、共有
第8回	レポートの書き方②：作成/個人面談
第9回	社会人Bとの交流
第10回	振り返り（社会人Bとの交流）：ディスカッションとポートフォリオの作成、共有
第11回	プレゼンテーションの準備/個人面談
第12回	プレゼンテーションの準備/個人面談
第13回	プレゼンテーション：リハーサル
第14回	プレゼンテーション：本番
第15回	まとめ：ポートフォリオの作成、共有
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	ブレンド：対面とオンライン併用で実施
-------	--------------------

アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション／反転授業／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	・アカデミックスキルを獲得するため、レポートの書き方など実践的に取り組む。 ・ライフキャリア・ビジネスキャリア形成に関する知識・スキルを獲得するため、社会人との交流やフィールドワークをする。 ・ポートフォリオ作成、ディスカッション、プレゼンテーション等を通じて、自己のキャリアデザインを検討するための情報を獲得する。またその際、随時、フィードバックがある。
準備学習の具体的な方法	・ゲストやフィールドワークなど次回の学習について関連の内容を調べておくこと ・ポートフォリオをある程度作成しておくこと ・レポート作成、プレゼンテーションの準備等、授業内でできなかったことを次回までに進めておくこと
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	評価は、発表（30％）、授業参加（40％）、ポートフォリオ等提出物（30％）に基づいて、総合的に行う。
留意事項	・ゲスト講師等を迎える可能性がある。 ・実践的な授業のため、状況に合わせて内容、方法、スケジュールを調整する。 ・フィールドワークの際には、交通費や入館料等が必要である。

ノートPCの授業での利用	原則、ノートPCを使用する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト				
学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版: スキルを学ぶ21のワーク	桑田てるみ編	実教出版	4407336145	
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI2200N0J		
科目名	アルゴリズム基礎		
副題			
担当教員	北村 美穂子		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	火曜4限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	「アルゴリズム」とは「問題を解決するための手順」のことです。カレーライスを作る手順、スマートフォンの操作手順など、みなさんも日常生活の中でアルゴリズムに基づいて行動しています。ある問題に直面した時、やみくもに解決するのではなく、問題の本質を理解し、整理し、何をどの順番で行えば、正しい結果が得られるかを見極め、それを確実に行動にうつすことが問題解決の近道です。そのような思考法に基づいた計画や行動は、コンピュータプログラミングだけでなく、これからのデジタル社会には必須の技能です。 本講義は、「問題を解決するための手順」を導くための思考法をコンピュータでのアルゴリズムを通じて体系的に学ぶことを目標とします。
教育・学習の個別課題	・「アルゴリズム」の本質（対象データと手順）を理解する ・コンピュータアルゴリズムの基礎を習得し、自ら実践する ・身近なツールやAI（人工知能）の分野で使われているアルゴリズムを学ぶ ・問題解決に役立つ計算論的思考法を習得する

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
「アルゴリズム」の本質（対象データと手順）の理解	アルゴリズムとは何かがわかっていない	アルゴリズムについて、漠然と理解しており、事例を挙げることができる	アルゴリズムの基本要素について理解し、アルゴリズムとは何かを説明することができる	アルゴリズムとは何かを、その利点や課題を含めて、事例とともに説明することができる
コンピュータアルゴリズムの基礎の習得・実践	コンピュータプログラミングにおいて、アルゴリズムの重要性がわかっていない	コンピュータプログラミングにおいて、アルゴリズムとデータ構造の重要性を理解している	コンピュータプログラミングにおいて、予め作られた探索や整列等の基本アルゴリズムの流れを自分で追うことができる	探索や整列等の基本アルゴリズムについて、自分で効率良いアルゴリズムを作成することができる
身近なツールやAI(人工知能)の分野で使われているアルゴリズムの理解	身近なツールやAI(人工知能)の分野で使われているアルゴリズムを知らない	身近なツールやAI(人工知能)の分野で使われているアルゴリズムについて名前のみ知っている	身近なツールやAI(人工知能)の分野で使われているアルゴリズムについて名前とどのような場面で使われているかを答えることができる	身近なツールやAI(人工知能)の分野で使われているアルゴリズムについて、自分の言葉で説明することができる
問題解決に役立つ思考法の習得	ある問題に対して、やみくもに解決法を見出そうとする	ある問題に対して、問題の本質は何かを考えようとする	ある問題に対して、問題の本質を理解し、整理することができる	ある問題に対して、問題の本質を理解し、整理し、何をどの順番で行えば、正しい結果が得られるかを見極めることができる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス <ul style="list-style-type: none">授業の目的、進め方について説明します。本講義に扱うアルゴリズムについて概観し、授業の全体像を掴みます。プログラムによるpythonプログラミングについて（ログイン、簡単な説明）
第2回	アルゴリズムとは <ul style="list-style-type: none">我々の身の回りにあるアルゴリズムを例に挙げ、アルゴリズムの性質やその役割について学びます。pythonによる実習（3つの基本構造：順次処理）
第3回	アルゴリズムの記述方法 <ul style="list-style-type: none">アルゴリズムの記述方法にはどんなものがあるか？3つの基本構造（順次、選択（条件分岐）、反復（繰り返し））についてフローチャートで書いてみよう。pythonによる実習（3つの基本構造：条件分岐処理）
第4回	アルゴリズムとプログラミング <ul style="list-style-type: none">アルゴリズムとプログラミングの関係や、アルゴリズムの効率を決める「計算量」について学びます。pythonによる実習（3つの基本構造：繰り返し処理）
第5回	アルゴリズムとデータ構造 <ul style="list-style-type: none">コンピュータでアルゴリズムを実行する時に必須となるデータ構造（配列、スタック、木構造等）について学びます。

UNIPA_ND_App	
	<ul style="list-style-type: none">pythonによる実習（データ構造（変数，リスト，関数））
第6回	pythonプログラミングに挑戦 <ul style="list-style-type: none">第5回までに学んだアルゴリズムやデータ構造を使ったプログラミングの例を紹介します。プログルに載っているプログラミング問題に挑戦します。
第7回	簡単なコンピュータルアルゴリズムとプログラミング設計 <ul style="list-style-type: none">第5回までに学んだアルゴリズムやデータ構造を使ったプログラミングの例を紹介します。学んだ知識を用いて、プログラミングの設計を行います。
第8回	【実習・課題提出】 <ul style="list-style-type: none">第7回で設計した仕様書に従ってpythonプログラミングを行います。
第9回	基本アルゴリズム1（探索） <ul style="list-style-type: none">探索アルゴリズム（線形探索，2分探索）について学びます。pythonによる実習（探索プログラム）
第10回	基本アルゴリズム2（グラフ理論） <ul style="list-style-type: none">グラフを用いたアルゴリズム（木構造による探索，経路探索）について学びます。pythonによる実習（木構造）
第11回	基本アルゴリズム3（ソート） <ul style="list-style-type: none">ソート（バブルソート・選択ソート・クイックソート）アルゴリズムについて学びます。pythonによる実習（ソートプログラム）
第12回	テキスト処理のアルゴリズム <ul style="list-style-type: none">文字列検索アルゴリズムや検索エンジンのしくみについて学びます。pythonによる実習（正規表現）
第13回	セキュリティのアルゴリズム <ul style="list-style-type: none">可逆圧縮や暗号化アルゴリズムについて学びます。pythonによる実習（暗号化・復号化プログラム）
第14回	人工知能とアルゴリズム <ul style="list-style-type: none">人工知能で用いられている機械学習のアルゴリズムについて学びます。pythonによる実習（総復習）
第15回	確認テストとまとめ <ul style="list-style-type: none">確認テストを実施します。終了後に講評し，授業全体を総括します。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none">授業は，主に講義によって進めますが，理解の定着を図るため，pythonによるプログラミング実習を取り入れます。講義で用いる資料は前日までにmanabaに載せます。また紙での資料については当日配布します。必要に応じてresponで理解度確認のためのテストを行います。また適宜，授業に関するアンケートを行います。授業内容に関する質問については，manabaの個別コレクションを利用する，オフィスアワーを予約する。又は，講義前後に質問して下さい。
準備学習の具体的な方法	<ul style="list-style-type: none">各回の授業の最後に次回の授業内容の予告を行います。各回の内容理解を前提に次の回の講義を行うので，復習をして授業に臨んで下さい。実習で行うpythonプログラミングは自宅のPCでも実行できるので，自主的にプログラミングの練習を行ってください。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	参加積極性(respon回答（正解/不正解は問わない））を考慮した授業参加度30%，課題提出(第8回)30%，最終確認テスト40%の総合点で評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none">PCおよび日本語作成ソフト，プレゼンテーションソフトの基本操作ができることを前提に授業を進めます。プログラミング経験の有無は問いません。pythonプログラミングにはプログル（https://high.proguru.jp）を使います。ログイン、使い方は第1回授業で説明します。

ノートPCの授業での利用	なし（講義室に設置のPCを用いる）
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト				
参考文献				
アルゴリズム図鑑	石田保輝・宮崎修一	翔泳社	978-4-7981-4977-6	
おうちで学べるアルゴリズムの基本	鈴木浩一	翔泳社	978-4-7981-4528	
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	日本のIT企業にて自然言語処理の研究開発に長年携わる。
-------------------	-----------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEI3400N0J		
科目名	AIとデータサイエンス		
副題			
担当教員	北村 美穂子		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	火曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	本授業は、「AIとデータサイエンス入門」の応用・実践編である。データ分析、機械学習の技術を習得するだけでなく、近年急速に発展した生成AIに代表されるニューラルネットワーク、深層学習についての基礎を学ぶ。授業の後半回は、Wolfram言語を用いて、自らAIアプリを設計・開発・評価し、AIの原理やソフトウェア構築・運用の基本を習得する。 本授業を受けることで、データによる意志決定やデータ活用による価値創造の方法論を身に付けることができる。さらに、活用の際に重要となるAI倫理的課題についても考察する。
教育・学習の個別課題	1. 相関・回帰のデータ分析手法を習得し、仮説思考で問題を解決することができる 2. 機械学習や深層学習の基礎技術を理解し、AIを活用する力を身につける 3. AIアプリの設計・開発・評価を経験し、ソフトウェア開発技術を身につける 4. AIやデータサイエンスを利活用する際の倫理的な課題について理解する

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
基本となるデータ分析手法（相関・回帰）の習得	相関・回帰のデータ分析手法を知らない	相関・回帰のデータ分析手法とはどういうものかを知っている	手引きに従いながら、相関・回帰のデータ分析をすることができる	与えられた問題に適切な相関・回帰のデータ分析手法を用いて、仮説思考の問題解決ができる
機械学習や深層学習の基礎技術の理解	機械学習や深層学習の基礎技術を知らない	機械学習や深層学習の基礎技術に興味があり、限られた用語を知っている	機械学習や深層学習の基礎技術に関して資料を参考にすれば説明することができる	機械学習や深層学習の基礎技術に関して、自分の言葉で説明することができる
AIアプリの設計・開発・評価実践	AIアプリの設計・開発・評価をしたことがない	設定された題材の中で、教員と共にAIアプリの設計・開発・評価をすることができる	自ら題材を選んで、教員と共にAIアプリの設計・開発・評価をすることができる	自ら題材を選んで自力でAIアプリの設計・開発・評価を行うことができる
AI・データサイエンス利活用における倫理的課題の理解	AI・データサイエンス利活用における倫理的課題に興味がない	AI・データサイエンスを利活用するためには倫理面に課題があることは知っている	AI・データサイエンスを利活用するための倫理面の課題を認識し、利活用時に配慮することができる	AI・データサイエンスを利活用するための倫理面の課題に対して考察し、自分の意見を述べることができる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

NDカリキュラム		学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス 授業の目的、進め方について説明します
第2回	データ分析1 PPDACとオープンデータ <ul style="list-style-type: none">仮説思考による問題解決手法、オープンデータについて学びます【実習】オープンデータ(eStat等)を使ったデータ収集・利用方法
第3回	データ分析2 オープンデータを用いたデータ分析 <ul style="list-style-type: none">さまざまなデータ分析手法について学びます【実習】オープンデータ(eStat等)によるデータ分析・グラフ化
第4回	データ分析3 データビジュアライゼーション <ul style="list-style-type: none">さまざまな可視化（データビジュアライゼーション）手法について学びます【実習】地図情報の利用による可視化（マップグラフ）
第5回	【実習】データ分析手法4 仮説思考に基づいたデータ分析 <<中間レポート提出>> <ul style="list-style-type: none">第3,4回の分析手法を用いて、実際のデータを分析し、可視化します。分析結果を中間レポートとして提出します
第6回	AIの歴史と倫理 ルールベースからディープラーニング、AI倫理 <ul style="list-style-type: none">AI技術はどのように進化してきたか、AIの歴史を振り返りますAI活用時に忘れてはならないAI倫理について理解を深めます

第7回	機械学習（教師あり学習・教師なし学習） <ul style="list-style-type: none">教師あり機械学習、教師なし機械学習について学びます【実習】Wolfram言語のFeatureSpacePlotを使ったクラスタリング
第8回	AIアプリ開発の概要説明・開発計画 <ul style="list-style-type: none">教師あり学習の「分類」のしくみを使ってAIアプリを自作します【実習】アプリ開発のプロセスを学び、開発計画を立てます
第9回	機械学習（ニューラルネットワーク） <ul style="list-style-type: none">ニューラルネットワークのしくみや原理について学びます【実習】Wolfram言語によるMNIST手書き文字認識（ニューラルネット）
第10回	機械学習（ディープラーニング） <ul style="list-style-type: none">ディープラーニングのしくみや原理について学びます【実習】Wolfram言語によるMNIST手書き文字認識（ディープラーニング）
第11回	【実習】AIアプリ開発1 データ収集・データクレンジング <ul style="list-style-type: none">データクレンジングや効果的な収集方法について学びますAIアプリの学習データ（画像データ）を準備します
第12回	【実習】AIアプリ開発2 さまざまなモデル（SVM、ナイーブ・ベイズ、ロジスティック回帰） <ul style="list-style-type: none">代表的な機械学習モデルについて学びます学習データをさまざまな機械学習モデルに適用し、品質向上を試みます
第13回	【実習】AIアプリ開発3 評価（混同行列とF値）・レポート作成 <ul style="list-style-type: none">機械学習の評価方法について学びます評価によって、AIアプリとして完成度を高めます。開発工程や評価についてまとめ、レポートを作成します
第14回	【発表・実習】発表会（・レポート仕上げ） <<レポート提出>> <ul style="list-style-type: none">アプリの発表会を行います開発レポートを仕上げます
第15回	総括・まとめのテスト <ul style="list-style-type: none">授業の総括を行いますまとめのテストを行います
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／実習、実験／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	・講義によって基礎知識を習得し、実習によって理解を定着させるという授業スタイルをとる ・プログラミング実習では、主にWolfram言語を使う。後半は、Wolfram言語を用いたAIアプリ開発を実践する ・授業後はresponを使って理解度をはかり、コメントを収集する ・授業内容に関する質問は、授業終了後に直接質問するか、授業終了時のrespon、manabaの個別コレクションを利用する
準備学習の具体的な方法	・授業中に出される発展問題を解く、または、考察する ・プログラミング実習は自宅からオンラインのできるので、授業で学んだことを復習する ・中間課題、最終課題については、先に課題を説明するので、各自、あらかじめ構想やまとめ方を考えておく
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	参加積極性を考慮した授業参加度15%、中間レポート20%、AIアプリ20%、開発レポート15%、まとめのテスト30%
留意事項	・「AIとデータサイエンス入門AまたはB」の授業単位を取得していること（未取得の場合はあらかじめ担当教員に相談して下さい） ・AIアプリ開発については、主に金光安芸子先生（AIとデータサイエンス入門Bを担当）が指導する

ノートPCの授業での利用	演習室のPCを用いる
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィシアワー※専任教員のみ

テキスト
参考文献
参考URL
Wolfram データサイエンスとAI： https://www.wolfram.com/featureset/data-science/ Wolfram Alpha： https://www.wolframalpha.com/ Wolfram Programming Lab： https://www.wolfram.com/programming-lab/ 「きのこの山」と「たけのこの里」を判別するプログラムを作ろう： https://www.wolframcloud.com/obj/akikok/Published/13_MachineLearning_Classify_KNDU.nb

実務経験のある教員による実践的科目	IT企業で長年自然言語処理の研究開発に携わる
-------------------	------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	CSA2259N1J		
科目名	インターネット社会論		
副題			
担当教員	吉田 智子		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	水曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	インターネット環境は1990年代以降、急速に世界中に広まった。この新しいメディアは、かつてのものとは異なる発展形態をもっているため、従来のメディア研究の常識では理解しきれない要素も多い。そこでまず、コンピュータとインターネットの発展の社会的背景とテクノロジーについて学ぶ。その後、LINE、twitter、Facebookに代表されるSNS(Social Networking System)の発展、さらには人工知能(AI)の発展に寄与している情報技術とその歴史を学ぶ。現在のデジタル社会を正しく考察できる知識の習得を目標としたい。
教育・学習の個別課題	以下の内容を理解する。 ・コンピュータとインターネットの発展 ・silent majority（静かなる大衆）が手に入れたSNS ・SNSの発展を可能にした各種のテクノロジー（情報科学）の技術と歴史 ・ビッグデータ、IoT、AIの関係性と社会の変化 ・ネット社会における情報セキュリティ

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
コンピュータやインターネットの発展に関係する各種テクノロジーの理解	トランジスターをはじめとする各種のテクノロジーを理解していない	テクノロジーに関して、授業で扱う内容を理解している	テクノロジーに関して、授業で扱う内容の背景や、その発展について理解している	最新のテクノロジーに興味を持ち、社会的意味を常に考えている
コンピュータ内部でのデータ表現の知識	コンピュータの内部でのデータの表現方法を知らない	コンピュータの内部のデータがデジタル（2進数）で扱われていることを知っている	コンピュータの内部のデータ（数値、文字、画像など）のそれぞれの表現方法を知っている	コンピュータの内部のデータの表現方法を理解した上で、常に新しい技術に興味を持ち情報収集している
ビッグデータ、IoT、AIの関係性の理解	ビッグデータ、IoT、AIについて理解していない	ビッグデータ、IoT、AIに関して、授業で扱う内容を理解している	ビッグデータ、IoT、AIに関して、授業で扱う内容の背景やその発展について理解している	ビッグデータ、IoT、AIに興味を持ち、社会的意味を常に考えている

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス 授業概要、ネット社会を理解する上でのキーワード（コンピュータ、インターネット、IoT、ビッグデータ、AIなど）、日本における未来志向型インフラ・テクノロジーのハイプ・サイクル
第2回	進化するテクノロジーと社会 第五の権力としてのSNS(Social Networking System)、silent majority（静かなる大衆）が手にしたSNSの社会的意味、第4次産業革命、Society5.0
第3回	SNSの発展を可能にしたテクノロジー(1) コンピュータの小型化の歴史、半導体、トランジスタ、デジタルとアナログ、コンピュータの種類
第4回	SNSの発展を可能にしたテクノロジー(2) コンピュータ、インターネット環境の発展と背景となったテクノロジー（コンピュータ内部での情報の表現、2進数）
第5回	SNSの発展を可能にしたテクノロジー(3) コンピュータ内部での情報表現＜文字の扱い＞
第6回	SNSの発展を可能にしたテクノロジー(4) コンピュータ内部での情報表現＜画像の扱い＞
第7回	SNSの発展を可能にしたテクノロジー(5) コンピュータの仕組み＜論理回路＞

第8回	SNSの発展を可能にしたテクノロジー(6) コンピュータの仕組み<コンピュータが足し算をする論理回路>
第9回	SNSの発展を可能にしたテクノロジー(7) コンピュータの仕組み<プログラム内蔵方式とは>
第10回	ビッグデータ、IoT、AIの関係性と社会の変化(1) データ・AIの技術、その例としてチャットボット
第11回	ビッグデータ、IoT、AIの関係性と社会の変化(2) データ・AIの活用領域の広がり、データの可視化の手法（グラフ、ワードクラウド、他）
第12回	ネット社会における情報セキュリティ 情報セキュリティの基礎、情報のCIA（機密性、完全性、可用性）、暗号化など
第13回	ネット新時代に関する考察(1) 各自のレポートのテーマとこれまでの授業内容の関連を考える。そのための情報収集とレポートの構成の確認
第14回	ネット新時代に関する考察(2) 「ネット新時代に関する考察」に関するレポートの提出と情報共有
第15回	まとめ 確認テストの実施と解説。解答や講評はmanabaでも公開
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	講義中心で行う。デジタル技術の理解のために実習（電子工作などの実験）も行う。さらに、各自が作成した「ネット時代に関する考察」をテーマとしたレポートの企画、持参されたレポートの情報共有も授業内で行う。紙で提出された各自のレポートに対して、教員がそれぞれにコメントを書き込むと同時に、授業内でフィードバックする。
準備学習の具体的な方法	授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を読み、授業に参加することを望む。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	授業参加度（30％）、レポート（35％）、まとめテスト（35％）の総合点で評価する
留意事項	外部講師を招いての特別授業を実施する場合がある。 LEDランプや電子工作キットを利用した実習を実施する場合がある（デジタル化やトランジスターの理解などのため）。

ノートPCの授業での利用	ノートPCの利用可
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィシアワー※専任教員のみ

テキスト				
情報の表現とコンピュータの仕組み 〔第6版〕	青木征男、奥村進	ムイスリ出版	978-4-89641-331-1	2024年2月刊行の第6版
参考文献				
入門情報処理 データサイエンス、AI を学ぶための基礎	寺沢幹雄、福田収	オーム社	9784274227981	
SNSって面白いの？	草野真一	講談社	9784062579261	
[改訂新版]はじめてのAIリテラシー	岡嶋裕史、吉田雅裕	技術評論社	9784297144074	
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	LDR3203N1J		
科目名	マーケティング論		
副題			
担当教員	新村 佳史		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	火曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	「映画が好き、食べることが好き、音楽が好き、彼氏も好き」・・・好き、という言葉は何にでも使えますよね？でも、「好き」の中身は微妙に異なるはず です。なんとかその違いを、うまく言い表せないかな、と考えたときに、役に立つのが「数字」です。感覚的なことを、上手に数値化する、というのが現 在の「マーケティング」です。数学とは違いますから安心を。数字を読むことができる基礎を学ぶ授業です。また、数字を生み出すための上手な調査－ア ンケートの作り方については、時間をかけてじっくり学べるように考えています。正しい情報、データを見抜き、賢い消費者になれる力を育てます。数学 が苦手でも、数字の面白さがわかるように進めていきます。これからの時代を上手に生きていくために必要な力を身につけてください。特に、大事なお金 の使い方については丁寧に指導していきます。広告にだまされない知恵を身につけましょう。良い生活者となるための授業です。
教育・学習の個別課題	・データの読み方、集め方・企業の商品開発の進め方・集めたデータから何を取り出すか ・イメージの数値化・好き、嫌いの感覚を分析する手法 ・自分がビジネスをするとしたら・・・ビジネスチャンスをデータから発見する ・調査票を作る・・・データは取り方で変化する ・調査結果を加工、報告する ・これからの時代のお金の運用・大事なお金を減らさないために

ループリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	社会に関心がない	社会の中の自己、を意識できる	社会の影響をどう受けて自分の好みが 作られたか確認する	自分がこれからの社会で何を期待され ているのかを理解する
知識・理解力	データに興味がない	自分の好みをデータとして処理できる ようになる	時系列的なデータの意味をつかめるよ うになる	データ上の特異点を見抜く力を持つ
言語力	アンケートの作り方に関心がない	アンケートは聞き方によって変化する ことを理解する	簡単な言葉ほど人によって感じ方が変 わることを理解する	仮説を確認できる上手なアンケートを 作る
思考・解決力	仮説が立てられない	自分と他者の違いを理解する	他者についての仮説が立てられる	仮説が正しかったか検証できる
共生・協働する力	他者の好みに関心が持てない	他者の話を聞き、自分との違いを確認 したうえで相手を認める	アンケート制作、分析の共同作業にき ちんと参加できる	他者を認めた上で自分の好みを認識、 自分の長所を知る
創造・発信力	好きなことを他者に伝えられない	自分の主観を客観的にとらえ直すこと が面白くなる	他者の興味を理解したうえで自分の感 想を発表できる	新商品開発の課題に積極的に取り組め る

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	なんで私はこれが好き？ 自分たちの「好み」とその形成をふりかえて ひょっとしたら、あなたの好みは誰かが作ったものかも？
第2回	みんなに買ってもらうために 企業が「好み」をつかまえる技術・・・マーケティングの考え方と流行の誕生
第3回	知るから、買うまでの段階 ニーズから行動へ 購買行動を考える・・・あなたの買い方はみんなと同じですか
第4回	流行は誰が作る リーダーはどこにいる イノベーターという考え方
第5回	細分化されるターゲット テレビ番組やコマーシャル、SNSのターゲットは誰でしょう・・・万人向けから、個性的なターゲットへ マスメディアから個へのメッセージへ
第6回	アンケートで作られる「今の時代」 質問紙作成のテクニック 調査は『聞き方』で決まる
第7回	聞きたいことを聞いてみる グループで調査計画、質問紙を作成してみよう

第8回	聞いた結果をどう見せる？ 調査結果の上手な報告の仕方について
第9回	上手な発表の仕方 グループごとに調査結果を報告してみよう
第10回	あなたは買い物上手ですか？ 消費者集団とはなにか 自分ははたして「普通」だろうか
第11回	これからの時代に求められるセンスとは 差別化戦略とその具体的な方法論・・・どんな仕事にも求められるマーケティングセンス
第12回	流行に負けないために マーケティングはどんな業種で求められているのか、そしてみなさんをどう巻き込もうとしているのか
第13回	既存のデータの活用法 マーケティングに生かせるデータと、使えないデータの差
第14回	これからのマーケティングの課題・・・少子高齢化社会がもたらす市場の変化 ここまでの理解確認のためのまとめテスト（持ち込み可です）
第15回	まとめテストの返却と解説 マーケティングを知ることで見えてくる、賢いお金の使い方と今からの資産運用について
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	基本的には自分の好みをなんとか数字にして、データを個々で蓄積していきます。また簡単なアンケート票の作成、発表をグループ単位で実施。実践的な演習を行ないます。 各自の趣味、関心について「自分がなぜそれを好きになったのか」を探りながら、現代社会における企業の戦略についても各々が「気づく」ことを意識して授業を進めます。それにより、社会や企業活動に関心が深まることを期待しています。グループでの共同作業が多くなりますので、積極的に授業にかかわってください。発表についてはその際に問題点の指摘など細かくフィードバックを行います。
準備学習の具体的な方法	自分が好きなこと（音楽、ファッション等なんでもいいです）の理由をいつも考えておいてください。あなたはなぜ、それが好きなんですか？ペットと彼氏とスイーツの「好き」に順位をつけることはできますか？とにかく考えることを重視します。考えたことを上手に他人に伝えましょう。きっと、友達が増えますよ。毎回、みなさんに質問を投げかけていきます。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	授業に対する積極的な参加姿勢（30％）。授業内での課題への評価（30％）。 まとめテスト（40％）。 授業中の積極的な発言、課題への真剣な取り組みを高く評価します。
留意事項	グループ作業が多い授業です、積極的に人と話すことが求められます。グループの仲間に迷惑をかけないように、きちんと出席してくださいね。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	広告制作会社でマーケティングディレクターを務める。
-------------------	---------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EDN3402N1J		
科目名	情報教育		
副題			
担当教員	神月 紀輔		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	火曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	情報教育の目標である「情報活用能力の育成」について理解し、今後の生活に役立てるとともに、地域で指導できる人材の育成を目指す。 情報機器や情報を活用した授業案の作成を行うことができ、授業実践ができる。
教育・学習の個別課題	情報活用能力の3つの構成要素（情報活用の実践力・情報の科学的理解・情報社会に参画する態度の育成）に関して正しく理解し、社会で生かせるようにする。 情報を活用した授業が、各教科だけでなく特別活動・総合的な学習の時間などでも実践できるようにする。 AIやデータサイエンスの考え方や小学校におけるプログラミング教育の教育的意味を知り、教育活動に無理なく取り入れることができる指導者になる。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	情報教育の目標を理解できない	情報活用能力を理解している	各観点における、教育や問題点を理解している	各教科や保育での情報教育の在り方が完全に理解でき、人に教えることができる。
言語力	情報教育における用語を理解できない	情報教育に関する用語を理解できる	情報教育に関する外国語の用語の意味を理解できる	ディスカッションで、用語を確実に使うことができ、英語などを用いて自分の考えを話すことができる
思考・解決力	様々な情報を問題解決に活用しない	情報を活用した、問題解決を考えることができる	なぜその情報はそこにあるのか熟考し、活用を考えることができる。	児童生徒の実態に応じた、情報の活用を考えることができ、発達年齢に配慮しながら、情報活用 of 力をつけようとする
共生・協働する力	自分の考えでのみ動いてしまう	人と話し合い、問題を解決しようとする	教員で話し合い、チームとして子供の指導に当たることができる	Webやネットの特性も理解したうえで、遠隔会議やe-Learningにも積極的に参加し、他者と協働して成果を上げようとする
創造・発信力	情報教育の目標に合う授業を考えることができない	情報活用 of 実践力を育てる授業を創造できる	情報活用能力全般を育てる授業を常に意識して考えることができる。	自らの授業内容を学級通信などを通して、正確に保護者にも伝えることができる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	講義オリエンテーション
第2回	情報教育の目標および情報活用能力について
第3回	情報教育の重要性と課題
第4回	情報活用 of 実践力の現状と課題
第5回	情報活用 of 実践力を育む教材（オンデマンド予定）
第6回	学校現場における情報活用 of 実践力
第7回	子供たちが情報活用能力を養うためのポイント
第8回	小学校におけるプログラミング教育
第9回	AIとデータサイエンスを取り入れる教育的意義（オンデマンド予定）
第10回	情報社会に参画する態度とデジタルシティズンシップ

第11回	授業支援ツールの活用方法（ロイロノート、Metamoji Classroom等）
第12回	授業支援ツールを用いた授業設計と実践（オンデマンド予定）
第13回	クラウドを用いた授業設計と注意すべき点
第14回	情報を活用するということとは
第15回	まとめ
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	ブレンド：対面とオンライン併用で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション／反転授業／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	<p>本講義は、対面授業とオンライン学習のブレンド型で授業を進める。オンライン講義による解説と受講者の小グループによる対面ディスカッションを適時、導入し、受講生が主体的に講義に参加できる学習方法を取り入れて行う。</p> <p>内容は、幼小中等高等学校での情報教育の方法について考えることになる。</p> <p>課題に関しては、授業中に相互評価を行ったうえで、教員からコメントを述べる形でフィードバックを行う。また、個別にオフィスアワーなどで質問等を受け、指導する。</p> <p>毎回の講義に関しては、responを使用したコメントを収集し、その内容に関しては次の講義で紹介をし、質問項目などは全体場でフィードバックを行う。</p> <p>プログラミング教育実践演習やICT授業支援ツールの演習では、タブレットやノートPCを用いたプログラミングの体験を基に小学生への指導方法をディスカッションで考え、教員の助言も参考に授業の組み立てができるようにする。</p>
準備学習の具体的な方法	<p>前回までの復習をしておくこと。</p> <p>学習指導要領や教育要領をよくみておくこと。</p> <p>自分が授業をするというイメージをもって授業に臨むこと。</p> <p>グループでの活動に積極的に参加すること</p> <p>GPAによる個別学習方法（ここでのGPAはあくまでも目安です）</p> <p><i>GPAが1.5程度未満の場合</i></p> <p>「教育方法学」「ICT活用教育」または「教育の方法及び技術」の復習を確実にしておくこと</p> <p>※上記科目未履修の場合は、新しい学習指導要領をみておく。</p> <p><i>GPAが1.5から3程度の場合</i></p> <p>上記に加えて、最近の情報教育に関する情報をWeb等で確認しておく</p> <p><i>GPAが3.0程度以上の場合</i></p> <p>上記に加えて、GIGAスクール構想による情報機器の活用および小学校プログラミング教育の現状把握を文献やWebで行っておく</p>
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	授業への参加意欲・態度（30％） 課題やレポートに対する自己評価・相互評価（40％） 期末レポート（30％）
留意事項	<p>この授業は教員（幼稚園も含む）を志望する学生向けの実践的科目として設定しており、教員志望者以外は、その旨理解して参加することが必要である。</p> <p>教員志望者以外への配慮は特別に行わないので注意すること。</p> <p>教育実践について小グループによるディスカッションを行うので、講義に主体的に参加することが重要である。</p> <p>現場での情報教育の実践家など外部講師を招いての授業を行うことがある。</p> <p>コロナ禍の状況の中でオンデマンド講義を行う可能性がある。</p>

ノートPCの授業での利用	ほぼ毎回使用するので、ノートPCを持参すること。 （持参が難しい場合は、授業前に貸出パソコンを借りておくこと） なお、電源が限られるため、できるだけ授業前に充電をフルにしておくこと
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト			
参考文献			
高等学校学習指導要領解説 情報編	文部科学省	開隆堂出版	978-4304021633
参考URL			
文部科学省 教育の情報化に関する手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm			

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目≫ 教員として公立学校に勤務経験あり
-------------------	--------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	CNS2601N1J		
科目名	子供のネット安全教育の理論と実践		
副題			
担当教員	神月 紀輔、東郷 多津		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	自由科目

科目の教育目標	子供たちのネット利用において、詐欺にあう、ネットいじめ、個人情報の流出など様々な問題が起きている。 本科目では、京都府消費生活安全センターと協力し、特に消費者教育の観点から、子供自らが考えて安心してネットを利用できるよう、小学校等での啓発プログラムを開発し、実践することを目標としている。 なお現状から当面は、小学校4～6年生程度を対象としたプログラムの開発を行う。
教育・学習の個別課題	<ul style="list-style-type: none">・現在起きているネットの安全使用に関する問題を知る。・子供たちにとって危険な状況を知る。・学校現場など状況に合わせた啓発プログラムを開発する。・開発したプログラムを実践する。・プログラムの実施に対してその評価を行い改善をする。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解	広い範囲から、子供のネット利用に関する情報を収集できず、理解できない。	現在の子供の情報環境やネットの使用状況を理解している。	子供にとっての望ましい情報機器の利用を理解している。	子供のネット利用に関する基礎知識を持ち、行政や教育がどのようにしようとしているか理解している。
実習に対する参加態度	実習に参加できない	子供の現状を踏まえ、実習に参加する	講座の趣旨を理解し、リーダーとして子供の前に立つ	講座の趣旨を理解し、子供を指導し、その評価をし、さらに啓発に努める
協働する力	他の大学生と協力できない。ディスカッションに参加しない。	積極的にディスカッションに参加する。	子供の指導に対して、意見の交換を行い、啓発に役立てる	問題点や改善点を積極的に提言し、次の啓発に生かそうとする

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 心理学科 コース配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	本講義を始めるにあたって（神月・東郷・堀出）
第2回	教育社会学から見た子供のネット利用（堀出 オンライン）
第3回	京都府消費生活安全センターにおける子ども啓発（外部講師 オンライン）
第4回	子供のへの模擬指導と評価（東郷・堀出・神月）
第5回	8・9月中（日時未定） 小学校における子供への指導実習（堀出・東郷・神月）
第6回	8・9月中（日時未定） 児童館における子供への指導実習（堀出・東郷・神月）
第7回	8・9月中（日時未定） こどもイベントでの指導実習（堀出・東郷・神月）
第8回	小学校児童館等における実習の評価、振り返り（堀出・東郷・神月）
第9回	デジタル・シティズンシップと学校における情報モラル指導（神月 オンライン）
第10回	京都府消費生活安全センターへの相談の現状（外部講師 オンライン）
第11回	他の自治体での取り組み（外部講師 オンライン）
第12回	保護者も含めた指導方法の開発（神月）

第13回	専門家による評価（堀出・外部講師）
第14回	今後の問題点討議（神月・東郷・堀出）
第15回	まとめと自己評価（神月・東郷・堀出）
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	ブレンド：対面とオンライン併用で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	本講義はブレンド型で学習を進める。講義に関してはオンライン講義を行い、ディスカッションが必要な場合は対面で行う。現状の把握や学習理論については、講師やゲストスピーカーから講義を聞き、そこで得た知見をもとに、演習により、子ども向け啓発プログラムを開発する。その際にはグループによるディスカッションなどコミュニケーションが必要である。さらに実際に子どもの前に立ち、実践を行い、実践から得たデータなどをもとに、啓発プログラムの自己評価を行い、議論の中からフィードバックを行う。また改善点を見出し、さらにプログラムをよいものに仕上げ、再生可能なものにする。
準備学習の具体的な方法	新聞やインターネットなどで情報の収集をする。 毎回の授業に対して復習を行い、次時への目標を立てる。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	20
評価方法・評価基準	授業参加度(50%)、毎時間のコメント(20%)、指導実習内容(30%)により総合的に評価を行う。
留意事項	この科目はコンソーシアム科目であり、本学ではなくキャンパスプラザ京都で開講する。また履修登録もコンソーシアム京都からも行う必要があり、講義期間もキャンパスプラザ京都の日程に従うので注意すること。 実習を伴うこともあるので、就職活動中の学生は単位取得が難しくなることがあることを留意されたい。 講義のうち2回程度は、講義時間以外の8月から9月に、京都府内の小学校または児童館などに出かけて実習を行う。この際の交通費は自己負担となる。 授業後の、2、3月や次年度に自主的に啓発活動に取り組むことは可能である。 コロナ禍の状況においては、実習等が行われない可能性もあり（2020～22年度は充分に実習はできなかった）、代替え授業等で行う可能性もあるので、連絡に留意すること。

ノートPCの授業での利用	ほぼ毎回使用するので必携してほしい
教員への連絡方法	manabaを利用

テキスト
参考文献
参考URL
e京都（いーこと）ラーニングシステム https://el.consortium.or.jp/login.php 公益財団法人 大学コンソーシアム京都の単位互換履修生及び京（みやこ）カレッジ生の履修登録・学修支援システムです。 大学コンソーシアム京都 単位互換制度 http://www.consortium.or.jp/project/tg/details 出願手続き等の説明はこちらから

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》 外部講師は行政機関勤務経験あり
-------------------	-------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpr-support@notredame.ac.jp

授業コード	TEA3853N0J		
科目名	ICT活用教育		
副題			
担当教員	神月 紀輔		
単位数	1単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	月曜4限
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	後半7.5コマ 共通開設

科目の教育目標	小中高等学校の各発達段階において、望ましいICT活用教育方法を探求し、その実践を行えるようにする。
教育・学習の個別課題	下記の各項目について理解した上で、ICT活用した実践的指導を学校教育の指導の中で行えるようにする。 ・思考力、想像力を育む児童生徒の主体的な学習活動 ・情報活用の実践力を育む授業実践方法 ・学習理論に基づく、コミュニケーションを生かした授業づくり

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
学習指導要領の理解	学習指導要領や幼稚園教育要領を知らない。	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解している	学習指導要領や幼稚園教育要領を完全に理解し、観点ごとの評価に生かそうとする。	学習指導要領や幼稚園教育要領を理解し、授業や保育に生かすとともに、授業案を創造できる
主体的に学ぶこと	先生主導の教育のみを行っている	子供の状況に配慮しつつ、先生主導の教育を行い、一部子供の自主性を促す	子供のための教材を提供でき、その周辺の知識に詳しく、学習の動機づけをすることができ、自己評価に繋げることができる。	レベル3に加えて子供同士が相互作用を用いながら学ぶ教材を提供でき、授業外でもその学びを子供たちが生かすことができる。
情報機器の活用	情報機器を使うことに抵抗がある。	先生が情報機器を使って授業ができる。	教員が情報機器の特性を理解し、子供が無理なく情報機器を学習のために使えるように、ツールとして提供できる。	レベル3に加えて子供が情報機器の特性を知りながら、子供の自らの学びのために機器を活用するように指導できる。
コミュニケーションを生かした授業	子供の考え方を聞かず、教師の考えだけで授業を進める。	子供の発話を用いた授業を考えることができる	子供の発話や議論を促すためにどのように子供に接するか等の方法を知り、それを生かした授業をしようとする。	レベル3に加えて、子供同士の相互作用を促し、子供が自ら学ぶためにコミュニケーションを活性化しようとする。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 こども教育学科 コス配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	学習理論と心理学（45分間）
第2回	デジタルシティズンシップ
第3回	情報活用能力の3観点
第4回	情報活用の実践力とその指導および実践事例から
第5回	ICT機器を活用した指導方法
第6回	ICT機器を活用した指導計画
第7回	ICT機器を活用した指導の模擬授業
第8回	指導計画および模擬授業の相互評価・自己評価

定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない
授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	<p>前半（1～4回目）は講義を中心に行い、後半（5～8回目）は模擬授業を中心に行う。</p> <p>資料はmanabaコースを用いて提供します。</p> <p>前半は各教科の教育法・指導法での知識を基に、ICT機器を活用することについて、知識を習得する。</p> <p>授業後半は、ICT機器を活用した授業の設計を行い、実際にICT機器を活用した場面を10分程度模擬授業として行う。また、その後ディスカッションを行い、相互評価・自己評価の中でICT機器の活用について理解を深める。</p> <p>この分野は早いスピードで進展しており、授業内の理解だけでなく、インターネットや新聞などの情報を学生自身で取得することが望まれる。</p>
準備学習の具体的な方法	<p>これまでの授業を復習する時間が短いので、教員が提示する各トピックに対して準備を行う必要がある。</p> <p>＜授業が始まるまでの準備＞</p> <p>これまでのGPAによる準備学習方法 （下記のGPAはあくまでも参考で、自分のレベルにあった準備をしてください）</p> <p>GPA<1.5の場合 各教科の教育法・指導法の内容をしっかりと復習しておいてください</p> <p>GPAが1.5から3までの場合 上記に加えて、身の回りにある情報機器に興味を持ち、教育の場面での利用を考え、授業内の情報だけでなく新しい情報もインターネットや新聞などを用いて修得しておきましょう。</p> <p>GPA>3.0の場合 上記に加えて、「こどもの教育心理学」または「発達と学習の教育心理」の授業から「学習」に関しての復習をし、学習理論の理解しておきましょう。</p> <p>＜授業における準備＞</p> <p>毎回の復習を確実にし、分からない言葉などは辞書やインターネットを用いて、自分で理解するように努めましょう。人に聞いただけでは忘れてしまうので理解はなかなか進みません。</p> <p>現在の小中高등학교のGIGAをはじめとする情報機器の整備の現状を調べておき、自分の進路に対して、どのような準備をする必要があるかを考えておきましょう。</p>
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	<p>基本的には下記の項目について、自己評価を取り入れる。</p> <p>授業に参加する態度（40％） 各個人の状況に応じて、出席したかどうかでなく、授業中の態度も含めて、最終授業時に40点満点で自己評価を行う。</p> <p>課題（40％） ICT活用についてのレポート、模擬授業の指導案・自己評価を課題として提出する。その都度、教員からレポート内容についての評価項目を示すので、それに従って自己評価を行って提出する。</p> <p>グループへの参加態度（20％） 模擬授業およびディスカッション時に行うグループ内相互評価をもとに、教員の示す評価基準で自己採点を行う。</p> <p>上記の自己採点を基本とし、教員が総合的に判断し、評価を行う。</p>
留意事項	<p>1. 毎回の授業に必ずPCを持参してください。タブレットでは少し容量やスペック・アプリの面で厳しいかもしれません。自分のものを持参するのが難しい場合は、授業前までに貸し出しのパソコンを準備してください。</p> <p>2. 資料や情報はmanabaコースを使用して提供します。</p> <p>3. 自ら進んで学ぶ態度が必要になります。今後のために積極的に学習に参加しましょう。</p>

ノートPCの授業での利用	manabaコースを用いて資料提示を行うので、毎回ノートPCを持参すること 持参が難しい場合は、授業前までに貸出PCを借りておくこと ネットを用いた資料提示をするので、学内のWifiに接続できるようにしておくこと ロイロノート等のIDを付与するがこの時間の間だけであることを理解すること 教室内の電源が少ないので、授業前までにPCの充電をフルにしておくこと
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィシアワー※専任教員のみ

テキスト
参考文献
参考URL
文部科学省 学習指導要領 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htm 文部科学省 教育の情報化に関する手引き http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm 文部科学省 GIGAスクールの構想について https://www.mext.go.jp/a_menu/other/index_00001.htm IT授業実践ナビ http://www2.japet.or.jp/itnavi/
その他、授業時に適宜紹介します。

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》 教員として公立学校での勤務経験あり。
-------------------	----------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGS3500A0J		
科目名	英語英文学演習Ⅰ		
副題			
担当教員	大川 淳		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	水曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	90	前提科目	
定員		備考	必修

科目の教育目標	本講義ではアメリカの短編小説を精読し、また先行研究および批評理論に関わる文献を渉猟することによって、文学に関わる専門知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。 前期は毎回の予習範囲を最小限にとどめ、小範囲のテキストを文法および一語一句が包摂する意味や比喩を読解しながら読むことを目指す。 これらの目標を踏まえ、英語を正確に読む力を養い、また文学だけではなく、世界にあふれている物事について、多角的に考える力を修得する。
教育・学習の個別課題	1. テキストを精読する。（Close Reading） 2. 批評的視点を習得する。 3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。 4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチ。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力：文学テキストの原書精読の努力を惜まず、積極的に学問と向き合う姿勢がある。	できない	できる	優れている	非常に優れている
知識・理解力：文学作品の背景を理解し、精読を通じて文学知識を習得している。	できない	できる	優れている	非常に優れている
言語力：原書の英語を辞書を用いて正確に読むことができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている
思考・解決力：テキストの分析を通じて、作品の考察を論理的に行うことができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている
共生・協働する力：ディスカッションを通じて、他者の意見を理解することができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている
創造・発信力：ディスカッションを通じて自分の意見を発信することができる。またテキストの考察を論理的に構築することができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	100%
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	Introduction：Theodore Dreiserの文学
第2回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp.1-5）
第3回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp.5-9）
第4回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp. 10-14）
第5回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp. 15-19）
第6回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の精読と読解（pp. 20-24）
第7回	Theodore Dreiser "The Lost Phoebe"の考察に関するpresentation・先行研究調査
第8回	Kate Chopin "Regret"の精読と読解(pp. 11-13)

第9回	Kate Chopin "Regret"の精読と読解(pp. 14-16)
第10回	Kate Chopin "Regret"の考察に関するpresentation・先行研究調査
第11回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" (pp.42-44)
第12回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" (pp.42-45)
第13回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" (pp.46-49)
第14回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" (pp.50-51)
第15回	William Saroyan "The Daring Young Man on the Flying Trapeze" の考察に関するpresentation・先行研究調査
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	<p>本講義で行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。</p> <p>したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。</p> <p>授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語（文法）レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。</p> <p>プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。</p>
準備学習の具体的な方法	全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。 プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	平常点 40％ 授業態度、ゼミへの貢献度、Presentation Final paper 60％
留意事項	

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィシアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト	
参考文献	
参考URL	

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGS3550A0J		
科目名	英語英文学演習 II		
副題			
担当教員	大川 淳		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	水曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	90	前提科目	
定員		備考	必修

科目の教育目標	本講義では19世紀中期に活躍した作家Herman Melvilleの短編を精読する。また19世紀アメリカ文化や、また先行研究に触れることによって、幅広い知識と批評的視点を身につけることを教育目標とする。 前期は毎回の予習範囲を最小限にとどめ、小範囲のテキストを一語一句意味を味わいながら読むことを目指す。 これらの目標を超え、英語を正確に読む力を養い、また文学だけではなく、世界にあふれている物事について、多角的に考える力を修得してもらいたい。
教育・学習の個別課題	1. テキストを精読する。（Close Reading） 2. 批評的視点を習得する。 3. 批評理論など、文学批評における方法論について学ぶ。 4. 先行研究を含めたコンテキストについてのリサーチ。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力：文学テキストの原書精読の努力を惜まず、積極的に学問と向き合う姿勢がある。	できない	できる	優れている	非常に優れている
知識・理解力：文学作品の背景を理解し、精読を通じて文学知識を習得している。	できない	できる	優れている	非常に優れている
言語力：原書の英語を辞書を用いて正確に読むことができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている
思考・解決力：テキストの分析を通じて、作品の考察を論理的に行うことができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている
共生・協働する力：ディスカッションを通じて、他者の意見を理解することができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている
創造・発信力：ディスカッションを通じて自分の意見を発信することができる。またテキストの考察を論理的に構築することができる。	できない	できる	優れている	非常に優れている

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	100%
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	Introduction
第2回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation1とComments (p.13~P.16 5段落目)
第3回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation2とComments (~p. 19 2段落目)
第4回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation3とComments (~p.22 4段落目)
第5回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation4とComments (~p.25 下から3段落目)
第6回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation5とComments (~p.28 1段落目)
第7回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation6とComments (~p. 30 下から4段落目)
第8回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation7とComments (~p.33 1段落目)

第9回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation8とComments（～p.35　2段落目）
第10回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation9とComments（～p.37　3段落目）
第11回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation10とComments（～p.40　7段落目）
第12回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation11とComments（～p.43　6段落目）
第13回	“Bartleby, the Scrivener” Presentation12とComments（～p.45　最後まで）
第14回	“Bartleby” Presentation（個々の分析）
第15回	“Bartleby” 先行研究分析
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	<p>本講義で行うテキストの精読とは、ただ単に文章の表面をなぞりながら読むという行為ではなく、一つ一つの言葉が孕む意味を味わいながら、積極的かつ批評的視点からテキストを読むという行為を意味する。</p> <p>したがって、毎回の授業で指定された範囲をあらかじめ読んだ状態で授業にのぞむことを最優先事項として受講生に求める。</p> <p>授業は指定された範囲をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。プレゼンテーションでは、英語（文法）レベルでのコメント、固有名詞などのリサーチ、英語レベルでの理解できなかった文章の指摘、そしてストーリーの内容に関するコメントを求める。</p> <p>プレゼンテーションを行うグループは必ず人数分のハンドアウトを用意すること。</p>
準備学習の具体的な方法	全員が指定された範囲のテキストを精読した上で、授業に出席すること。 プレゼンテーションの発表者は、固有名詞などを資料で調査すること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	平常点　　4 0 %　　授業態度、ゼミへの貢献度、Presentation Final paper　6 0 %
留意事項	

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト				
The Piazza Tales	Herman Melville	Northwestern University Press	810114674	
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室　TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	CSS3600A0J		
科目名	専門演習Ⅰ		
副題			
担当教員	久野 将健		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	水曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。 <個別クラスのねらい> 音楽のさまざまな諸要素を専門科目で学んできた知識を踏まえて、ゼミにおいては少人数指導の下、さらに専門的に掘り進め、卒業論文にまでつなげていくようにする。各自の主體的な研究を尊重しながら進めていきたい。		
教育・学習の個別課題	1. 音楽に関する文献を購読し、読解力を深める 2. 卒論執筆に向けて、各自のテーマに沿って準備を進める。		

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力	適切な文章を書くことができない。	集めた情報と自分の意見を分けて書くことができる。	集めた情報に基づいて、自分の意見を構築して書くことができる。	論理的で、説得力のある文章を書くことができる。
思考・解決力	自らの考えを論理的に構築できない。	自らの考えを表現できる。	自らの考えを論理的に構築できる。	自らの考えを論理的に構築し、それを研究に生かすことができる。
共生・協働する力				
創造・発信力				

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 国際日本文化学科

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	導入（ゼミの進め方について）
第2回	クリティカル・リーディング（どうやって本を読むか？）
第3回	クリティカル・リーディング（問いを立てる）
第4回	【オンライン】クリティカル・リーディング（論理の構造）
第5回	クリティカル・リーディング（問いの発展）
第6回	資料検索（その実際）
第7回	【オンライン】資料検索（統計情報の種類と入手方法）
第8回	データ収集・分析（データ分析とはどういうことか？）
第9回	データ収集・分析（データの種類について）
第10回	【オンライン】データ収集・分析（データ分析を伴う研究のポイント）

第11回	グループ学習（そのポイントと効果）
第12回	グループ学習とIT利用
第13回	ディベート
第14回	成果発表
第15回	まとめ
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する

授業タイプ	ブレンド：対面とオンライン併用で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート
教育・学習・フィードバックの方法	ゼミ生の関心と論文作成予定のテーマによるが、音楽学の諸分野（音楽史、音楽文化、音楽表現等）の紹介をした上で、実技要素も取り入れながら理解を深めていく。
準備学習の具体的な方法	文献購読、発表、演奏などの課題に対して、準備を入念にした上でゼミに臨んでほしい。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	評価は、授業参加度（30点）、課題等（70点）に基づいて総合的に行う。欠席回数が1/3を超過した場合（6回以上の欠席）は、原則として単位を与えられないので注意すること。
留意事項	

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	CSS3650A0J		
科目名	専門演習Ⅱ		
副題			
担当教員	岩崎 れい		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	水曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	<共通目標> 国際日本文化学科のモットーである、多文化理解・比較の視点を常に保ちながら、所属ゼミ教員の担当分野ごとに、より専門的に知識・理解を深め、4年次の卒業研究・卒業制作に向けて、受講生各自に適した研究テーマが決められるよう、系統的に学ぶ。 <個別クラスのねらい> 子どもについて、メディアや文化や教育の側面から考察する。具体的なテーマとしては、子どもの読書の意義、子どもの学習における情報利用、図書館と表現の自由、育児における「おはなし」の重要性、ハンディキャップのある子どもへの文化的側面からの支援、口承文化としての昔話・伝説の魅力と特徴、現代教育における課題と展望、テレビゲームやインターネットなど現代的なメディアと子どもとの関係、現代社会における子どもの遊びなど、さまざまな切り口が考えられるので、学生は自分の研究課題を見つけ、そのテーマを掘り下げて、最終的に卒業論文として仕上げることになる。
教育・学習の個別課題	1. 各自のテーマについて明確な問題意識を持ち、そのテーマを多様な視点から考察する。 2. 卒業論文執筆のプロセスを学び、その方法を身につける。（専門演習Ⅰの1）～3）から続く。） 4) 研究テーマに関する知識を増やし、また、批判的思考を伴いながら、論文の目的に向かって内容を掘り下げていく。 5) 論文の内容を深めると共に、引用文献一覧・参考文献一覧の書き方など、論文作成の形式についても学ぶ。 3. 卒業論文のテーマを決め、その準備を進める。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	ゼミに受け身で参加している。	ゼミに主体的に参加し、発言できる。	自分の研究に積極的に取り組むことができる。	自分の研究に積極的に取り組み、その改善にも力を尽くすることができる。
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力	自分の「問い」を明確にすることができない。	自分の「問い」をはっきりと持っている。	自分の「問い」を明確に言語化することができる。	自分の「問い」を検証し、発展させることができる。
共生・協働する力				
創造・発信力	自分の研究に主体的に取り組めていない。	研究テーマについて、基礎的なことを言語化できる。	研究テーマを掘り下げ、その「問い」について議論をすることができる。	根拠を持って、研究テーマにおける「問い」を検証し、それを文章にすることができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 国際日本文化学科

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	前期及び夏休みの成果発表（ゼミ発表）
第2回	テーマについての合議
第3回	テーマ1についての講義・討論 例) 子どものための図書館・博物館
第4回	テーマ2についての講義・討論 例) 児童文学と子どもの発達
第5回	フィールドワーク（1）
第6回	テーマ3についての講義・討論 例) 子どものメディア利用とその課題
第7回	卒論のための図書館利用と文献探索の応用（2）
第8回	卒論テーマの明確化と問いの探求（ゼミ発表）
第9回	テーマ1に関する発表・討論 例) 子どものための図書館・博物館

第10回	テーマ2に関する発表・討論 例) 児童文学と子どもの発達
第11回	テーマ3に関する発表・討論 例) 子どものメディア利用とその課題
第12回	フィールドワーク (2)
第13回	ゼミ発表及び研究方法についての討論
第14回	卒業研究に向けての情報の整理と利用
第15回	4年次に向けての準備
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	1. この科目は、自分の「問い」を見つけ、卒業論文に結実させていくための準備をする大切な役割をもつ。 2. 各自が自分のテーマに取り組むと共に、他の受講生のテーマについても共に学び、考えていく。 3. 文献を読んだり、現場を見学したりすることで、テーマに関する知識を深め、それについて討論する力を育成する。 4. 3をもとに、自分の「問い」をさらに掘り下げていく。 5. フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。
準備学習の具体的な方法	1. グループまたは個人で一つのテーマについて資料を集め、掘り下げて考察し、その結果を発表する。 2. フィールドワークには必ず参加し、座学では得られない学習成果をあげられるようにつとめる。 3. 卒業論文の準備では、各自学びたい自分のためのテーマを積極的に探し、常にそのテーマを探究するようつとめる。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	討論などへの参加・課題報告の準備・内容についての理解・提出物70%、授業参加度30%とし、総合的に評価する。
留意事項	1. ゲスト講師による授業を行うこともある。 2. テーマは学生の関心に応じて変更することもある。 3. 必要に応じてフィールドワークに行くが、その場合交通費等がかかることもある。

ノートPCの授業での利用	ノートPCを持参することが望ましい。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	SLS3401B0J		
科目名	生活環境特論		
副題			
担当教員	加藤 佐千子		
単位数	4単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	水曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	120	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	現代社会を取り巻く諸課題に深い認識と洞察力を持ち、その諸課題を解決するために、生活環境学の視点から、その望ましいあり方を追求する基礎となるものを身につける。これまでの専門基礎科目や展開・関連科目で修得した知見を踏まえ、各専門分野における研究動向や研究方法について理解を深め、卒業研究として取り組む研究課題を明確化することを目的とする。また、主体的な学習により自身の専門性と将来の仕事との関連を強く意識するとともに、将来就く仕事を具体化し、企業・職場研究や自己分析する能力を養うことを目的とする。
教育・学習の個別課題	(1) 各専門分野における基礎文献を探索し、理解を深める。 (2) 各専門分野における研究動向を理解する。 (3) 各専門分野における研究方法について理解を深める。 (4) (1)～(3)までの学習を踏まえ、各学生が個別的に取り組む研究課題を明確化する。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
生活に関わる諸問題に対する関心と対応	生活に関わる現代社会の諸問題に対して関心がない。	生活に関わる現代社会の諸問題に対して関心がある。	生活に関わる現代社会の諸問題に対して関心を持ち、問題の根本にある事象や解決策について積極的に考えようとする。	生活に関わる現代社会の諸問題に対して関心を持ち、問題の根本にある事象や解決策について、他者と対話を重ねながら、積極的に考えようとする。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 生活環境学科

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。 (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習する。 (3)各ゼミ単位の活動にとどまらず、必要に応じて合同授業に参加する。 (4)合同授業の1つとしてキャリア特論を実施する。専門性を含めキャリア意識の向上を目的として、年に約4回実施する。
準備学習の具体的な方法	各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	以下の点を総合的に評価する。 (1)授業参加度 (2)平常点(課題への取り組み・フィールドワーク・学外活動等を含む) (3)提出物(レポート・テスト等含む) (4)キャリア特論などの合同授業等の活動 詳細については、指導教員の指導に従うこと。
留意事項	・2年次後期のゼミ分属で決定したクラスで基本的に履修する。 ・合同授業の教室等については、別途指示するので指示に従うこと。 ・4年次での卒業研究での取り組みを意識し、指導教員の指導に従うこと。

ノートPCの授業での利用	基本的にPCを使用する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》 竹原広実：企業での営業企画に向けての業務経験あり 三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり 酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり 安川涼子：企業における工学系開発業務の経験あり
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	PSS3600A0J		
科目名	心理学演習		
副題			
担当教員	伊藤 一美		
単位数	4単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	水曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	120	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	基礎科目や専門科目で得られた知識を踏まえ、より深く学ぶために少人数のゼミ別に各専門分野の研究法を習得する。基礎文献の探索と理解、実験法・調査法・観察法の基礎事項の学習など、その分野の特徴を活かした授業により、卒業研究へとつなげていく。 1. 研究テーマを設定することができる 2. 研究テーマにそった研究方法を計画することができる 3. 研究テーマおよび研究方法について適切に議論することができる
教育・学習の個別課題	1. 心理学の領域の広がりを確認し、どのような領域を卒業研究として深めていくのかをまとめる。 2. 各領域の基礎理論や知見を深く理解するため、専門分野の図書、学術論文、インターネット上の資料などの読解力を身につける。 3. 研究論文の読み方および書き方の基本的事項を習得する。 4. 各自の関心領域に合わせて問題意識を徐々に深め、研究計画を組み立てる。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自主性をもって学ぶ姿勢・態度が身についていない。	ある程度、自主性をもって学ぶ姿勢・態度を身につけている。	おおむね自主性をもって学ぶ姿勢・態度を身につけている。	自主性をもって学ぶ姿勢・態度を十分身につけている。
知識・理解力	心理学の理論や方法論について知識を身につけていない。	ある程度、心理学の理論や方法論について知識を身につけている。	おおむね心理学の理論や方法論について知識を身につけている。	心理学の理論や方法論について知識を十分身につけている。
言語力	学びの内容や自分の考えを言語化し、他者に伝達する力が身についていない。	ある程度、学びの内容や自分の考えを言語化し、他者に伝達する力が身についている。	おおむね学びの内容や自分の考えを言語化し、他者に伝達する力を身につけている。	学びの内容や自分の考えを言語化し、他者に伝達する力を十分身につけている。
思考・解決力	心理学的な知識を用いて問題解決する力が身についていない。	ある程度、心理学的な知識を用いて問題解決する力が身についている。	おおむね、心理学的な知識を用いて問題解決する力を身につけている。	心理学の知識や方法論を使って、問題を解決する力を十分身につけている。
共生・協働する力	他の受講生と協力しながら問題解決しようとする姿勢や意欲が身についていない。	ある程度、他の受講生と協力しながら問題解決しようとする姿勢や意欲が身についている。	おおむね、他の受講生と協力しながら問題解決しようとする姿勢や意欲を身につけている。	他の受講生と協力しながら問題解決しようとする姿勢や意欲を十分身につけている。
創造・発信力	新たなアイデアや自分の考えを創造し、他者に発信する力が身についていない。	ある程度、新たなアイデアや自分の考えを創造し、他者に発信する力が身についている。	おおむね、新たなアイデアや自分の考えを創造し、他者に発信する力を身につけている。	新たなアイデアや自分の考えを創造し、他者に発信する力を十分身につけている。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 心理学科 コース配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	オリエンテーション
第2回	心理学の諸分野について（1）分野の広がりを知る
第3回	心理学の諸分野について（2）各自の関心テーマやキーワードについて調べる
第4回	心理学の諸分野について（3）図書や論文検索について学ぶ（文献検索オリエンテーションを含む）
第5回	心理学の文献を読む（1）図書や論文、資料などを検索、入手して触れる
第6回	心理学の文献を読む（2）図書や論文、資料などを読み、理解を深める
第7回	心理学の文献を読む（3）図書や論文、資料などについて、ディスカッションを行う
第8回	中間オリエンテーション
第9回	心理学の研究法について（1）さまざまな心理学研究法を学ぶ
第10回	心理学の研究法について（2）各研究法について理解を深める

第11回	心理学の研究法について（３）関心ある研究法について具体的に学ぶ
第12回	卒業研究計画の立案について（１）卒業論文のイメージを作る
第13回	卒業研究計画の立案について（２）各自の関心テーマを広げる
第14回	卒業研究計画の立案について（３）各自の関心テーマを深める
第15回	前期の振り返り
第16回	後期オリエンテーション：「卒業研究の手引き」再確認
第17回	卒業研究の計画検討（１）グループディスカッション、発表、個別指導等を通じて、各自の計画を練る
第18回	卒業研究の計画検討（２）グループディスカッション、発表、個別指導等を通じて、各自の計画を練る
第19回	卒業研究の計画検討（３）グループディスカッション、発表、個別指導等を通じて、各自の計画を練る
第20回	卒業研究の計画検討（４）グループディスカッション、発表、個別指導等を通じて、各自の計画を練る
第21回	卒業研究に必要なスキルと心構えについて（１）データ収集方法の基礎
第22回	卒業研究に必要なスキルと心構えについて（２）データ収集方法の実際
第23回	卒業研究に必要なスキルと心構えについて（３）データの集約と分析の基本
第24回	卒業研究に必要なスキルと心構えについて（４）データ収集に向けての具体的準備
第25回	卒業研究に必要なスキルと心構えについて（５）文献の引用・データ収集と研究倫理
第26回	卒業研究計画の立案と実行（１）テーマ設定と問題意識の確認
第27回	卒業研究計画の立案と実行（２）研究のアウトラインと作業工程の検討
第28回	卒業研究計画の立案と実行（３）実行のための留意点の確認
第29回	卒業研究計画の立案と実行（４）次年度に向けての課題確認
第30回	全体の振り返りと今後のスケジュール確認
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	１．ゼミに分属し、ゼミ担当教員（指導教員）の指導内容に沿って知識や技術を習得する。 ２．受講者が発表し互いに討論する演習形式、教員からの講義形式、実習形式等が含まれる。 ３．自分の問題意識をもって学習する自主性と意欲が望まれる。 ４．提出物などの課題や発表などの取り組みについては、manabaなどを通じての添削や授業内でのコメントなどでフィードバックされる。
準備学習の具体的な方法	１．それまでに専門科目で学んだ授業内容を復習する。 ２．社会状況に関心を向けるとともに、自分なりの問題意識や疑問をもち、批判的な思考を心掛ける。 ３．関心あるテーマについては、図書や論文、インターネットなどで調べる習慣をつける。 ４．Word、Excel、PowerPointなど、卒業研究に必要なPCスキルを身につけ、データ管理の方法についても日頃から意識を持つようにする。 ５．自分の発表の際には十分な準備を行い、他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	120
評価方法・評価基準	授業参加度、発表のしかた、資料の作り方、質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。
留意事項	水曜日３講時、出席必須 具体的な授業計画は担当教員が具体的に示し、卒業研究に向けての課題進捗によって調整・変更する。

ノートPCの授業での利用	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EDS3600A0J		
科目名	こども教育演習		
副題			
担当教員	田中 裕喜		
単位数	4単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	水曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	150	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	少人数のゼミに分かれて、各学問分野の指導教員のもとにその研究法を習得する。文献の講読、資料の蒐集、調査、統計、実験、観察、インタビューなど、各分野ごとの研究法を学び、卒業論文作成のための基本的能力を培う。そのうえで、自分自身の関心や問題意識に照らした研究テーマを設定し、研究計画を立てる。
教育・学習の個別課題	各学問分野の研究法を学んでいく過程で、さまざまな個別課題が提示される。それらの課題はそれぞれの学問分野によって異なるため、各指導教員の指示に従うこと。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができていない。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定することができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てることができている。	自らの関心に基づいて研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てて、取り組んでいる。
創造・発信力	自らが選んだ分野の研究法を理解することができていない。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができている。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができており、それをを用いて研究していこうとしている。	自らが選んだ分野の研究法を理解することができており、それをを用いて研究に着手している。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 こども教育学科 コース配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	それぞれのゼミにおいて示される。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	ゼミに分属し、それぞれの学問分野の研究法を身につけていく。 各自が研究テーマを設定し、問いを立てて、主体性をもって探究していく。 提出課題に対するコメントや添削を受けて研究能力を養う。
準備学習の具体的な方法	各ゼミの担当教員の指示に従うこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	120
評価方法・評価基準	授業への参加度、文献の理解度、レジュメ、発表と質疑応答、レポート課題などを総合的に評価する。
留意事項	水曜3限、出席必須。

ノートPCの授業での利用	各ゼミの担当教員の指示に従うこと。
教員への連絡方法	manabaを利用／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	INF3600A0J		
科目名	社会情報演習		
副題	社会情報学ゼミ		
担当教員	吉田 智子		
単位数	4単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	水曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	120	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	「社会情報演習」は、社会情報学環の学生として「情報の知識や技術を社会の課題解決に役立たせる」ために、専門的に知識・理解を深める授業である。このゼミでは情報社会全般を研究範囲とし、情報技術が今後の社会に与える変化や影響を対象とする。そして、4年次の卒業研究に向けて、受講生各自に適した研究テーマを自ら決めることができるよう、プロジェクトやフィールドワークも実施しながら、研究活動に関して系統的に学ぶ。
教育・学習の個別課題	・インターネットの歴史を踏まえた上で、情報技術の発展による社会の変化への理解を深める。 ・調査、研究、論文、プレゼンテーション等での発表の方法を身につける。 ・各自が関心のあるテーマから卒業論文が完成可能な課題、テーマを見つける。 ・卒業論文の手順、技術、さらにはそれに必要な調査、研究方法を修得する。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組むことができない。	課題に主体的に取り組もうとしている。	課題に主体的に取り組んでいることが成果として示されている。	課題に主体的に取り組んだ成果が示され、課題を発展的に考察することができる。
知識・理解力	授業内容や資料、文献について理解できない。	授業内余剰や資料、文献についてある程度理解できる。	授業内容や資料、文献についてほぼ十分に理解できる。	授業内容や資料、文献について十分に理解でき、批判的に検討できる。
言語力	課題の内容を文章または口頭で適切に表現できない。	課題の内容を文章または口頭である程度表現できる。	課題の内容を文章または口頭で十分に表現できる。	課題の内容を文章または口頭で十分にかつより効果的、適切な形で表現できる。
思考・解決力	授業での課題について思考しようとしていない。	授業での課題について思考しようとする。	授業での課題について十分に思考できる。	授業での課題について十分かつ批判的に思考できる。
共生・協働する力	グループワーク、ディスカッションに参加しない。	グループワーク、ディスカッションに参加しようとする。	グループワーク、ディスカッションに参加し、貢献できる。	グループワーク、ディスカッションに参加し、貢献し、グループ全員が貢献できる関係を構築できる。
創造・発信力	自分の関心あるテーマについて考えたり調べたりしない。	自分の関心あるテーマについて考えることや調べることが十分ではない。	自分の関心あるテーマについて考え、調べ、その内容について説明することができる。	自分の関心あるテーマおよび関連領域に関して積極的、自発的に考え、調べ、その内容について説明することができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 社会情報課程

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	このゼミの進め方、ゼミで取り組める研究内容についてなどのガイダンス
第2回	研究テーマの見つけ方と論文作成の10のステップに関して (ステップ1：レポート・論文の作成手順を知る、ステップ2：テーマの選択、ステップ3：事前調査と仮アウトライン、ステップ4：関連文献の調査、ステップ5：データベースの検索、ステップ6：視聴覚・電子メディアの調査、ステップ7：アンケートとインタビュー、ステップ8：文献の読解と執筆、ステップ9：出典の表示、ステップ10：仕上げ)
第3回	このゼミで扱う各種の研究方法論（文献調査、インタビューによる質的調査、イベントや講習会の実施や教材制作を研究にする、など）、既存の論文の読み込み、研究計画書のサンプルの紹介など
第4回	文献検索実習（情報の入手、分析、課題解決への利用）、図書館オリエンテーション
第5回	【合同授業】社会情報学環の卒業研究に関する一斉ガイダンス①（論文の著作権を守った書き方、研究発表のポスター発表に関して、など）
第6回	プロジェクトの企画と実施（1）プロジェクトの概要を理解
第7回	プロジェクトの企画と実施（2）プロジェクトのスタッフとして必要な知識の整理
第8回	プロジェクトの企画と実施（3）プロジェクトのスケジュール管理とリスク管理

第9回	プロジェクトの実施と情報発信（１）プロジェクトの発信手段の整理
第10回	プロジェクトの実施と情報発信（２）プロジェクトの振り返りと情報発信
第11回	プロジェクトの実施と情報発信（３）情報発信のメンテナンスのスケジュール管理
第12回	各自の関心のあるテーマの先行研究の探索と発表準備（１）先行研究の情報収集、図書館の利用
第13回	各自の関心のあるテーマの先行研究の探索と発表準備（２）発表の準備
第14回	各自の関心のあるテーマのレポート作成と発表（１）発表と振り返り
第15回	各自の関心のあるテーマのレポート作成と発表（２）発表した内容の文書での提出
第16回	興味を持っているテーマを研究課題にするための研究方法などの具体的な調査、情報収集
第17回	各自の論文作成のステップ（１）：テーマの選択・仮決定
第18回	各自の論文作成のステップ（２）：事前調査と仮アウトラインの作成
第19回	各自の論文作成のステップ（３）：関連文献の調査
第20回	各自の論文作成のステップ（４）：文献の入手と読み込み
第21回	各自の論文作成のステップ（５）：既存の論文のさらなる読み込みと研究計画立案
第22回	各自の論文作成のステップ（６）：研究計画書の作成
第23回	各自の論文作成のステップ（７）：研究計画書に従い研究の開始
第24回	卒業研究の作業、スケジュールの管理（タスクマネジメント）に関して
第25回	【合同授業】社会情報学環の卒業研究に関する一斉ガイダンス②（卒業論文の執筆のスケジュールに関して、など）
第26回	実施したフィールドワークの情報発信の実施
第27回	各自の研究テーマと研究計画の発表とディスカッション（１）発表とそのフィードバック
第28回	各自の研究テーマと研究計画の発表とディスカッション（２）発表内容の振り返り
第29回	卒論発表会（2026年1月14日）への参加
第30回	まとめ（各自の卒業論文完成への今後のスケジュールの確認）、論文の序章の提出に関して
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション／実習、実験／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	受講者全員が指示された事前学習を行ったことを前提に、プロジェクトやディスカッションを実施し、内容に関する議論・分析を行う。各自の発表の回においては、お互いの発表内容をフィードバックし合う。
準備学習の具体的な方法	授業で指示した資料を読み、また授業で指示された課題についての文献を収集した上で授業に参加する。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	授業内活動への参加(40%)、各種の提出レポートやクラス発表などによる評価(60%)の総合点で評価する。
留意事項	ゲスト講師による授業を行うことがある。また、授業の内容に即した学外見学、学外授業を行うこともある。

ノートPCの授業での利用	ノートPCの利用を推進する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィシアワー※専任教員のみ

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEN1150N0J		
科目名	生命倫理		
副題			
担当教員	松井 吉康		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	月曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	「薬害」「障がい者問題」さらには女性の人生にとって大きな問題である「妊娠、出産、中絶」といった「リプロダクティブヘルス」に関係する事柄について、その背景となる基本的知識を習得し、それらを通して自らの生命観を捉え直してもらう。
教育・学習の個別課題	現代社会の倫理に関する基礎的な考えを理解し、先端医療技術についての知識の習得する。 経済原理と生命の尊厳、リプロダクティブヘルス、障害学について基礎的な知識を習得する。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	100%
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス この授業の狙い。
第2回	倫理学とは 日本人が学ぶ機会がない倫理学という学問の基礎について説明する。
第3回	現代社会の善悪の基準 現代社会の行動規範を定めている考え方の一つである功利主義について学ぶ。
第4回	功利主義と人権思想
第5回	卵子老化 日本は不妊が大きな問題となっているが、その大きな原因の一つである卵子老化について学ぶ。
第6回	出生前診断 胎児の段階で障害の有無が分かる出生前診断の問題点。
第7回	様々な障がい 日本の社会では非常に顕在化しにくい問題としての障がい。
第8回	ダウン症
第9回	差別を知る カナダで行われた差別を実地で体験する授業。
第10回	メディアと戦争 ラジオが引き起こしたルワンダ内戦。
第11回	ヨーロッパと日本における働き方の違い
第12回	基本的人権、過労死という問題、

第13回	ジェンダー問題 日本における性格差。
第14回	戦争 日本人と戦争。
第15回	「私」と「私の生命」 これまでの振り返りと質問への対応
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート
教育・学習・フィードバックの方法	講義形式であるが、各人に主体的に思考してもらうため、質問を投げかけて、質疑応答を行うことがよくある。 （質問に答えるのは任意であり、決して強制されることはない） 五回目以降は、様々な社会問題についてドキュメンタリー（視聴覚資料）を見てもいい、その後、コメントカードにコメントを書いてもらっている。 必要な場合は、授業の最初に前回書いてもらったコメントについて論評する。 必要なフィードバックは、manabaにて行う。
準備学習の具体的な方法	普段から自分の身の回りで起こっている出来事やニュースなどで報じられる医療問題、社会問題について関心を持つようにしておくことが望ましい。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	15
評価方法・評価基準	100パーセント、最終レポートで評価する。ただし、レポートを提出することが出来るのは、授業に十回以上出席している者に限る。 レポートを執筆する際には、問題を自分の問題として捉え、あくまでも自分の頭で考えることが大切である。 したがって評価もまた、各人が「どれだけ自分の頭で考えたか」で評価する。レポートの内容評価については、manaba にて回答する。
留意事項	出来るだけ質疑応答の多い授業にしたいと思っています。教師が毎回、様々な問いを投げ掛けますが、学生の側からも色々な質問や発言が出てくる事を期待しています。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト
参考文献
参考URL
授業担当者の様々な記事がアップされているので、関心がある人は目を通してください。 https://note.com/mtanuki1260

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GEN1450N0J		
科目名	暮らしの統計学		
副題			
担当教員	菊野 雄一郎		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	火曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	統計学は、数学の中で最も生活に密着した分野であり、また、企業においても、数学の中で学んでもらいたい分野の上位にあげられることが多い。本科目では身近な暮らしに関係した統計データを基に、統計学を学ぶことで、社会における様々な統計データを読み解く能力を身につけることを目標とする。
教育・学習の個別課題	1. 統計データの種類や集計法の理解 2. グラフの種類と特徴の理解 3. 統計データの代表的な指標の理解 4. 平均値の比較と連続変数の関連性の理解

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				学んだ統計の手法をもとにより高度なレベルの統計手法を学べる
知識・理解力				統計の手法ごとに何を分析できるかを理解している
言語力				統計の手法を自らの言葉で説明できる
思考・解決力				データに対して適切な分析手法を選び、実施することができる
共生・協働する力				分析によって得られた結果を文章にまとめて、統計を知らない人に伝えることができる
創造・発信力				問題解決のために、今あるデータに加えて足りないデータを集め、分析できる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	心理統計学とは何か（心理学における統計の意義）
第2回	統計学用語の基礎知識（心理統計学の基礎的用語や概念の理解）
第3回	心理統計学の基礎（1） 尺度や変数の種類と記述方法
第4回	心理統計学の基礎（2） 度数分布と統計図表
第5回	心理統計学の基礎（3） 代表値・平均値と分散／標準偏差の算出
第6回	2変数の関係（1） 散布度と相関
第7回	2変数の関係（2） 相関の解釈、直線回帰
第8回	相関係数の検定
第9回	カイニ乗検定
第10回	t検定（対応のない2群の検定）
第11回	t検定（対応のある2群の検定）
第12回	分散分析（参加者間の検定・1要因の分散分析）

第13回	分散分析（参加者間の検定・複数要因の分散分析）
第14回	分散分析（参加者内の検定）
第15回	まとめ
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）
教育・学習・フィードバックの方法	PowerPoint、Excelなどを使って、主として講義形式により、それぞれのトピックの解説を行う。また、授業時に簡単な演習を行ってもらう。次回の授業の最初に、演習の内容について、復習、解説を行う。
準備学習の具体的な方法	毎回の授業終わりに次回の予告をするので、インターネット検索などにより、次回のトピックのあらましをつかんでおくこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	課題レポートをほぼ毎授業提出してもらう。定期試験（30%）、提出物(40%)、授業参加（30%）に基づき評価を行う。
留意事項	受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GCP2350N0J		
科目名	アカデミック・ライティング		
副題			
担当教員	黒田 一平		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	水曜4限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員	50人	備考	

科目の教育目標	大学の授業で求められるレポートとは何かを知り、レポートや卒論を書くための基礎的な力を身につけることを目指す。学術的な文章を「読む」トレーニングと同時に、アカデミックライティングの基本的な構成について学びながら「書く」トレーニングをすることで、自信をもってレポートを書けるようになることが目標。
教育・学習の個別課題	1) レポートを書く上で必要な言語能力（語彙力、文章構成力など）を養う 2) 他者の文章の論点を理解し、批判的に検討できるようになる 3) 文献の探し方を学び、先行研究を適切な形で参照・引用できるようになる 4) 問いを立て、自分の考えを発展させる力を身につける

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
理解する力	著者の主張を見抜けない。	著者の主張を見抜くことができるが、要約は内容の羅列にとどまる。	著者の主張とそれを支える根拠を見抜いた上で、論旨が明確になるように要約している。	著者の論旨をひとことで述べたのち、その具体的内容を整理し直し、自分の言葉で語り直している。
批判的に考察する力	著者の主張を見抜けておらず、本で書かれていることと自分の意見が混在している。考察は漫然としており、感想の域を出ない	自分なりの考えを述べているが、それに対する根拠が述べられていない、または著者の主張とずれる。	内容に対する批判的考察が行われ、自らの意見に対してその根拠が述べられる。	社会的な背景や自らの問題意識と関連付けて、本の内容に対する批判を行っており、説得的な議論を展開している。
表現する力	常体と敬体の混在、文法的なエラーなどが見られ、思いついたままに書いている。	一見しておかしな表現はないが、話し言葉的な表現や同じ言葉の繰り返しが見られる。	パラグラフライティングの形をとり、読者への配慮が見られる。	導入、本文、結論のそれぞれで求められる内容を書いている。適切な接続表現の使用、語彙の豊かさが見られる。
知識	剽窃を行ってしまう。			出典を示す意義を理解し、適切な方法で引用できるようになる。レポートの構造を知り、それにそって自らの考えを表現できる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	100%
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス 授業の目的について説明。レポート課題の意義について考える。
第2回	読み手のことを考える 読み手を意識するとはどういうことかを考え、相手が知らないことを前提に文章を書いてみる。
第3回	レポートとは何かを知る レポートと作文の違いを解説。パラグラフライティングとは何かを学び、実際に挑戦してみる。
第4回	事実と考えの違い 事実と考えはどのように違うのかを解説する。客観的記述はありえるのかを考える。
第5回	きちんとつなげる 話し言葉と書き言葉の違いを検討する。文と文の関係を見抜き、適切な接続表現を入れる練習をする。
第6回	要約する 文章の構成要素（中心的主張と根拠とは何か）を解説する。要約するときにどのような情報を切り落とすべきかを判断する練習をする。
第7回	批判的に読む 文献の読み方、メモの取り方を解説する。

第8回	引用する 剽窃とは何か、文献を適切に引用する方法を示す。様々な方法で実際に引用してみる。
第9回	メタ的な視点を取る 文献の中で著者が何をしているかによって引用の動詞を使い分け、「～と述べている」以外の表現のバリエーションを磨く。
第10回	疑問を持つ 文献に対して、疑問をもつ練習をする。
第11回	反論する 文献に対して、反論してみる。
第12回	問いを立てる 問いを立てる重要性を学ぶ。自分が取り上げる文献に対して、考察に値する問いを立てる。
第13回	資料を探す 図書館や文献検索エンジンの使い方を示す。
第14回	考えをまとめる マインドマップの作り方、アウトラインの書き方を解説する。最終レポートに向けて、実際に自分の考えをまとめてみる。
第15回	これまでのまとめ 授業で学んできたことを再度確認したうえで、ピアレビューを通し最終レポートの推敲をする
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	本科目では、レポートを書く上で知っておくべきことを解説するとともに、実際に「読む」「書く」トレーニングを行う。授業内ではグループワークを通して課題に取り組み、自分の文章を相対化する機会を多く設ける。実践を通して技術を身につけてもらいたいため、授業時間外にも課題に取り組んでもらうことになる。課題に関しては必ずフィードバックをする。最終試験として予定しているブックレポートでは、講義内容を活用して論理的文章が書けているかをみる。
準備学習の具体的な方法	毎回配布プリントを用いて授業を進めるため、基本的に予習は必要ないが、配布プリントと板書内容の復習を必ずした上で翌回の授業に参加すること。また、授業時間内にできなかった課題を、宿題として自宅で行うように指示する場合もある。その際は授業内容や授業資料を参考にすること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	積極性（30％）、課題などの提出物（40％）、期末レポート（30％）から評価を算出する。全授業回数の2/3以上の出席と、最終課題である期末レポートの提出が単位取得の条件となる。
留意事項	1) ガイダンスをおこなうため、初回の授業から参加すること 2) 授業内で資料を配付する 3) 授業計画は、実際の授業の状況に応じて順序を変えることがある

ノートPCの授業での利用	授業では、スマートフォンやタブレット等の携帯端末を利用して、出席登録や課題の提出などを行う。 携帯端末の代わりとしてノートPCの利用も可能。 （ただし、授業内容以外の作業は行わないこと。）
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／その他（教員より別途指示）

テキスト				
『学生のレポート・論文作成トレーニング：スキルを学ぶ21のワーク（改訂版）』	桑田てるみ（編）	実教出版	9784407336146	
参考文献				
『大人のための国語ゼミ』	野矢茂樹	山川出版社	9784634151215	
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GCP1501N0J		
科目名	キャリア実習Ⅰ		
副題			
担当教員	濱中 倫秀		
単位数	1単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	就業体験を通して、早期に自己の職業適性や将来設計について考えるきっかけとする。 その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。 さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び学習意欲を喚起し、主体的に学ぶ学生生活が出来るようになる。
教育・学習の個別課題	・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。 ・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。 ・就業体験を通して学び得た事と今後の行動計画をまとめ、プレゼンテーションする。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ていない。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加をしようとしている。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。	常識やマナーを守り、高いレベルで自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。
知識・理解力	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分な理解が出来ていない。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、理解しようとしている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分理解出来ている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、高いレベルで理解出来、応用も出来ている。
言語力	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化出来ない。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化しようとしている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、十分言語化出来ている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、具体的に言語出来ており、独自性も見られる。
思考・解決力	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動出来ない。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動しようとしている。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か主体的に考え・行動出来ている。	実習中に取り組む課題を能動的に見つけ、解決に何が必要か考え・行動出来ている。
共生・協働する力	他者との協働や意見交換が出来ていない。	他者との協働や意見交換をしようとしている。	他者との協働や意見交換を十分出来ている。	他者との協働や意見交換を中心になって出来ている。
創造・発信力	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信出来ない。	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信しようとしている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを十分発信出来ている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを具体的に発信出来ている。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	100%
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	第1回 事前研修① インターンシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明 * 日時・教室は 4 月のガイダンスにて説明する 第2回 事前研修② 実習先の研究成果についての発表・目標立案 * 日時・教室は 4 月のガイダンスにて説明する 第3回 実習① 実習先での就業体験 第4回 実習② 実習先での就業体験 第5回 実習③ 実習先での就業体験 第6回

	実習④ 実習先での就業体験 第7回 実習⑤ 実習先での就業体験 第8回 実習⑥ 実習先での就業体験 第9回 実習⑦ 実習先での就業体験 第10回 実習⑧ 実習先での就業体験 第11回 実習⑨ 実習先での就業体験 第12回 実習⑩ 実習先での就業体験 第13回 事後研修①実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明 第14回 事後研修② 実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備 第15回 成果発表会学び得たことと今後の行動計画の発表 ＊日時・発表場所と方法は4月のガイダンスにて説明する
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。 （事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は4月のガイダンスで説明する） 提出するレポートは下記の通り。 いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までにそれぞれ確実に提出すること。 1.実習前／実習先についての事前レポート 2.実習中／毎日記入する実習日誌 3.実習後／事後レポート
準備学習の具体的な方法	・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をしておくこと。 ・実習先では指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。 ・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。 ・実習中は水分補給や十分な睡眠、加えて新型コロナウイルス感染防止を万全にすること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	15
評価方法・評価基準	授業態度 85％（実習先の評価60％、事前・事後研修および成果発表会の評価25％）レポート15％（未提出者は評価対象外）で評価する。 ※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。
留意事項	・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。 ・コンソーシアム京都が運営するインターンシップ（単位認定有）に参加を希望する学生については、上記の説明会にて説明するので参加すること。 （どうしても都合が合わない場合は、早めにキャリアセンターの窓口申し出ること） ・キャリアセンターからの連絡、指示はmanaba経由が多いので、定期的に確認し、見落としがないよう注意しておくこと。 ・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。

ノートPCの授業での利用	授業（事前・事後研修）でのノートPCやタブレットの使用は可能（ただし、授業内容以外の作業は行わないこと）
教員への連絡方法	manabaを利用／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト	
参考文献	
参考URL	

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目≫ 中小企業での採用人事経験あり。
-------------------	----------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GCP1502N0J		
科目名	キャリア実習Ⅱ		
副題			
担当教員	濱中 倫秀		
単位数	1単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	長期または複数の就業体験をすることで、早期に自己の職業適性や将来設計について深く考えるきっかけとする。 その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。 さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び学習意欲を喚起し、より高いレベルで切磋琢磨する学生生活を出来るようになる。
教育・学習の個別課題	・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。 ・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。 ・就業体験を通して学び得た事と今後の行動計画をまとめ、プレゼンテーションする。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ていない。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加をしようとしている。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。	常識やマナーを守り、高いレベルで自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。
知識・理解力	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分な理解が出来ていない。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、理解しようとしている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分理解出来ている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、高いレベルで理解出来、応用も出来ている。
言語力	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化出来ない。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化しようとしている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、十分言語化出来ている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、具体的に言語出来ており、独自性も見られる。
思考・解決力	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動出来ない。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動しようとしている。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か主体的に考え・行動出来ている。	実習中に取り組む課題を能動的に見つけ、解決に何が必要か考え・行動出来ている。
共生・協働する力	他者との協働や意見交換が出来ていない。	他者との協働や意見交換をしようとしている。	他者との協働や意見交換を十分出来ている。	他者との協働や意見交換を中心になって出来ている。
創造・発信力	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信出来ない。	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信しようとしている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを十分発信出来ている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを具体的に発信出来ている。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	100%
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	第1回 事前研修① インターンシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明 * 日時・教室は 4 月のガイダンスにて説明する 第2回 事前研修② 実習先の研究成果についての発表・目標立案 * 日時・教室は 4 月のガイダンスにて説明する 第3回 実習① 実習先での就業体験 第4回 実習② 実習先での就業体験 第5回 実習③ 実習先での就業体験 第6回

	実習④ 実習先での就業体験 第7回 実習⑤ 実習先での就業体験 第8回 実習⑥ 実習先での就業体験 第9回 実習⑦ 実習先での就業体験 第10回 実習⑧ 実習先での就業体験 第11回 実習⑨ 実習先での就業体験 第12回 実習⑩ 実習先での就業体験 第13回 事後研修①実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明 第14回 事後研修② 実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備 第15回 成果発表会学び得たことと今後の行動計画の発表 ＊日時・発表場所と方法は4月のガイダンスにて説明する
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。 （事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は4月のガイダンスで説明する） 提出するレポートは下記の通り。 いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までにそれぞれ確実に提出すること。 1.実習前／実習先についての事前レポート 2.実習中／毎日記入する実習日誌 3.実習後／事後レポート
準備学習の具体的な方法	・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をしておくこと。 ・実習先では指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。 ・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。 ・実習中は水分補給や十分な睡眠、加えて新型コロナウイルス感染防止を万全にすること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	15
評価方法・評価基準	授業態度 85％（実習先の評価60％、事前・事後研修および成果発表会の評価25％）レポート15％（未提出者は評価対象外）で評価する。 ※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。
留意事項	・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。 ・コンソーシアム京都が運営するインターンシップ（単位認定有）に参加を希望する学生については、上記の説明会にて説明するので参加すること。 （どうしても都合が合わない場合は、早めにキャリアセンターの窓口申し出ること） ・キャリアセンターからの連絡、指示はmanaba経由が多いので、定期的に確認し、見落としがないよう注意しておくこと。 ・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。

ノートPCの授業での利用	授業（事前・事後研修）でのノートPCやタブレットの使用は可能（ただし、授業内容以外の作業は行わないこと）
教員への連絡方法	manabaを利用／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト	
参考文献	
参考URL	

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目≫ 中小企業での採用人事経験あり。
-------------------	----------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GCP2500N0J		
科目名	キャリア形成ゼミ		
副題			
担当教員	濱中 倫秀		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	集中

科目の教育目標	<p>社会で必要とされる力を「社会人基礎力」*1と定義し、特に実践力を身につけることを目標とする実践型科目である。そのため、本学の学生が実社会で活動するプロジェクトをゼミとして設定し、各ゼミにおいては企画、立案、実践、検証の一連のプロセスを経験するものである。このプロセスの中で、企画、立案することで考え抜く力を、実践することで前に踏み出す力を、またグループワークを通してチームで働く力をつけ、社会人基礎力を身につけていくものである。</p> <p>*1「社会人基礎力」とは「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として「前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力」の3つの能力と12の能力要素を2006年に経済産業省が定義づけたもの。</p>
教育・学習の個別課題	<p>(1)各ゼミに関連した業界分析、職業知識、また情報収集力、分析力をつけること。 (2)課題や問題を解決する企画立案力をつけること。 (3)グループ活動における協働力や、コミュニケーション力をつけること。 (4)企画を実行し、検証する力を身につけること。 (5)自らの企画内容や成果を伝えるプレゼンテーション力を身につけること。</p>

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
情報収集力	各ゼミの到達目標に対して、必要な情報を集められていない。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を、指示された通りに集めている。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を集め、時折共有している。	各ゼミの到達目標に対して、必要と思われる情報を能動的に集め、たびたび共有している。
企画力	目標達成に向けた策を自ら考えられてはいない。	目標達成に向けた提案を考えられている。指示した解決方法を選択できている。	目標達成に向けた策を提案している。新しい解決方法を時折考えられている。	目標達成に向けた複数の提案をし、最善の策を選択している。既存の発想にとらわれず、常に新しい解決方法を考えられている。
コミュニケーション力	意思疎通が困難。	意見を言い、他者の意見を聞き入れているときもある。教員が示すことで自分の役割を理解できている。	積極的に意見を言い、他者の意見を聞き入れている。時折チームで協力しようという意志が感じられる。	メンバーとしての役割を理解し、チームで協働しようという強い意志が感じられる。
実行力	指示されても課題に取り組まない。	指示があれば課題に取り組める。目標を明確にし、実行している。	自ら率先して課題に取り組んでいる。目標を明確にし、計画を立てて実行している。	自ら率先して課題に取り組む、他者を巻き込んで遂行できる。
プレゼンテーション力	伝えたい内容が相手に伝わらない。	伝えたい内容が伝わるよう工夫されている部分がある。	伝えたい内容が正しく伝わるよう効果的に工夫されている。	伝えたい内容が正しく伝わるよう論理的に構成され、効果的に工夫されている。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	100%
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	【全体会】1 オリエンテーション、各ゼミの担当者からの説明、マッチング相談会
第2回	【各ゼミでの活動】1 自分自身の目標について発表
第3回	【各ゼミでの活動】2 各ゼミのルールなどについて担当者と話し合う。＊活動スケジュール等の詳細は各ゼミ担当者の指示に従うこと。
第4回	【各ゼミでの活動】3 各ゼミごとに活動に必要な基礎知識を学ぶ
第5回	【各ゼミでの活動】4 現場実践等で情報収集を行う

第6回	【各ゼミでの活動】5 情報を分析し、課題解決に向けた役割分担やスケジュールを立案する
第7回	【各ゼミでの活動】6 課題解決に向けたアクションプランを立てる
第8回	【各ゼミでの活動】7 アクションプランの進捗についてゼミ内で共有する
第9回	【各ゼミでの活動】8 アクションプランの改善・見直しを行う
第10回	【各ゼミでの活動】9 アクションプランの改善・見直し結果の発表
第11回	【各ゼミでの活動】10 アクションプランの終了、効果検証
第12回	【各ゼミでの活動】11 実施したアクションに対する「振り返り（検証）」。さらに、その活動を「社会人基礎力・これからの就活」に結びつけるための議論 成果発表会の方向付け
第13回	【各ゼミでの活動】12 成果発表会に向けて、プレゼンテーションの準備
第14回	【全体会】2 成果発表会（各ゼミの1年間の活動とその成果を発表する。各ゼミの取組の内容・成果を伝える）
第15回	【全体会】3 活動の総括・リフレクション～1年間のゼミ活動をふりかえり、グループ内外で体験交流を行う。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション／実習、実験／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	・ゼミごとに取り組む課題や問題を十分に認識し、情報収集、分析を自ら主体的に取り組むこと。 ・実践演習は学外での活動が入る可能性がある。マナー、社会人としての心構えなど事前の指導をしっかりと受け、本学学生として自覚をもって行動すること。 ・グループワークや他者との協同作業が中心となるため、積極的なコミュニケーションを心がけること。 ・具体的なスケジュールは各ゼミ担当教員、又はキャリアセンターの指示に従うこと。 ・やむをえず欠席する場合は必ず担当教員に事前連絡を入れ、指示に従うこと。 ・「キャリア形成ゼミ」の活動については、授業支援システム（manaba）などを利用して報告書を作成し、提出すること。 ・授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。
準備学習の具体的な方法	・5～6月に各1回（予定）実施するオリエンテーションに必ず参加すること ・キャリア形成ゼミの特徴とねらい、及び各ゼミの目的などを理解する。 ・自分が選んだゼミの活動内容を理解し、概要について下調べをしておくこと。 ・「キャリア形成ゼミ」全体のmanabaと、自分が所属するゼミのmanabaの両方を随時チェックしておくこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	40
評価方法・評価基準	情報収集力(10%)、企画力(10%)、コミュニケーション力(10%)、実行力(10%)、プレゼンテーション力(10%)、各ゼミで設定した達成目標(40%)、最終回の全体会でのプレゼンテーションに対する評価(10%)を基本とする。
留意事項	2024年度は、以下の6ゼミが実施された。 1.メディアデザイン・企画・編集ゼミ 2.気候コミュニケーションゼミ 3.ワークショップ・デザインゼミ 4.京都の観光を考えるゼミ 5.人が食で幸せになるエビデンス探求ゼミ 6.京大硬式野球部集客アップゼミ ・2025年度に実施されるゼミやそれぞれの詳細については、前期（春学期）に実施される「キャリア形成ゼミ説明会」にて説明する。 （どうしても説明会に都合が合わない場合は、なるべく早くキャリアセンター窓口にて自主的に確認すること） ・土曜または日曜に全体会を実施する場合があるため、説明会時に日程を確認し、予定を確保してから履修すること。 ・学外の企業や団体と連携して実施するため、無断欠席など無責任な行動は厳しく禁止する。 ・一定の人数が集まらなければ実施しないゼミや定員が決まっているゼミもあるので、説明会時に確認すること。 ・この科目はWeb登録の必要はなく、活動後に単位が認定される。 ・テーマや授業の順序は変更することがある。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／オフィスアワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト	
参考文献	
参考URL	

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》 中小企業での採用人事経験あり。
-------------------	----------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	GCP3502N0J		
科目名	インターンシップⅠ		
副題			
担当教員	濱中 倫秀		
単位数	1単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	就業体験を通して、自己の職業適性や将来設計について考えるきっかけとする。 その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。 さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び意欲を喚起し、主体的な職業選択が出来るようになる。
教育・学習の個別課題	・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。 ・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。 ・就業体験を通して学び得た事と今後の行動計画をまとめ、プレゼンテーションする。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ていない。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加をしようとしている。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。	常識やマナーを守り、高いレベルで自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。
知識・理解力	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分な理解が出来ていない。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、理解しようとしている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分理解出来ている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、高いレベルで理解出来、応用も出来ている。
言語力	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化出来ない。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化しようとしている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、十分言語化出来ている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、具体的に言語出来ており、独自性も見られる。
思考・解決力	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動出来ない。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動しようとしている。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か主体的に考え・行動出来ている。	実習中に取り組む課題を能動的に見つけ、解決に何が必要か考え・行動出来ている。
共生・協働する力	他者との協働や意見交換が出来ていない。	他者との協働や意見交換をしようとしている。	他者との協働や意見交換を十分出来ている。	他者との協働や意見交換を中心になって出来ている。
創造・発信力	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信出来ない。	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信しようとしている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを十分発信出来ている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを具体的に発信出来ている。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	100%
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	第1回 事前研修① インターンシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明 * 日時・教室は 4 月のガイダンスにて説明する 第2回 事前研修② 実習先の研究成果についての発表・目標立案 * 日時・教室は 4 月のガイダンスにて説明する 第3回 実習① 実習先での就業体験 第4回 実習② 実習先での就業体験 第5回 実習③ 実習先での就業体験 第6回

	実習④ 実習先での就業体験 第7回 実習⑤ 実習先での就業体験 第8回 実習⑥ 実習先での就業体験 第9回 実習⑦ 実習先での就業体験 第10回 実習⑧ 実習先での就業体験 第11回 実習⑨ 実習先での就業体験 第12回 実習⑩ 実習先での就業体験 第13回 事後研修①実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明 第14回 事後研修② 実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備 第15回 成果発表会学び得たことと今後の行動計画の発表 ＊日時・発表場所と方法は4月のガイダンスにて説明する
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。 （事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は4月のガイダンスで説明する） 提出するレポートは下記の通り。 いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までにそれぞれ確実に提出すること。 1.実習前／実習先についての事前レポート 2.実習中／毎日記入する実習日誌 3.実習後／事後レポート
準備学習の具体的な方法	・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をしておくこと。 ・実習先では指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。 ・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。 ・実習中は水分補給や十分な睡眠、加えて新型コロナウイルス感染防止を万全にすること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	15
評価方法・評価基準	授業態度 85％（実習先の評価60％、事前・事後研修および成果発表会の評価25％）レポート15％（未提出者は評価対象外）で評価する。 ※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。
留意事項	・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。 ・コンソーシアム京都が運営するインターンシップ（単位認定有）に参加を希望する学生については、上記の説明会にて説明するので参加すること。 （どうしても都合が合わない場合は、早めにキャリアセンターの窓口申し出ること） ・キャリアセンターからの連絡、指示はmanaba経由が多いので、定期的に確認し、見落としがないよう注意しておくこと。 ・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。

ノートPCの授業での利用	授業（事前・事後研修）でのノートPCやタブレットの使用は可能（ただし、授業内容以外の作業は行わないこと）
教員への連絡方法	manabaを利用／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト	
参考文献	
参考URL	

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目≫ 中小企業での採用人事経験あり。
-------------------	----------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmgs-support@notredame.ac.jp

授業コード	GCP3503N0J		
科目名	インターンシップII		
副題			
担当教員	濱中 倫秀		
単位数	1単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	15	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	長期または複数の就業体験をすることで、早期に自己の職業適性や将来設計について深く考えるきっかけとする。 その上でコミュニケーション能力や主体的に行動することの重要性を学び、身につける。 さらには、事後研修を通して明確なキャリアビジョンの確立及び意欲を喚起し、より能動的に職業選択が出来るようになる。
教育・学習の個別課題	・就業体験を学び深いものにする為に、実習前に実習先の研究と目標設定を行う。 ・就業体験から得られた学びに基づき、進路選択に向けての情報収集方法を学ぶ。 ・就業体験を通して学び得た事と今後の行動計画をまとめ、プレゼンテーションする。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ていない。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加をしようとしている。	常識やマナーを守り、自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。	常識やマナーを守り、高いレベルで自律した実習・事前事後学習参加が出来ている。
知識・理解力	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分な理解が出来ていない。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、理解しようとしている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、十分理解出来ている。	実習・事前事後学習で身に着けるべき知識ついて、高いレベルで理解出来、応用も出来ている。
言語力	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化出来ない。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、言語化しようとしている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、十分言語化出来ている。	インターンシップに参加する目的や学んだことについて、具体的に言語出来ており、独自性も見られる。
思考・解決力	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動出来ない。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か考え・行動しようとしている。	実習中に取り組む課題に対し、解決に何が必要か主体的に考え・行動出来ている。	実習中に取り組む課題を能動的に見つけ、解決に何が必要か考え・行動出来ている。
共生・協働する力	他者との協働や意見交換が出来ていない。	他者との協働や意見交換をしようとしている。	他者との協働や意見交換を十分出来ている。	他者との協働や意見交換を中心になって出来ている。
創造・発信力	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信出来ない。	実習での経験を通して得た、自分の考えを発信しようとしている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを十分発信出来ている。	実習での経験を通して得た、自分の考えを具体的に発信出来ている。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	100%
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	第1回 事前研修① インターンシップの概要・心構えとマナー・事前課題の説明 * 日時・教室は4月のガイダンスにて説明する 第2回 事前研修② 実習先の研究成果についての発表・目標立案 * 日時・教室は4月のガイダンスにて説明する 第3回 実習① 実習先での就業体験 第4回 実習② 実習先での就業体験 第5回 実習③ 実習先での就業体験 第6回

	実習④ 実習先での就業体験 第7回 実習⑤ 実習先での就業体験 第8回 実習⑥ 実習先での就業体験 第9回 実習⑦ 実習先での就業体験 第10回 実習⑧ 実習先での就業体験 第11回 実習⑨ 実習先での就業体験 第12回 実習⑩ 実習先での就業体験 第13回 事後研修①実習の振り返り・経験交流とレポート課題について説明 第14回 事後研修② 実習で学び得た事の整理と今後の行動計画の立案・発表準備 第15回 成果発表会学び得たことと今後の行動計画の発表 ＊日時・発表場所と方法は4月のガイダンスにて説明する
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	事前・事後研修では、講義形式とグループワーク形式を織り交ぜて実施する。 （事前・事後学習及び成果発表会の日時と教室は4月のガイダンスで説明する） 提出するレポートは下記の通り。 いずれも評価に大きく関わるので別途指示する期日までにそれぞれ確実に提出すること。 1.実習前／実習先についての事前レポート 2.実習中／毎日記入する実習日誌 3.実習後／事後レポート
準備学習の具体的な方法	・インターンシップ実習先に関しては、HP等で十分に企業研究をしておくこと。 ・実習先では指示を待つだけでなく、自分から進んで何ができるのかを考え行動すること。 ・現場で働く社会人に確認・質問したい内容を考えておくこと。 ・実習中は水分補給や十分な睡眠、加えて新型コロナウイルス感染防止を万全にすること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	15
評価方法・評価基準	授業態度 85％（実習先の評価60％、事前・事後研修および成果発表会の評価25％）レポート15％（未提出者は評価対象外）で評価する。 ※事前・事後研修・成果発表会はもちろん、実習の無断欠席・遅刻は厳禁とする。
留意事項	・申請方法等詳細については4月に行うインターンシップ説明会で確認すること。 ・コンソーシアム京都が運営するインターンシップ（単位認定有）に参加を希望する学生については、上記の説明会にて説明するので参加すること。 （どうしても都合が合わない場合は、早めにキャリアセンターの窓口申し出ること） ・キャリアセンターからの連絡、指示はmanaba経由が多いので、定期的に確認し、見落としがないよう注意しておくこと。 ・自己開拓したインターンシップについてはキャリアセンターの規定を満たせば単位として認める。

ノートPCの授業での利用	授業（事前・事後研修）でのノートPCやタブレットの使用は可能（ただし、授業内容以外の作業は行わないこと）
教員への連絡方法	manabaを利用／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト	
参考文献	
参考URL	

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目≫ 中小企業での採用人事経験あり。
-------------------	----------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmgs-support@notredame.ac.jp

授業コード	LDA1251N1J		
科目名	暮らしと電気・エネルギー		
副題			
担当教員	藪 哲郎		
単位数	2単位	配当学年	1年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	私たちの暮らしはエネルギーを使うことによって成り立っている。その中で特に重要なのが電気エネルギーである。地球温暖化を防ぐにはCO2の排出量を減らさねばならない。そのためには、どのような方法でエネルギーを得るかを検討せねばならない。本講義は「電気とエネルギーの分野について、科学の知識を修得し、その知識に基づいて、適切に電気機器を使い、適切な判断をする能力」を養う。
教育・学習の個別課題	以下の知識を習得する ・電気の基礎知識を修得する。電圧、電流、抵抗、電力、電力量、電流量、電気材料、などの基礎知識を学ぶ。 ・屋内配線など住宅内の電気配線について知る ・感電など人体に対する電気の影響を知る ・ガスについて知る ・各種家電製品のしくみと使い方について知る ・照明のしくみについて知る ・情報機器の使い方について知る。 ・各種発電方式の特徴について知る。 ・電気エネルギーを貯蓄する方法について知る。 ・未来の主要なエネルギーである水素について知る ・カーボンニュートラル燃料について知る。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	電気の基礎（電圧・電流・電力）
第2回	電気の計算
第3回	電気と磁気の基本法則
第4回	送電・屋内配線
第5回	感電・漏電・電気の安全な使い方・テスタの使い方
第6回	ガスについて（燃焼計算・換気計算・ガスと電気の比較）
第7回	生活家電（エアコン・冷蔵庫・洗濯機）
第8回	生活家電（掃除機・電子レンジ・IH調理器）
第9回	照明
第10回	情報家電（テレビ、カメラ、パソコン）
第11回	情報家電（スマホ、ネットサーク）
第12回	エネルギーとは

第13回	各種発電方式 蓄電方式
第14回	水素の利用 カーボンニュートラル燃料
第15回	未来のエネルギー構成
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	
教育・学習・フィードバックの方法	授業中の質疑応答 テストの返却
準備学習の具体的な方法	教科書を読んで予習する。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	1 コマの授業につき 2 時間
評価方法・評価基準	テスト 60 % レポート (2回) 各20 %
留意事項	

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	その他（教員より別途指示）

テキスト				
やさしい家庭電気・情報・機械	薮哲郎	講談社	978-4-06-531295-7	
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGL2453N1J		
科目名	ことばのしくみ		
副題			
担当教員	田口 茂樹		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	火曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	言語を形成する規則体系について深く考察し、人間という種に固有の「言語能力」の本質に迫ることを教育目標とする。対象言語は主に英語と日本語の二言語とし、様々な言語現象を扱いながら両言語における文構築についての仕組みを明らかにする。理論的枠組みは生成文法理論を前提とし、特に統語論に焦点を当てる。
教育・学習の個別課題	1. 言語事実（統語現象）を観察し、一般化を導く。 2. 導いた一般化から仮説を立てる。 3. 先行研究によって提示されている理論を基に更なるデータを分析し、仮説の検証、修正をする。 4. 1-3のステップを繰り返すことにより、言語理論を学ぶと同時に議論の立て方についても学ぶ。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教材を通して積極的に内容を理解しようとし	教材を通して積極的に内容を理解しようとする	教材を通してある程度内容が理解できる	教材の内容をほぼ理解できる
言語力	データを正しく理解することができない	データを正しく理解することができる	データを的確に分析できる	データを的確に分析し、それを口頭・文章で表現できる
思考・解決力	テーマについて考えようとし	テーマについて考えようと努める	興味深いテーマを考えられる	興味深いテーマを考え、それを分析できる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス 導入と概略
第2回	文法とは？：言語の二面性と規則性
第3回	文法とは？：文法の成り立ちと意味
第4回	統語構造とは？：句構造と意味解釈規則
第5回	統語構造とは？：助動詞の有無、発音されない代名詞1
第6回	統語構造とは？：発音されない代名詞2、構造的同音異義
第7回	変形規則とは？：深層構造と変形規則
第8回	変形規則とは？：深層構造と変形規則、変形規則の説明力
第9回	変形規則とは？：変形規則の順序づけ、繰り上げ規則
第10回	変形規則とは？：変形規則に関わる条件（循環条件）
第11回	変形規則とは？：変形規則に関わる条件（構造依存性）
第12回	変形規則とは？：変形規則に関わる条件（境界性）
第13回	意味解釈規則とは？：代名詞
第14回	意味解釈規則とは？：表層構造

第15回	意味解釈規則とは？：痕跡、作用域、論理形式
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）
教育・学習・フィードバックの方法	教科書に基づいて、授業の各回で扱う言語事実の整理、観察をまず行い、一般化を導く。 次に、先行研究で提示されてきた諸規則、理論について学んだ上で、仮説の立て方、及び、検証の仕方、言語学における議論の立て方を身につける。
準備学習の具体的な方法	各回の授業テーマに関連する教科書の各章を必ず読み、内容を理解した上で授業に臨むこと。同時に、教科書を読んで分からなかった箇所を明らかにしておくこと。 与えられた練習問題は、必ず行い復習すること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	授業参加・小テスト：20% 中間テスト：40% 期末テスト：40%
留意事項	・「言語学概論」の授業で学んだ統語論の知識を前提とする。 ・感染症拡大等の状況によってはオンラインまたはオンデマンド授業となる場合がある。 ・進度や理解度に応じて授業計画に変更が生じる場合がある。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	その他（教員より別途指示）

テキスト				
生成文法	渡辺明	東京大学出版会	978-4130820158	
参考文献				
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGL3403N1E		
科目名	対人コミュニケーション		
副題			
担当教員	守崎 誠一		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	木曜5限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	コミュニケーション学の視点から、コミュニケーション全般について理解を深める。それにより、コミュニケーションが社会においてどのような役割を果たしており、よりよくコミュニケーションするために何が必要であるのかについて学ぶ。
教育・学習の個別課題	他者との相互作用の中でどのように私たちは自分のことを他者に伝えるのか。どのようにすれば他者の持つ自己の印象を操作することができるのか。他者の意見や行動を効果的に変えるにはどうすればいいのか。マスメディアや広告はどのように人々の態度や考え方に影響を与えるのか。インターネットをはじめとする新たなメディアは、私たちのコミュニケーションにどのような影響を与えるのか、といったことについてコミュニケーション学の視点から学習する。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	コミュニケーションに関心を持つ	コミュニケーションを理解しようとする	積極的に他者コミュニケーションしようとする	対者とのコミュニケーションによって、自身をよりよく変えていく
知識・理解力	受動的に知識を獲得し、理解をおこなう	能動的に知識を獲得し、理解をおこなう	学んだ知識や理解を基にして、自主的に新たな学びや理解に挑戦する	獲得した知識・理解を新たな分野に応用できるようになる
言語力	もっぱら授業を聞いているだけで発言をしない	質問されたことに対しては発言する	自ら積極的に発言をする	自ら問題を見つけて、それについて考え、独自の意見・考えを発言する
思考・解決力	与えられた情報を受け取るだけで、主体的な思考をおこなわない	与えられた問題や課題に対しては思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考をおこなう	自ら主体的に問題を見つけて、それについて思考し、解決していく
共生・協働する力	教員と共に学ぶとする	友人たちとも一緒に学ぶとする	友人たちとの学びの中で積極的にコミュニケーションに勤める	友人たちと積極的に関わり合い、コミュニケーションを通して創造的な活動をする
創造・発信力	テストを受ける	レポートを作成できる	レポートの内容に創造性を加える	コミュニケーション活動を通して、独自性のある情報の創造と発信ができるようになる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	イントロダクション コミュニケーション研究の歴史
第2回	コミュニケーション研究の概要 言語コミュニケーションとは何か 非言語コミュニケーションとは何か
第3回	ことばの使用の生物学的基盤 ことばの起源 ヒトのことばの特性 直立歩行とことばの関係
第4回	母語の獲得 子供はことばをどう獲得するのか ヒトの言語発達 習得説vs.生得説
第5回	「わかる」とは 「わかる」というプロセス 「わかってもらう」とは 「わかりやすくモノを伝えられる人」はどういう人なのか
第6回	自己開示 自己開示を測る5つの次元 ジョハリ・ウィンドウ

	人が自己開示をおこなう理由 自己開示の効用
第7回	自己呈示 自己呈示の動機 自己呈示の方略
第8回	対人関係 対人関係の形成・発展・崩壊 親しさを表すコミュニケーション
第9回	説得 説得効果を高める要因 要請技法
第10回	集団とコミュニケーション 集団でのコミュニケーションが持つ特徴
第11回	葛藤・紛争状況におけるコミュニケーション 葛藤・紛争を解決するための方略 葛藤・紛争の解決に対する文化の影響
第12回	うわさ、流言、デマ うわさの伝播を促進する要因 ネット社会における噂の怖さ
第13回	アサーティブネス アサーショントレーニングの考え方と歴史
第14回	マス・コミュニケーション マスメディア研究の歴史 マスメディアの影響をどのように捉えるか
第15回	新しいメディアとコミュニケーション コンピュータを使ったコミュニケーションの光と影 メディアの変化と社会への影響
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート
教育・学習・フィードバックの方法	各回、授業に参加する前に教科書（一部については、事前配布のプリント）の必要部分を事前に読んでくること。 教科書に書かれていること以外についても授業では取り上げるので、それらを含めて適宜ノートを取ること。 定期試験では、問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えを論理的・説得的に論じることを求めるので、授業で学習したことを単に暗記するのではなく、自ら主体的に考える。
準備学習の具体的な方法	授業初日に配布する詳細なシラバスによって、各回に教科書のどの部分を学ぶのかを事前に知らせるので、当該部分を必ず授業前に読んでくること。教科書を使用しない場合は、事前にプリント等を配布するので、それについても授業前に読んでくること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60分
評価方法・評価基準	定期試験60％、宿題・授業中の課題40％ 定期試験については、問われている質問に対して、授業内で学習した内容を基に自身の考えが論理的・説得的に論じられているかを評価の対象とします。 宿題・授業中の課題については、授業内で学習した内容を基に適切な解答が行われているかどうかを評価の対象とします。 課題（宿題・授業中の課題・定期試験）に対するフィードバックは、個々の学生に対しておこなうのではなく、学生全体に対して次の授業の中でコメントをしたり、manabaのスレッドに書き込んだりしておこないます。
留意事項	授業内容の詳細および授業の進め方について、授業の初日に説明します。ですので、授業初日に必ず出席をしてください。

ノートPCの授業での利用	授業中に適宜講義メモを取ってもらいます。その際、ノートPCを使用してメモを取ってもらっても構いません。
教員への連絡方法	manabaを利用／その他（教員より別途指示）

テキスト			
インターパーソナル・コミュニケーション	深田博己	北大路書房	978-4-7628-2103-5
参考文献			
参考URL			

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGL3406N1J		
科目名	ことばの音と形態		
副題			
担当教員	上野 裕子		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	金曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	英語音声学・音韻論を理論的、実践的に学び、基礎知識の習得を目指す。教師を目指す学生の発音指導力と英語学的知見を身につける。
教育・学習の個別課題	1. 音声学の基礎知識（音声と音素、調音器官、音韻体系）を理解すること 2. 英語の分節素（子音・母音）の調音方法を理解し、これを発音・聞き取りに活かせること 3. 英語の音変化（連結・同化・脱落）の仕組みを理解し、これを発音・聞き取りに活かせること 4. 英語の超分節素（アクセント、リズム、イントネーション）の相互関係について理解し、これを発音・聞き取りに活かせること

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
音声学の基礎知識	音声と音素、調音器官、音韻体系について全く理解できていない。	音声と音素、調音器官、音韻体系について部分的に理解している。	音声と音素、調音器官、音韻体系について理解している。	音声と音素、調音器官、音韻体系について理解しており、運用等の実践的応用に活かしている。
英語の分節素	調音の方法を理解できておらず、明瞭に発音できない。	調音の方法を理解しており、意識しているが、明瞭に発音できない。	調音の方法を理解しており、意識しながらであれば、子音・母音を明瞭に発音できる。	調音の方法を意識せずとも、子音、母音を明瞭に発音できる。
英語の音変化	音変化の仕組みを理解できておらず、連続音声の発音・聞き取りに利用できていない。	音変化の仕組みを理解しており、意識しているが、連続音声の発音・聞き取りに利用できていない。	音変化の仕組みを理解しており、意識しながらであれば、連続音声の発音・聞き取りができる。	音変化の仕組みを意識せずとも、連続音声の発音・聞き取りができる。
英語の超分節素	強勢・アクセント、リズム、イントネーションについて全く理解できていない。	強勢・アクセント、リズム、イントネーションについて部分的に理解している。	強勢・アクセント、リズム、イントネーションをすべて理解し、ゆっくりと考えながらであれば運用等の実践的応用に活かせる。	強勢・アクセント、リズム、イントネーションをすべて理解し、運用等の実践的応用に活かせる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	オリエンテーション：音について
第2回	母音について①前舌母音
第3回	母音について②後舌母音
第4回	母音について③中舌母音
第5回	母音について④二重母音, rを含んだ二重母音
第6回	子音について①閉鎖音と鼻音
第7回	子音について②摩擦音
第8回	子音について③摩擦音と破擦音
第9回	子音について④側音と半母音
第10回	音節と語強勢
第11回	文強勢, ポーズ
第12回	ピッチとイントネーション

第13回	音のつながり（連結, 脱落, 同化）
第14回	授業のまとめと総復習
第15回	全体のまとめ 授業内試験（筆記試験および音読テスト）
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	グループワーク（ペアワーク含む）
教育・学習・フィードバックの方法	・英語音声学・音韻論を中心に適宜、形態論の基礎知識を学びます。 ・各自のスマートフォンやタブレット端末を用いて、発音練習を行います。 ・ペアやグループ活動で共同的に学びます。
準備学習の具体的な方法	・前回までの復習をしておくこと ・次回の予習をしておくこと
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	授業態度、積極的な発言、課題や活動に対する取組など平常点(50%), 課題提出(20%), 授業内試験（30%）
留意事項	

ノートPCの授業での利用	授業内でコンピュータを使用して発音練習をします。そのため、（1）スマートフォン、（2）タブレットPC、（3）ノートPC+マイクのいずれかを持参してください。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト				
Sounds Make Perfect『英語音声学への扉－発音とリスニングを中心に－』【改訂版】	今井由美子/井上球美子/井上聖子/大塚朝美/高谷華/上田洋子/米田信子	英宝社	978-4-269-63014-7	
参考文献				
現代の英語音声学	佐藤寧/佐藤努	金星堂	978-4-7647-3660-3	
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGL3455N1J		
科目名	ことばと社会		
副題			
担当教員	川上 伊都子		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	月曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	「言語学概論」又は「英語の歴史」の履修者であること

科目の教育目標	言語は、コミュニケーションの道具としてのみ使われている訳ではありません。言語は、それぞれの社会や文化と密接な関係があり、切り離して考える事はできないのです。では、言語は社会／文化の中でどのような役割や機能をはたし、また、社会／文化からどの様な影響や拘束を受けているのでしょうか。人間と言語とはどの様に関係し合っているのでしょうか。これらの問いに答えるため、このコースでは、社会言語学の基礎を学びます。
教育・学習の個別課題	現実社会での言語使用の分析研究を通して、いかに社会／文化と言語との相互作用があるかを、検証していく。例えば、ことばのコミュニケーション以外の役割についてや、言語習得とは何を意味するのかや、標準語は何のためにあるのか、等普段の生活では考えたことが無い様なことばの奥深い「はたらき」について現実社会の例を沢山使って、考えていく。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力	自分の考えをアウトプットできない。	自分の考えをアウトプットできる。	理解した理論などをうまくアウトプットできる。	他者の意見、理論などを正しく適切にアウトプットできる。
思考・解決力	問題を解決するための思考が足りない。	問題を解決するための思考はできる。	問題を解決するための知識・情報などを収集することができる。	問題を解決するための重要な知識・情報などを収集し、適切に調整することができる。
共生・協働する力	周りと協調することができない。	周りと協調することができる。	周りとうまく協調し合い、よりよい結果を生み出せる。	周りと協調し合うだけでなく、周りの良さを自分と同じく引き出すことができる。
創造・発信力				

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	What is Sociolinguistics?ーOrientation What is Sociolinguistics?ーOrientation
第2回	ことばの機能とは何かー事例を分析しながら ことばの機能とは何かー事例を分析しながら考える
第3回	Communication 以外のことばの機能について Communication 以外のことばの機能について:京都花街の言葉を観察する Group Discussionとレポート提出
第4回	京都花街ことば、裁判官のことばの考察 前週のレポートを返して解説 裁判官のことばの考察：その特徴と機能について
第5回	言語の"symbol"としての機能について スカンジナビア3 国、セルビア・クロアチア、中国の例を使って考察する
第6回	言語 VS 方言 言語 VS 方言: これらの違いは何か：スカンジナビア3 国、セルビア・クロアチア、中国の例を使って Group Discussion とレポート提出
第7回	国家・民族の独立・自治、又は統一のsymbol としての言語 前週のレポートを返して解説 「言語」又は、「方言」という使い分けの目的とその成立過程について考える
第8回	標準語とは何か 西ゲルマン語方言連続体を例にして、標準語とは何かを解説（主にヨーロッパの例を使って）

第9回	琉球王国の歴史と標準語 琉球王国の歴史を例にして、日本における標準語化政策を解説 標準語化政策の目的と過程、言語変種間の格差出現など
第10回	言語の機能について：まとめ 今まで見て来た言語の機能について、復習とまとめ
第11回	Sociolinguistics を研究する意味 実例を使って、Sociolinguistics を研究する意味を考察、Sociolinguistics の定義 3 つの解説
第12回	Chomsky の理論 Universal Grammar と言語習得 Competence VS Performance とは何か：実例を使ってChomsky の理論の解説
第13回	Hymes の理論 Communicative competenceとは何か： 実例を使ってHymes の理論の解説 社会言語学における言語習得理論を解説
第14回	Speech Community とは何か Speech Communityとは何か：Communicative competence とその境界を決めるもの 実例を使って解説
第15回	Chomsky VS Hymes のまとめ それぞれの理論のまとめと復習、Group Activityを通してそれぞれの理論の理解を深める
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）
教育・学習・フィードバックの方法	参考文献、重要論文などによっての講義、質疑応答。さらに現実社会における諸問題に関してグループディスカッション、その結果をレポートにして提出。提出されたレポートは次週返却する際に、必ず詳しい解説を行い、模範解答例などを示すと共に、評価・採点についても説明する。 1、参考文献：スザーン ロメイン「社会のなかの言語」 2、重要論文（適宜配布）
準備学習の具体的な方法	主にグループディスカッションの前の週に課題が出される。その様な時には、しっかり準備すること。具体的には、あたえられたテーマに関して、調べたり、指定されたものをしっかり読んでくる事等である。例えば、「北欧3カ国の歴史と言語について調べてくること」という課題が出た時には、図書館やインターネットで調べた後、講義内容を踏まえて、なにが重要な情報であるか取捨選択し、口頭で要点を発表できるようにしておくことが求められる。「グループディスカッションを、円滑に又、奥深いものにするための準備」と捉えているので、提出することは必要なく、要点を押さえておくことと口頭で発表出来る様にしておくことが、何より大事である。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	評価は、まとめテスト又は小テストの平均点（60％）、グループレポート（提出物）の平均点（30％）、授業への積極的取り組み度（10％）に基づいて、総合的に行う。常に授業への積極的参加を期待する。又、グループディスカッションでは、最後にグループ内での結論などを一枚のレポートにして提出する。評価はこのレポートに対して出され、グループ内の参加者全員にこの評価が同様に与えられる。
留意事項	このクラスの受講を希望する人は、必ず第一回目の授業に出席すること。単なるオリエンテーションではなく、とても重要な話をします。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	授業前後等

テキスト				
参考文献				
社会のなかの言語 現代社会言語学入門	スザーン・ロメイン	三省堂		
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGL3458N1J		
科目名	ことばと意味		
担当教員	児玉 一宏		
単位数	2.0単位	配当学年	2年
開講年度学期	2022年度後期	曜日講時	木曜1限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	<ul style="list-style-type: none">・「意味」に関わる生成文法と認知言語学の基本的な考え方を理解できるようになる。・句構造規則とXバー理論に従って生成される基本的な文の階層構造を理解し、構造から読み取れる意味を理解できるようになる。・高等学校までに学んだ「構文の書き換え」の具体例を取り上げ、構文の意味について構文文法の観点から理解できるようになる。・構文文法の考え方を理解し、英語学習に応用できるようになる。
教育・学習の個別課題	言語学の研究対象である「ことばの意味」について学習する。ことばの意味、特に「構文の意味」に焦点を当て、ことばと意味の問題を考察する。前提として、生成文法理論で提案された句構造規則とXバー理論によって形成される階層構造の意味について学習する。このステップを経た後に、テキストの中から、本授業の目標と関わりの深い章（テーマ）を選び、その内容を参照しながら「構文の意味」について学習する。構文文法（認知言語学の構文理論）の理解を視野に入れた学習に重点を置き、認知言語学が提唱する「構文」の意味とは何かという問題を探究していく。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	生成文法や認知言語学の「意味」に関する基本的な考え方について全く理解できていない。	生成文法および構文文法の基本的な考え方を理解している。	英語の「構文の書き換え」について、構文文法の観点から分析・理解ができる。	「ことばの意味」に関する認知言語学の考え方を踏まえ、ことばの意味、構文の意味について自ら考察し、講義で扱う具体的な言語現象について適切に説明することができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	100%
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	序： オリエンテーション〔本授業の目標・授業運営・授業への導入〕
第2回	「ことばの意味」とは何か
第3回	文法と意味：認知言語学における「ことばと意味」への招待
第4回	生成文法の句構造規則
第5回	句構造規則とXバー理論
第6回	Xバー理論と文の意味
第7回	構文書き換えと文の意味
第8回	中間振り返り
第9回	認知言語学と構文の意味

第10回	英語の構文交替現象
第11回	出来事の捉え方と構文
第12回	「英語の与格交替」の発展的研究
第13回	構文文法の基本的な考え方
第14回	構文文法の可能性と英語教育の接点
第15回	授業の総括（形成テスト・フィードバック・まとめ）

定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない。
教育・学習の方法	授業では、テキスト以外に講義資料（補助教材）を使用する。授業形式は講義と演習を中心とする。授業内容の定着を図るため、確認のための問題演習を適宜行う。また、問題解決のためのディスカッション・グループワーク・ペアワークを実施する。皆さんが意識すべきことは、何よりも授業に集中し、授業内容の理解に努めること。復習の際に役立つようなノートのとり方を工夫すること。授業では、講義資料をプリントにして配布する。授業に対する質問対応や学習支援一般などのフィードバックについては、授業中ないしは授業後に適宜行う。
準備学習の具体的な方法	毎回の講義の最後に次回の学習内容を予告するので、その都度、指示に従って予習を行ってもらいたい。講義ノートおよび講義資料を中心に（一部参考文献も活用して）十分な復習を行い、講義内容の定着を図ることが大切。授業内容の定着を図るため、テキストの中でどの項目について学習しておいてもらうかを事前に連絡する。講義ノートの作成を強く推奨する。各自、工夫してください。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	45
評価方法・評価基準	成績評価は、形成テストの成績（70％）、レポート提出・小テストの成績（20％）、積極的な授業参加態度（10％）に基づいて総合的に行う。
留意事項	対面授業を実施します。ただし、コロナ事情により、授業運営の仕方に変更が生じることも考えられます（対面授業をオンライン授業に変更する等）ので、manabaを通しての授業連絡には十分注意してください。授業の進め方など詳細については、初回の対面授業で説明します。必ず出席してください。授業を欠席した場合は、その日の授業内容・連絡事項を授業出席者に必ず確認し、次の授業に向けて支障がないように各自で準備を行ってください。

テキスト	テキスト： 『はじめて学ぶ認知言語学』／児玉一宏・谷口一美・深田智（編）／ミネルヴァ書房／2020 ISBN: 978-4-623-08870-6／学内販売・有
参考文献	『構文文法論－英語構文への認知的アプローチ』/A. ゴールドバーグ（河上誓作（監訳）／研究社 /2001 / 4327401242
参考URL	

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

授業コード	LDR2201N1J		
科目名	ビジネスの基礎Ⅰ		
副題			
担当教員	新村 佳史		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	火曜1限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員	30人	備考	

科目の教育目標	ビジネスの基礎、という講義名から、企業や仕事について学ぶと思われそうですが、この授業の目標は、社会人として求められる教養、そしてコミュニケーション力を育てよう、というものです。みなさんは「自分が考えていることをきちんと人に伝える」ことができていますか？その力を楽しく身につけていくために、ニュースで世界を知り、音楽やファッション、食べものなど身近なことをまず見つめます。そこから話題を深めていきますね。次に、自分なりの考えをまとめていく、と言う企画作りに入ります。未来を考える力を育てることを目標にしています。聞く、話す、書く、考える・・・就職試験で求められる面接やグループディスカッション対策にもなる講義です。人と話すことで自分を見つめることができるようになります。短い期間ですが、確実にコミュニケーション能力の「伸び」が感じられるはずです。この授業で、新たな友人を見つけてもらえれば幸いです。
教育・学習の個別課題	・基礎教養の再確認　世界を広げるための基礎力チェックとその養成、ことに宗教と民族の特性について ・メディアの特質とその個性　新聞、テレビ、映画、通信、広告などの役割を知る ・社会参加の様々な方法を知ろう　・ビジネスにおける情報の価値を知る　・これから企業や社会はどうなるか　・コミュニケーション力とはなにか　・相手を知らないとは始まらない　・世代論の基礎　自分たち世代の強み、弱みを知ろう　・企画とはなにか　すべては上手な目標設定から　企画を実際に立ててみよう　上手に自分の考えを伝える手法

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分から主体的に行動できない	与えられた課題にきちんと取り組む	自分で課題を考えられるようになる	課題の解決に進んで取り組めるようになる
知識・理解力	社会に関心を持ってない	ニュースに関心を持つようになる	知識は「使えるものだ」と認識する	自ら新しい知識を得ることに喜びを感じる
言語力	人の話を聞けない	他者の話に関心を持つ	他者に伝わる言葉を考え、発話する	他者の視点を意識した文書作成を心がける
思考・解決力	物事に対して「なぜ」という問いかけができない	「なぜ」を考える習慣を身につける	「なぜ」を深く掘り下げられるようになる	自分の疑問をもとに他者と議論できるようになる「
共生・協働する力	あいさつができない	目を合わせてあいさつができる	他者の話に笑顔で合図値が打てるようになる	話し合いを通して意見を共有できるようになる
創造・発信力	好きなものがない	自分の好きなことを他者に伝える	他者の好きなことに興味を持つ	未来を考え、それを他者に語る習慣を持つ

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	メディアとの付き合い方 メディアについて知ろう　日本のメディアの特質と、広告論、聞く力の重要性 ニュースの見方を考える
第2回	今の世界を支えているものは？ 世界を知る基礎教養・1　世界のことをもっと知ろう　宗教、民族の基礎 世界の話題が面白くなる
第3回	世界は楽しい 世界を知る基礎教養・2　面白い現代史　アジアと西洋をつなぐもの 京都の町から世界を考えてみる
第4回	インタビューになってみる 自分を伝える技術を持とう・1　上手な話の聞き方、まとめかた、
第5回	社会人レベルの文章の書き方 自分を伝える技術を持とう・2　こう書けば、簡単に伝わる文章が書ける
第6回	聞いて、話して、まとめてみる コミュニケーション力とは何か　ディスカッションを楽しもう

第7回	世代を知ろう 今の20代を大人はどう見ているか知ろう
第8回	さまざまな人の中での自分の客観化 「私」はどこにいる 話し合いを通して自分の個性を考える
第9回	人と自分は違って当然 ターゲット、という考え方 自分と人とは似ているし、違う 他人のことを理解しよう
第10回	相手のために何かを考えてみる 企画力をつける・1 目的の立て方
第11回	企画の作り方 企画力をつける・2 手順の確認と評価の仕方
第12回	楽しくアイデアをまとめてみる 企画書を作る・1 グループで考える
第13回	データを見せてみよう 企画書を作る・2 個人で企画書を作ってみる
第14回	プレゼンテーションです 企画書を作る・3 課題に沿って企画書を作る、そして発表する
第15回	20代の自分の企画は？ これからの時代と自分の役割について考える
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	毎回プリントを準備し、さまざまなテーマについて知り、考えるという作業を行います。みなさんの興味により、内容は変化することもあります。また、企画書の作成はもちろんのこと、その回のテーマについて考えたことを多様なスタイルで「書く」ことで、自分の考え方の確認をするとともに、言葉を用いての情報発信の技術を身につけていきます。書くことがきっと、楽しくなります。プリント、作成物をまとめておくファイルを必ず準備してください。興味を持てる領域が広がり、知識を使いこなして自分の意見を形成でき、発信できる力を身につけてください。 授業はアクティブラーニング教室を使用、毎時間、みんなと話し合う場面を設定しますね。
準備学習の具体的な方法	新聞を読む、ニュースを見るという習慣を身につけましょう。 毎時、関心を持ったニュースについての短い発表を行います。 また海外、そして国内の旅への関心の高い人を歓迎します。講義を通して、みなさんが旅行したくなる場所を見つけてくれれば幸いです。旅は生きるためのフォーム・・・基礎力を育ててくれます。一人で京都の街を歩く、というのも最高の学習です。そこで感じたことを授業で短時間で発表してもらい、こちらからの感想をお返しします。作文の形で表現する練習も行います。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	毎時30分の予習（情報収集）、ニュースに関心をはらうこと。 企画書作成、プレゼンの時は4時間程度
評価方法・評価基準	試験は行いません。授業中の態度と制作物、小テストで判断します。授業態度・姿勢 30％ 授業での課題（作文など） 30％ 最終制作物（企画書） 40％ 毎回の課題（作文、アイデア出し、ディベート）については授業内にそれぞれの良い点を指摘します。授業態度の評価度合いが高いので、欠席が多いと単位認定は難しくなります。注意してください。また提出物については各自にフィードバックを行います。
留意事項	みなさんの興味によって授業内容は変わります。だからこそ、自分の関心あることを積極的に発言してください。聞くだけ、座っているだけという受け身の姿勢からは、何も生まれません。毎時、必ずみなさん全員の意見を求めます。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	企画・編集オフィス「ハドルタイム」主宰、プランナー、ライター。
-------------------	---------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	LDR2252N1J		
科目名	ビジネスの基礎 II		
副題			
担当教員	新村 佳史		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	火曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	ビジネスの基礎I
定員	20人	備考	

科目の教育目標	考える力、そのために必要な知識の調べ方、論理の組み立て方、プレゼンにおける話し方、聞き方を総合的に伸ばしていきます。「ビジネスの基礎Ⅰ」の授業をより深めていく（資料を読み込む、より高度な企画書作りに取り組む）授業です。そのため「ビジネスの基礎」受講修了者（過年度でも可）対象者のみの受講となります。読む力、調べる力を身に着け、生涯にわたって学び続けるという基本フォームを形成します。就職試験の対策、就職前のトレーニングとなることも目標とします。とにかく、話し合いを中心に、でも自由に自分の意見が言えるサロンのような雰囲気、楽しく自分の力を伸ばすことを心がけます。
教育・学習の個別課題	<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーション力のさらなる上昇・グループで作業を行う力の育成・議長力の育成・知的好奇心の育成・資料読解力の育成・未来の課題の確認・企画力の充実・個々の「幸福感」の形成

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現状で満足している	新しいこと、未知のことへの関心を持つ	自分で取り組む課題、スケジュールを立てられるようになる	自己の目標に対して達成基準を厳しく作れるようになる
知識・理解力	知識を組み合わせることができない、新しい知識を求めない	知識の吸収が楽しくなる	読書の内容を他者に面白く伝えられる	自分の知識をもとに未来を考察できる
言語力	形容詞に頼る表現しかできない「	比喩をまじえて具体的に人に伝えることを心がける	使える語彙を増やすことに面白さを感じる	書く力、話す力の向上が実感でき、喜びを感じる
思考・解決力	調べ方がわからない	スマホを用いての「調べる」力をつける	出来事の中の「ポイント」を見抜くように心がける	歴史と現在、未来の関連づけが楽しくなる
共生・協働する力	ディスカッションに入れない	他者の話に関心を持ち、より深い内容を引き出す	自分の意見と他者の意見を組み合わせる工夫をする	自分の意見と他者の意見から全く新しい視点を探せる
創造・発信力	とことん好きと言えるものがない	好きなことを他者に理解してもらえるよう表現を工夫する	発表を通して好きなものの本質を考える	好きなものの「記事」が作れるようになる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	新聞に慣れよう 世界を知るための方法を考える まず新聞について、ネットニュースとの違いを知る 他の人がどんな記事に反応するかを知る
第2回	未来を考えるための方法を考える 読書や映画、芝居などの楽しさを再確認 好きな本や映画をみんなに薦めてみる
第3回	同じものを読んでも感想は異なるもの 考えたことを話し合ってみる、意見をまとめる
第4回	作文ではなく、論文っぽいものを 今の世界について考え、 論文（報告書）を書いてみる（提出物1）
第5回	高度なディスカッションのために 自分のことを知る・・・対話を通して自分を確認する
第6回	他者との違いを意識して 自分カタログ作りに挑戦する・・・今の自分、過去の自分の確認

第7回	自分の長所、欠点を再確認し、成長目標を決める 楽しい未来のために、育てるべきことを仲間と確認し合う
第8回	自分を生かせる場所はどこですか 今後の目標を作り、まとめてみる（提出物2）
第9回	企画書作りを思い出しましょう 企画の作り方の再確認
第10回	違う個性が集まって新しいものを作る チームで企画を作ることに挑戦する・・・何が欠けているかを確認、役割を決める
第11回	資料の探し方・・・スマホをフル活用 企画作りに必要な資料を分担して集め、企画書を作る
第12回	グループで役割分担し、より高いレベルの企画書を作成する
第13回	企画書の発表、プレゼンテーション、提出（提出物3）
第14回	前回のプレゼン、指導を受けた上で、より実践的な企画書作りを違うグループで行う
第15回	最後のプレゼンテーションを通して自分の成長を確認しよう 各自が自分の目標について改めて考えてみる、書いてみる、発表する（提出物4）
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	短時間に資料を読む、まとめる、発表するという授業を基本に、他者とのディスカッション、共同作業を行います。また文章力の育成も重視します。書くこと、話すことの楽しさを感じてもらえるよう、みなさんに応じて工夫していきたいと思っています。期待してくださいね。また、個々の良い点について授業内で指摘します。個々の「伸び」を高く評価します。
準備学習の具体的な方法	とにかく、何にでも興味を持つこと。毎回「今の私の関心ごと」について細かく聞きます。みなさんが新しいことに挑戦することが、毎回の宿題です。毎週、今まで読んだことのない本、観たことのない映画や聞いたことのない音楽、やったことのないゲーム、スポーツ観戦やコンサートなどへの挑戦を。とにかくみなさんの「新しい体験」を求めます。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60 課題によっては数時間かかる場合もあります
評価方法・評価基準	授業態度・授業参加度（50％）、個々の成長度（課題の制作物の内容により判定）（50％）。
留意事項	毎回、何らかの課題が出ます（楽しい課題です）。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト
参考文献
参考URL
随時指示します。

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	LDR3253N0J		
科目名	ソーシャルマーケティング論		
副題			
担当教員	新村 佳史		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	火曜2限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	従来の企業活動では見落とされがちだった社会貢献に関わる仕事の「価値」について考え、改めて仕事の意義を問い直そうというものです。これからの企業は社会貢献の意識がなくては成り立ちません。SDG sについてもしっかりと説明します。福祉や保育系に進もうという人だけでなく、民間企業や公務員で働こうという人にもぜひ受けてほしい、現代社会の問題点について考えていく授業です。これからの企業は、儲かればいいだけではだめです。社会の幸福にどう貢献するか、それがソーシャルマーケティングの考え方の1つです。思いがけない就職先が見つかるかもしれませんよ。ソーシャルマーケティングという概念自体が新しいものですが、数学的な理論学習よりも、今の社会を知り、どんな課題がみなさんに課せられているのかをしっかりと考えます。海外に関心のある人にも楽しい授業ですよ。
教育・学習の個別課題	今の社会について知る 企業の存在意義とは何か 社会保障制度の必要性 国や公共事業体ができること 企業ではない「法人」について知ろう 世界の社会保障制度とその歴史 日本の問題点 2極化する世界の流れ 社会が幸福になる企業活動とは 介護や保育に求められるマーケティングとは

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分の未来と真剣に向き合えない	未来の自分の幸福な形について考える姿勢を作る	自分の幸せと社会の在り方について考える習慣を持つ	自分の理想とする未来像を描けるようになる
知識・理解力	企業や自治体と言う組織に関心が持てない	組織がなぜ成立しているのかを理解する	社会の中で組織がどう関連しあって生きているかを理解する	今後、生き残る組織とその要素について理解する
言語力	公文書を面白いと思えない	企業が用いる言葉と特徴を理解する	消費者としての自分がどう発言するか考える	専門用語を用い、簡潔で意味が規定された文書を書く
思考・解決力	データをうまく活用できない	自分の考えを補強するようにデータが使える	データから社会の課題を発見できる	課題に対して自分の回答を準備する
共生・協働する力	社会、ことに福祉について興味がない	介護や福祉、社会問題が自分の問題であると理解する	共同作業である調査活動に積極的に参加する	社会のために自分が何ができるかをしっかりと考える
創造・発信力	幸福とは何かという問いに向き合えない	様々な社会の形を知り、自分がそこにいたらと考えられる」	今の自分たちが社会に何ができるかを考える	社会の幸福のために自分ができていることを確認する

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	なぜ世界に恵まれない人がいるのか？ お金とはいったいなんだろう
第2回	資本主義の利点と弱点、 私たちが生きている「今」の世界について知ろう そして、消費者とはどういう存在かを理解しましょう
第3回	企業の論理は勝者の論理 マーケティングを駆使するグローバル企業と、社会的弱者の関係、消費者の保護
第4回	なぜ、SDG s が大切なのか みなさんがこれから暮らす「未来」を考える
第5回	法人って、何？ 国と企業の間に立つ様々な法人について知ろう

第6回	少子高齢化にどう対応するか 新しい社会に対応するための、SDG s の意義
第7回	企業の社会貢献－ 1 利益を社会に還元する企業の在り方とは？コトラーに学ぶ
第8回	企業の社会貢献－ 2 消費者保護、そして環境対策
第9回	週休4日制？ ソーシャルマーケティングの視点から見たワークシェアと、意識改革
第10回	効率の良い福祉や保育は可能か？ 法人へのマーケティング技術の導入
第11回	世界のソーシャルマーケティングの実践例 しっかりと行動している企業、そして国を知ろう
第12回	私たちにできること-1 ここまでの学習を通して、私たちの生き方を考える 新しい都市の在り方について考える
第13回	私たちにできること - 2 生きる意識を変えるためのアンケート制作とクラス内での調査を実施
第14回	アンケート結果を発表し、今後の世界の在り方について考える SDG s とソーシャルマーケティングについての理解度の小テスト
第15回	未来について考えよう・・・企業、そして市民はどう変わるのか 保育や介護などの仕事がこれからどうなるか、可能性を探ります また小テストの返却、解説を行います
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	世界でおきていることを「自分の問題」として考えるのがソーシャルマーケティングの第1歩です。覚えるよりも考える、発表することを重視します。発表内容については授業時間内に講評を行います。「気づき」を高く評価します。
準備学習の具体的な方法	この分野はどんどん変化しています。まず毎日のニュースに気を配ることを心がけてください。難民問題や医療問題など、その時々ニュースの解説も行います。大事なのは、社会がこのままでいいのか、という問題意識です。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	情報収集のために毎週4 5 分は用いてください。調べておく課題を出す会もあります
評価方法・評価基準	普段の授業態度 3 0 % 授業での提出物、発表 3 0 %、小テスト 4 0 % 社会への関心の高さを見せてください。小テストについてはあらゆるものの持ち込みを可とします。
留意事項	毎回、プリントを配布します。そこに講義中のメモを書き込み、自分だけのテキストを完成させてください。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	広告制作会社でマーケティングディレクターを務める。
-------------------	---------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等）に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	LDR3254N1J		
科目名	女性起業論		
副題			
担当教員	濱口 桂		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	90	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	現代の女性を取り巻く社会的変化に伴い、団体・組織等に雇用されない働き方の一つとしての起業についての理解を深める。 また、実際に起業を行った女性起業家や企業支援コンサルタント、経営者などをゲストスピーカーとして、自身の経験談や独自のプログラムを実施してもらうことで、将来のロールモデルを見出し、将来設計の糧とする機会とする。
教育・学習の個別課題	1. ライフスタイルや雇用環境など女性を取り巻く社会的変化を知る 2. 女性起業家の経験談などから、起業のノウハウや仕事への意識・思いなどを知る。 3. 新聞や雑誌、文献等からの情報収集と情報分析手法を学ぶ 4. 社会的課題についてビジネス手法を活用して解決するビジネスモデルを考える 5. ロールモデルとなる女性起業家等（予定）と対話することで、自身のキャリアデザインを考える機会とする

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	講義オリエンテーション ・授業の目的と今後のプログラム予定 ・成績評価方法の詳細な説明 ・ChatGPTなど生成AIの授業やレポートの活用について（利用を奨励します）
第2回	今後のグループワーク・個人ワーク等のための自己分析・自己紹介。 今後のグループワーク・個人ワーク等のための質問力・発想力・課題解決力のトレーニング。
第3回	・次回以降の女性起業家等ゲストスピーカー（4名を予定）の講師（濱口）からの事前紹介 ・各起業家ゲストスピーカーへの質問事項の作成
第4回	女性起業家等ゲストスピーカー（一人目）によるプログラム ・女性起業家（映画プロデューサー・シンガーソングライター）による講演（予定） ・講演テーマ「映画撮影の裏側やプロデューサーとしての仕事など」（予定）
第5回	・女性起業家（映画プロデューサー・シンガーソングライター）ゲストスピーカーと講師（濱口）との座談会 ・女性起業家（映画プロデューサー・シンガーソングライター）ゲストスピーカーへの質問会（濱口がファシリテーター）
第6回	・女性起業家（映画プロデューサー・シンガーソングライター）ゲストスピーカーからの課題テーマの提示（課題テーマは当日発表） ・課題テーマに対する考え方のレクチャー（濱口） ・上記課題テーマに対するディスカッション&レポートイング

第7回	女性起業家（かきかた教室運営・ワインソムリエ）ゲストスピーカー（二人目）によるプログラム ・女性起業家（かきかた教室運営・ワインソムリエ）による講演（予定） ・講演テーマ「かきかた教室を開いた理由とワインソムリエ仕事など」（予定）
第8回	・女性起業家（かきかた教室運営・ワインソムリエ）ゲストスピーカーと講師（濱口）との座談会 ・女性起業家（かきかた教室運営・ワインソムリエ）ゲストスピーカーへの質問会（濱口がファシリテーター）
第9回	・女性起業家（かきかた教室運営・ワインソムリエ）ゲストスピーカーからの課題テーマの提示（課題テーマは当日発表） ・課題テーマに対する考え方のレクチャー（濱口） ・上記課題テーマに対するディスカッション&レポーティング
第10回	女性起業家（育休中のビジネス教育・子供起業家育成）ゲストスピーカー（三人目）によるプログラム ・女性起業家（育休中のビジネス教育・子供起業家育成）による講演（予定） ・講演テーマ「育休中のビジネス教育の必要性和女性起業家育成の仕事など」（予定）
第11回	・女性起業家（育休中のビジネス教育・子供起業家育成）ゲストスピーカーと講師（濱口）との座談会 ・女性起業家（育休中のビジネス教育・子供起業家育成）ゲストスピーカーへの質問会（濱口がファシリテーター）
第12回	・女性起業家（育休中のビジネス教育・子供起業家育成）ゲストスピーカーからの課題テーマの提示（課題テーマは当日発表） ・課題テーマに対する考え方のレクチャー（濱口） ・上記課題テーマに対するディスカッション&レポーティング
第13回	女性起業家（カラー総合スクール運営・キャリア支援）ゲストスピーカー（四人目）によるプログラム ・女性起業家（カラー総合スクール運営・キャリア支援）による講演（予定） ・講演テーマ「カラー総合スクールを作った理由とキャリア支援の仕事など」（予定）
第14回	・女性起業家（カラー総合スクール運営・キャリア支援）ゲストスピーカーと講師（濱口）との座談会 ・女性起業家（カラー総合スクール運営・キャリア支援）ゲストスピーカーへの質問会（濱口がファシリテーター）
第15回	・女性起業家（カラー総合スクール運営・キャリア支援）ゲストスピーカーからの課題テーマの提示（課題テーマは当日発表） ・課題テーマに対する考え方のレクチャー（濱口） ・上記課題テーマに対するディスカッション&レポーティング
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	
教育・学習・フィードバックの方法	講義による解説のほか、小グループのディスカッション、グループワーク、起業家との座談会・質問会など、受講生の主体的な参加による学習を行う
準備学習の具体的な方法	受講生は、日ごろから新聞や雑誌、文献、インターネット等を通じた社会的ニーズや起業に関する情報収集を行い、ビジネス社会における変化・変容に敏感になっておく
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	発言・質問等の授業参加度（50%） 授業中に指示する課題レポート（50%）
留意事項	・本授業は土曜日集中講義となる ・全日程学内で実施する予定 ・最新のビジネス情報を取り入れるため授業計画は随時変更する ・女性起業家・女性経営者・女性専門家（コンサルタント）などをゲストスピーカーとして招聘する（予定） ※ゲストスピーカーが招聘できない場合は、「授業計画」を変更します ・ChatGPTなど生成AIについては、積極的な活用を推奨します。（レポート等への使用も奨励します） ・第一回目の授業ガイダンスは必ず出席をしてください。（授業評価についての詳細を話すため）

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	授業前後等

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	民間の企業調査機関で企業の調査研究及び経営コンサルティングの経験あり ビジネスコンテストでの審査及び、複数の創業（企業）講座での講師経験あり 女性起業家対象のワークショップでのファシリテーター経験あり
-------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	PSA2203N1J		
科目名	消費者行動の心理学		
副題			
担当教員	下田 麻衣		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	木曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	消費は私たちがほぼ毎日、頻繁に行っている重要な行動である。消費は物品だけに限らず、サービスも含まれる。本科目では、このような消費者行動に関するプロセスや消費者行動に影響を及ぼす要因について学習する。具体的には、消費者の意思決定プロセス、動機づけ、感情、態度形成・変容などのトピックを取り上げ、日常の様々な消費者行動に関する心理学的理解を深めることを目指す。
教育・学習の個別課題	1. 本科目で学習した消費者行動に関する理論や研究結果を理解し、説明することができる。 2. 本科目で学習した内容を基に、日常のさまざまな消費者行動について理解し、説明することができる。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	自律的で積極的な学習態度が、ある程度身についている。	自律的で積極的な学習態度が、おおむね身についている。	自律的で積極的な学習態度が、十分に身についている。
知識・理解力	消費者行動に関する心理学の諸概念について理解していない。	消費者行動に関する心理学の諸概念について理解している。	消費者行動に関する心理学の諸概念について理解し、自分の言葉で説明できる。	3に加え、世の中の商品・サービス等について心理学の諸概念を使って説明できる。
言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が、身についていない。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が、ある程度身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が、おおむね身についている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり人に説明する力が、十分に身についている。
思考・解決力	消費者行動に関する諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が、身についていない。	消費者行動に関する諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が、ある程度身についている。	消費者行動に関する諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が、おおむね身についている。	消費者行動に関する諸問題を心理学の知識で解決したり考察したりする力が、十分に身についている。
共生・協働する力	学んだ内容に基づき、消費者行動に関する状況においてさまざまな他者とのかわりを考えようとする力が、身についていない。	学んだ内容に基づき、消費者行動に関する状況においてさまざまな他者とのかわりを考えようとする力が、ある程度身についている。	学んだ内容に基づき、消費者行動に関する状況においてさまざまな他者とのかわりを考えようとする力が、おおむね身についている。	学んだ内容に基づき、消費者行動に関する状況においてさまざまな他者とのかわりを考えようとする力が、十分に身についている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力が、身についていない。	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力が、ある程度身についている。	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力が、おおむね身についている。	学習したことを他者に説明したり、学んだことを実生活に活かせる力が、十分に身についている。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	オリエンテーション：本科目で扱うトピックの概要
第2回	消費者心理学とは
第3回	消費者の意思決定 1：プロセス
第4回	消費者の意思決定 2：意思決定に与える影響
第5回	消費者の動機づけ
第6回	消費者の関与
第7回	消費者の感情
第8回	消費者の態度形成
第9回	消費者の態度変容
第10回	消費者行動と情報の伝播

第11回	消費者行動と感覚・知覚
第12回	消費者行動と価格
第13回	消費者行動と社会的アイデンティティ
第14回	欺瞞的説得
第15回	理解の確認（テスト）とまとめ
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	
教育・学習・フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none">・講義形式で行う。・基本的に毎回、講義内容に基づいた小課題レポートの提出を求める。・毎回の小課題等のフィードバック（全体講評）は次の回に行う。・理解の促進のために授業内で心理学調査や実験のデモンストレーションを行う場合もある。
準備学習の具体的な方法	<ul style="list-style-type: none">・授業で扱ったトピックについて、自身の経験や身近な例に結び付けて考え、理解を深めること。・授業時に配布された資料を繰り返し読み、理解を確認すること。・必要に応じて、参考図書（授業時に適宜紹介する）を読み、理解を深めること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	最終テスト[70%]、授業参加度・毎回の小課題[30%]により総合的に判断する。
留意事項	受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容の一部を変更することがある。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	PSA2205N1J		
科目名	知覚・認知心理学		
副題			
担当教員	菊野 雄一郎		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度前期	曜日講時	木曜4限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	「知覚」「認知」とは、人が世界を認識し、そこから知識を獲得し、それをもとに世界にはたらきかけるための心の情報処理を意味します。人が日常でこんな様々な活動が、認知心理学の研究対象に含まれます。 外界の情報を見たり聞いたりすること。顔や表情を認識すること。心の中に物体のイメージや、ある空間の地図を思い浮かべること。何かに注意を向けたり記憶したりすること。推理をしたり判断をしたりすること。それらに対して生まれる感情と関連付けて把握すること。 学生は、こうした人の認知に関する基礎的な理論を身につけるとともに、自分の日常生活の中のさまざまな行動を、心理学や脳科学的な視点から説明できるようにします。
教育・学習の個別課題	1. 上記のような人の知覚・認知に関わる心理学理論を理解すること 2. 知覚・認知的な実験課題やデモに触れ、理論に対する具体的なイメージをもつこと 3. 日常の行動と、知覚・認知心理学的な説明を対応づけること 4. 脳研究や症例研究をもとに、人の知覚・認知の機序と障害について理解すること

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス、イントロダクション
第2回	感覚、知覚の一般的特性
第3回	明るさの知覚、形の知覚①
第4回	形の知覚②
第5回	奥行き知覚
第6回	運動の知覚
第7回	色の知覚
第8回	顔、物体の知覚
第9回	注意① 選択的注意
第10回	注意② 注意資源、アクションスリップ
第11回	記憶① 記憶の意味、3つの記憶
第12回	記憶② 日常記憶
第13回	問題解決、推論
第14回	認知地図

第15回	認知と感情
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）
教育・学習・フィードバックの方法	授業の実施方法：独自に作成したプリントを配布し、PowerPointによるスライドで講義を進めます。予習として、上記の知覚・認知活動が日常のどのような行動に当てはまるかを事前に考えてもらいます。課題等については、授業内に解説を行うことでフィードバックします。
準備学習の具体的な方法	毎回の授業終わりに次回の予告をするので、インターネット検索などにより、次回のトピックのあらましをつかんでおくこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	授業参加度（40%）と最終テスト（60%）により総合的に評価します。
留意事項	

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	PSA2254N1J		
科目名	学習・言語心理学		
副題			
担当教員	菊野 雄一郎		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	木曜3限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	人間は経験を通して学ぶ。経験とその結果としての行動の変化に関する規則性を明らかにしようとするのが、学習理論である。本科目ではまず、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、社会的学習などについて学び、学習成立の基礎過程を理解する。次に、記憶、概念、思考などの認知過程における学習について学ぶ。さらに、人間がコミュニケーションに使用する記号システムである言語について、その特徴や構造を学び、言語習得のメカニズムについて理解する。これらの講義を通して、学習のしくみを理解し、身体的・認知的技能や言語の習得について考察することを目指す。
教育・学習の個別課題	1. 学習の基礎的なメカニズムの理解 2. 概念や思考の学習、および人間の知識獲得の理解 3. 言語獲得のメカニズムについての理解

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	学習・言語獲得に関する基礎的概念・知識を理解し、説明することができない。	学習・言語獲得に関する基礎的概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	レスポナデント条件づけ
第3回	オペラント条件づけ
第4回	条件づけの応用
第5回	条件づけの制約
第6回	社会的学習
第7回	技能学習
第8回	記憶
第9回	知識と学習
第10回	問題解決と学習
第11回	学習理論の展開
第12回	言語
第13回	言語獲得
第14回	リテラシーの獲得
第15回	まとめ

定期試験または定期試験に替わるレポート	実施する
授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	
教育・学習・フィードバックの方法	主としてPowerPointや映像資料を使った講義形式で行う。テキストは使用しない。課題等については、授業内に解説を行うことでフィードバックする。
準備学習の具体的な方法	毎回の授業終わりに次回の予告をするので、インターネット検索などにより、次回のトピックのあらましをつかんでおくこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	授業参加度（40%）と最終テスト（60%）により総合的に評価します。
留意事項	受講者の知識や理解度を考慮して進めるので、授業予定のトピックの順番や内容を変更することがある。
ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	その他（教員より別途指示）
テキスト	
参考文献	
参考URL	
実務経験のある教員による実践的科目	

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	INF2250N1J		
科目名	ICTビジネス論		
副題			
担当教員	北村 美穂子		
単位数	2単位	配当学年	2年
開講年度学期	2025年度後期	曜日講時	火曜4限
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	
定員		備考	

科目の教育目標	本講義では、ICT技術（情報通信技術）によってビジネスがどのように変化したかを、ネットビジネスの進化を中心に、その基盤技術やビジネス戦略、開発手法、最新動向を学びます。また、新聞やビジネス誌で登場する、Web3.0、IoT、DX等、ITに関する用語について実例を交えてわかりやすく解説します。 本授業を受けることで、我々の日常生活に欠かせない検索エンジンやSNSツール、ショッピングサイト等のネットビジネスやその技術をより身近に感じ、今なお進化するデジタル社会に必要な不可欠な知識や発想を身に付けることができます。
教育・学習の個別課題	1. ネットビジネスの基本特性と社会に急速に浸透した理由、社会的な課題について、論理的に説明することができる 2. ICTに関する用語について、それが我々の生活にどのように結びついているか自分の言葉で説明することができる 3. 基本のマーケティングフレームワークについて学び、企業の課題を抽出、分析、解決する手法を習得する 4. 日々進化するAIやデジタル社会において、我々の生活がどのように変化するかを自ら考え、行動することができる

ループリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
ネットビジネスへの理解	我々の身の回りのネットビジネスに興味がない、ネットビジネスの特徴について答えられない	ネットビジネスとは何か、具体例や特徴について答えることができる	ネットビジネスについて、具体例、特徴、社会的な課題について説明することができる	ネットビジネスの基本特性と社会に急速に浸透した理由、社会的な課題について、具体例と関連付けて、論理的に説明することができる
ICTビジネスに関する基本用語の知識	ICTビジネスに関連するニュースや新聞記事に興味がない、読んでも理解できない	ICTビジネスに関連するニュースや新聞記事に興味があり、検索等の補助手段を使いながらニュースや記事を理解することができる	ICTビジネスに関するニュースや新聞記事に興味があり、ニュースや記事の内容を理解することができる	ICTビジネスに関するニュースや新聞記事等を自発的に読み、理解し、自分の言葉で説明することができる。
基本のマーケティングフレームワークの習得	マーケティングフレームワークについての知識がない	基本的なマーケティングフレームワークを少なくとも1つ知っている	基本的なマーケティングフレームワークから企業の現状を把握することができる	基本的なマーケティングフレームワークを用いて、企業の課題を分析することができる
AIやデジタル社会に対する関心度	AIやデジタル社会に対して関心がない	AIやデジタル社会に関心があり、情報収集を心がけている	AIやデジタル社会に関心があり、我々の生活がどのように変化するかを自ら考えることができる	AIやデジタル社会に関心があり、我々の生活がどのように変化するかを自ら考え、行動し、かつ、情報発信することができる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	100%
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	-

授業計画	
第1回	ガイダンス 授業の目的、進め方について説明します。本授業で扱うICTビジネスについて概観し、授業の全体像を掴みます。
第2回	ICT（情報通信技術）の歴史とビジネスとの関係 ICT技術の歴史と、我々の社会やビジネスに与えた影響について学びます。
第3回	ICTビジネスを支える基盤技術（インターネット関連技術） ICTビジネスを支える基盤技術の1つとして、インターネットのしくみを中心に学びます。
第4回	ICTビジネスを支えるしくみ（システム開発手法） ソフトウェアやアプリケーションの開発手法や品質管理について学びます。
第5回	ネットビジネス概論 ネットビジネスの歴史とそれを支える技術、社会への影響について学びます。
第6回	ビジネスケース1（ポータルサイトビジネス） 検索サービス等、様々なコンテンツへの入口となるビジネス（人と情報を繋ぐビジネス）について考察します。

第7回	ビジネスケース 2（eコマースビジネス） amazonや楽天等に代表されるeコマース（人と商品をつなぐビジネス）について考察します。
第8回	ビジネスケース 3（SNSビジネス） LINEやfacebook等に代表されるSNSビジネス（人と人をつなぐビジネス）について考察します。
第9回	ビジネスケース 4（その他・まとめ） Appleや、GAFAMと台頭しているNVIDIA他、近年注目のビジネスについて考察します。
第10回	ビジネスフレームワーク1【レポート課題出題】 ビジネス戦略を立案するためのフレームワーク（SWOT分析、4 P分析等）を学び、企業分析レポートを作成します。
第11回	Web3.0とその基本技術（ブロックチェーン） Web3.0（分散型ネットワーク）の基本技術とその特徴、仮想通貨について学びます。
第12回	Web3.0とデジタル社会 ブロックチェーン技術を基盤とするNFTやDAO、さらにDX（デジタルトランスフォーメーション）が進む社会について考察します。
第13回	AIとデジタル社会、ビジネスフレームワーク 近年急速に進展したAIについて理解を深めます。SWOT分析の発展形のクロスSWOT分析を学びます。
第14回	ICTビジネスが社会に与える影響、授業の振り返り ICTビジネスが社会に与える影響について考察します。授業の振り返りを行います。
第15回	まとめのテストと講評 まとめのテスト（筆記試験）を行い、テストの講評を行います。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／実習、実験／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	・ 講義を中心としますが、自ら考える時間や、ディスカッションの時間を設ける場合があります。 ・ 授業の最後にresponを用いて理解度をはかることがあります。また、アンケートを実施し、次の授業進行の参考にします。
準備学習の具体的な方法	・ 各回の授業の最後に次の授業内容の予告を行い、必要に応じて予習内容を指示します。 ・ 各回の授業内容の理解を前提に次の授業を行うので復習中心の準備をして下さい。 ・ 日頃からIT関連のビジネスや技術について興味を持ち、気になるニュース等があれば教員に知らせて下さい。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	参加積極性（respon回答）を考慮した授業参加度20%、レポート30%、まとめのテスト50%
留意事項	・ ノートPCを利用する授業の際には、予めmanaba等で連絡するので、各自ノートPCを持参して下さい（図書館で借りることができます）。 ・ IT企業の外部講師による特別授業を計画しています。

ノートPCの授業での利用	ノートPC、タブレット、スマホのいずれかの利用を想定
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト				
参考文献				
ネットビジネス進化論	尾原 和啓	NHK出版	978-4140818213	
参考URL				

実務経験のある教員による実践的科目	日本のIT企業にてビジネス開発に携わる経験を有する
-------------------	---------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EDI4601N0J		
科目名	初等教育実習Ⅰa		
副題			
担当教員	神月 紀輔、田中 裕喜、高田 佳孝、佐藤 真太郎、藤本 陽三、河佐 英俊、栗栖 ゆみ子、荻原 桂子		
単位数	2単位	配当学年	4年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	別に定める
定員		備考	集中

科目の教育目標	この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。
教育・学習の個別課題	大学で学んだ教育学・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する、子どもの問いかけなどに反応できない、責任ある行動がとれないなど、教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い、社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め、子どもの指導を自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め、大学の授業で学んだことを十分に生かして、子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 こども教育学科 コス配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	協力いただける幼稚園において教育実習を4週間行う。 教育実習の方法は各幼稚園と打ち合わせること。 必要な情報は教育実習事前指導で指示する。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。実習ノートを返却し、その内容に関して教員からフィードバックを行う。
準備学習の具体的な方法	詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。
留意事項	1. 教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。 2. 上記の理由から、両科目とも全回出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。 3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目≫実務経験等： 神月・藤本・河佐・大西・高田・佐藤・廣口 教員として公立学校の勤務経験あり
-------------------	--------------------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EDI4602N0J		
科目名	初等教育実習Ⅱ a		
副題			
担当教員	神月 紀輔、田中 裕喜、高田 佳孝、佐藤 真太郎、藤本 陽三、河佐 英俊、栗栖 ゆみ子、荻原 桂子		
単位数	2単位	配当学年	4年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	別に定める
定員		備考	集中

科目の教育目標	この科目は教員となることを希望し、教職科目・教科に関する科目を履修してきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場を借りて実践し、体験しながら教師としての資質や技能を身につけることが目標である。これはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、学習や子どもの指導について十分な準備をするとともに、心構えを確立しておくことも重要な目標である。
教育・学習の個別課題	大学で学んだ教育学・心理学の理論や事前事後指導において学んだ内容を理解し、それぞれの教育実習に積極的に生かすようにする。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	実習を私的な理由で欠席する、子どもの問いかけなどに反応できない、責任ある行動がとれないなど、教育実習に対して積極的な取り組み姿勢がない。	実習校園の指導に従い、社会人としての責任も持って教育実習を進めることができる。	実習校園の指導に従い実習を進め、子どもの指導を自らも工夫して行おうとする。	実習校園の指導に従い実習を進め、大学の授業で学んだことを十分に生かして、子どもの学びのために指導の挑戦をしようとする。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 こども教育学科 コス配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	協力いただける幼稚園において教育実習を4週間行う。 教育実習の方法は各幼稚園と打ち合わせること。 必要な情報は教育実習事前指導で指示する。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	実習校および実習指導教員の指導により、授業・保育とその準備、学級経営および園児や児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。実習ノートを返却し、その内容に関しては教員からフィードバックを行う。
準備学習の具体的な方法	詳細は授業時に指示するが、課題は個別にも存在するので、担当の教員に積極的に質問などをする姿勢が必要である。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	レポート、教育実習先からの評価、教育実習に対する意欲、態度、成果によって評価する。なお、原則として欠席は認めないので注意すること。
留意事項	1. 教育実習と事前事後指導の両科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが求められる。 2. 上記の理由から、両科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書を必要としている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、アルバイト、私用による欠席は認めない。 3. 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。

ノートPCの授業での利用	
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目≫実務経験等： 神月・藤本・河佐・高田・佐藤 教員として公立学校の勤務経験あり
-------------------	--------------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EDP3600N0J		
科目名	初等教育実習Ⅰb		
副題			
担当教員	神月 紀輔、田中 裕喜、高田 佳孝、佐藤 真太郎、藤本 陽三、河佐 英俊、栗栖 ゆみ子、荻原 桂子		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	別に定める
定員		備考	集中

科目の教育目標	この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修し続けてきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいうべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておかなければならない。
教育・学習の個別課題	大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

ルーブリック表				
DP	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教育実習に取り組むことができない	教育実習に取り組もうとする	実習内で積極的に実践力をあげる努力をする	実習だけでなく実習前後も含めて、自ら教員の話を聞こうとしたり、研究会などへ参加するなど、実践力向上に取り組む
知識・理解力	学習指導要領が理解できない	学習指導要領がわかる	学習指導要領の内容を自分の授業に生かす	教育法規・教育方法等を全般的を理解できている
言語力	児童に適切な声の大きさと話すことができない、また適切な言葉が使えない	児童に適切な声の大きさとわかりやすい言葉が使える	児童の立場に立ったわかりやすい言葉を使うことができる日本語のわからない児童・保護者に英語などで簡単な指示ができる	わかりやすい授業が展開でき、日本語のわからない児童・保護者にも日本語以外の言語でも授業をすることができる
思考・解決力	授業構成の工夫をしない	授業や指導に対して工夫しようとする	授業や指導の実践力をあげるために、資料などを参考にしようとする	授業や指導のために、先行研究を踏まえ自分で理論を考え、その実践を行おうとする。
共生・協働する力	ひとりがりの授業・指導を行う	わからないことなど、実習先の教員や実習生仲間に聞き、ともに問題解決にあたる	実習先の学校・学年・学級の目標を理解し、教員と同一歩調を取ろうとする。	自ら進んでチームティーチングなど協働作業に取り組み、成果をあげようとする。
創造・発信力	指導案や実習ノートを入のものを写したり、書き方などを自分で考えない	指導案や実習ノートなどを自分で考えて記そうとする	研究授業などでも自分の考えた授業や指導を人前で見せることができる	学級通信や学校のWebに自分の授業成果や児童の活動を個人情報等に配慮しながら発信できる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 こども教育学科 コス配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	別途提示する。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。フィードバックは、実習中の授業反省会の内容を踏まえて教育実習事後指導内で行う。
準備学習の具体的な方法	詳細は授業時に指示する。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	教育実習ノートの内容、日常の意欲・態度、実習校からの評価によって総合的に評価する。 評価の観点はルーブリックおよび事前事後指導内で配布された人材育成指標・履修カルテを参考にすること。 なお、原則として欠席があった場合は単位認定は認めない。
留意事項	1. 教育実習、事前事後指導の2科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。（4月初より開講） 2. このような理由から、<u>2科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書等が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用

	による欠席は認められていない。</u> 3、<u>2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。</u>
--	--------------------------------------------------------------------------------

ノートPCの授業での利用	実習先の指示に従ってください
教員への連絡方法	manabaを利用／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》 教員として学校に勤務経験あり（神月，藤本，河佐，栗栖，高田，佐藤）
-------------------	-------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EDP3601N0J		
科目名	初等教育実習Ⅱ b		
副題			
担当教員	神月 紀輔、田中 裕喜、高田 佳孝、佐藤 真太郎、藤本 陽三、河佐 英俊、栗栖 ゆみ子、荻原 桂子		
単位数	2単位	配当学年	3年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	別に定める
定員		備考	集中

科目の教育目標	この科目は教員となることを熱望し、教職科目・教科に関する科目を履修し続けてきた学生が、身についた知識や技能を学校教育の場に適用し、具体的に体験しながら教師としての資質や技能を磨いていく総仕上げともいうべきものである。これは学生にはかけがえのない貴重な経験であり、一方では教員としての基礎的な資質を試され、社会的な判断力を問われることにもなるものであるため、十分な準備とともに、心構えを確立しておかなければならない。
教育・学習の個別課題	大学で学んだ教育の理論や事前事後指導において教えられた内容を十分に理解し、教育実習に積極的に取り組むようにすること。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	教育実習に取り組むことができない	教育実習に取り組もうとする	実習内で積極的に実践力をあげる努力をする	実習だけでなく実習前後も含めて、自ら教員の話を聞こうとしたり、研究会などへ参加するなど、実践力向上に取り組む
知識・理解力	学習指導要領が理解できない	学習指導要領がわかる	学習指導要領の内容を自分の授業に生かす	教育法規・教育方法等を全般的を理解できている
言語力	児童に適切な声の大きさと話すことができない、また適切な言葉が使えない	児童に適切な声の大きさとわかりやすい言葉が使える	児童の立場に立ったわかりやすい言葉を使うことができる日本語のわからない児童・保護者に英語などで簡単な指示ができる	わかりやすい授業が展開でき、日本語のわからない児童・保護者にも日本語以外の言語でも授業をすることができる
思考・解決力	授業構成の工夫をしない	授業や指導に対して工夫しようとする	授業や指導の実践力をあげるために、資料などを参考にしようとする	授業や指導のために、先行研究を踏まえ自分で理論を考え、その実践を行おうとする。
共生・協働する力	ひとりがりの授業・指導を行う	わからないことなど、実習先の教員や実習生仲間に聞き、ともに問題解決にあたる	実習先の学校・学年・学級の目標を理解し、教員と同一歩調を取ろうとする。	自ら進んでチームティーチングなど協働作業に取り組み、成果をあげようとする。
創造・発信力	指導案や実習ノートを人のものを写したり、書き方などを自分で考えない	指導案や実習ノートなどを自分で考えて記そうとする	研究授業などでも自分の考えた授業や指導を人前で見せることができる	学級通信や学校のWebに自分の授業成果や児童の活動を個人情報等に配慮しながら発信できる

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 こども教育学科 コス配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	別途提示する。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	実習校および実習指導教員の指導により、授業とその準備、学級経営および児童の指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の全体等について理解を深め実践をする。フィードバックは、実習中の授業反省会の内容を踏まえて教育実習事後指導内で行う。
準備学習の具体的な方法	詳細は授業時に指示する。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	教育実習ノートの内容、日常の意欲・態度、実習校からの評価によって総合的に評価する。 評価の観点はルーブリックおよび事前事後指導内で配布された人材育成指標・履修カルテを参考にすること。 なお、原則として欠席があった場合は単位認定は認めない。
留意事項	1. 教育実習、事前事後指導の2科目の授業内容は、教師として必要最小限の知識・技能・心構え等を集約したものである。それらの学習が不十分であれば、実習に臨むにあたり大きな不安を抱くことになる。実習生を受け入れてくれる多くの学校は、指導教員は後進の教師を育てるために協力と努力をしてくれている。教職の仕事は高度な専門的能力が要求されるため、失敗ややり直しの許されないものであるということを実習生自ら自覚し、謙虚に熱心に授業に取り組む心がけが必要である。（4月初より開講） 2. このような理由から、2科目とも皆出席が要求され、病欠には診断書等が必要とされている。また、就職活動、スポーツ・文化クラブ活動、私用によ

	る欠席は認められていない。 3、 2つの科目は一体となって「教育実習」を遂行するため、一方が不合格のときは両方が不合格となる。
--	--------------------------------------------------------------------

ノートPCの授業での利用	実習先の指示に従ってください
教員への連絡方法	manabaを利用／オフィスアワー※専任教員のみ

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目≫ 教員として学校に勤務経験あり（神月，藤本，河佐，栗栖，高田，佐藤）
-------------------	-------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	TEA4856N0J		
科目名	中等教育実習Ⅰ		
副題			
担当教員	河野 有時、東郷 多津、加藤 佐千子、喜多 容子		
単位数	2単位	配当学年	4年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	別に定める
定員		備考	集中

科目の教育目標	「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。
教育・学習の個別課題	(１) 教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深めることができる。 (２) 教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つことができる。 (３) 学校という組織の一員としての教員の職責・義務を自覚できている。 (４) 教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。 (５) 教員としての専門的な知識や技能を習得している。 (６) 指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認できている。 (７) 教員としての自分の長所と短所に気付き、資質向上のための努力目標を知ることができる。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
教職のあり方についての認識	教職のあり方についての認識を深めることができていない。	教職のあり方についての認識を深めることができる。	教職のあり方についての認識をしっかりと深めることができる。	教職のあり方についての認識をしっかりと深めることができ、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての使命感	教員としての使命感を持つことができていない。	教員としての使命感を持つことができる。	教員としての使命感をしっかりと持つことができる。	教員としての使命感をしっかりと持つことができ、それを今後の実践に活かすことができる。
学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができていない。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができる。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかりと持つことができる。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかりと持つことができ、それを今後の実践に活かすことができる。
教員の働きかけに対する生徒の思考・行動についての把握	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できていない。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかりと把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかりと把握でき、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての専門的な知識や技能の習得	教員としての専門的な知識や技能を習得できていない。	教員としての専門的な知識や技能を習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかりと習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかりと習得でき、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての実践的指導力の基礎	教員としての実践的指導力の基礎を確認できていない。	教員としての実践的指導力の基礎を確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかりと確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかりと確認でき、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての資質向上のための努力目標	教員としての資質向上のための努力目標を理解できていない。	教員としての資質向上のための努力目標を理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかりと理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかりと理解でき、それを今後の自らの姿勢・行動につなげることができる。

ND6

授業計画	
第1回	協力いただける学校において教育実習を4週間行う。 教育実習の詳細については、実習校と打ち合わせること。 必要な情報は教育実習事前指導で指示する。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	・実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。 ・具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談をおこない、指導を踏まえて取り組むこと。 ・研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。
準備学習の具体的な方法	・教育実習生としての自覚を持つこと。 ・教材研究を十分におこなうこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	<評価基準> 実習に積極的に臨んだか <評価方法> (１) レポート (２) 実習校の評価 (３) 教育実習ノート

留意事項	<div><div></div><div>・特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席・遅刻・早退は認めない。</div><div>・就職活動、スポーツ・文化クラブ活動などの欠席も認めない。</div><div>・「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。</div><div>・就職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。</div><div>・教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。</div></div>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ノートPCの授業での利用	<div><div></div><div>・ノートPCの利用については教育実習校の指示に従うこと。</div></div>
教員への連絡方法	<div><div></div><div>manabaを利用／その他（教員より別途指示）</div></div>

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》
-------------------	---------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	TEA4857N0J		
科目名	中等教育実習Ⅱ		
副題			
担当教員	河野 有時、東郷 多津、加藤 佐千子、喜多 容子		
単位数	2単位	配当学年	4年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	60	前提科目	別に定める
定員		備考	集中

科目の教育目標	「教育実習」は、学校現場において教育活動全般にわたり実際に体験することを通じて、教育や教師に関する理解や認識を深めることを目的とする。また、様々な学校教育活動にかかわることで、職業人としての教師のあり方を実践的に学習するとともに、実践的指導力を獲得し、教師としての職務を遂行する能力を養うことを目的とする。
教育・学習の個別課題	(１) 教育活動の実態にふれ、教職のあり方について認識を深めることができる。 (２) 教員としての使命感にふれ、教職についての自覚を持つことができる。 (３) 学校という組織の一員としての教員の職責・義務を自覚できている。 (４) 教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。 (５) 教員としての専門的な知識や技能を習得している。 (６) 指導案作成や教壇実習を経験し、実践的指導力の基礎を確認できている。 (７) 教員としての自分の長所と短所に気付き、資質向上のための努力目標を知ることができる。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
教職のあり方についての認識	教職のあり方についての認識を深めることができていない。	教職のあり方についての認識を深めることができる。	教職のあり方についての認識をしっかりと深めることができる。	教職のあり方についての認識をしっかりと深めることができ、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての使命感	教員としての使命感を持つことができていない。	教員としての使命感を持つことができる。	教員としての使命感をしっかりと持つことができる。	教員としての使命感をしっかりと持つことができ、それを今後の実践に活かすことができる。
学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができていない。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚を持つことができる。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかりと持つことができる。	学校組織の一員としての教員の職責・義務に対する自覚をしっかりと持つことができ、それを今後の実践に活かすことができる。
教員の働きかけに対する生徒の思考・行動についての把握	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できていない。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するか把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかりと把握できている。	教員の働きかけに対応して、生徒がどのように思考し、行動するかしっかりと把握でき、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての専門的な知識や技能の習得	教員としての専門的な知識や技能を習得できていない。	教員としての専門的な知識や技能を習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかりと習得できている。	教員としての専門的な知識や技能をしっかりと習得でき、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての実践的指導力の基礎	教員としての実践的指導力の基礎を確認できていない。	教員としての実践的指導力の基礎を確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかりと確認できている。	教員としての実践的指導力の基礎をしっかりと確認でき、それを今後の実践に活かすことができる。
教員としての資質向上のための努力目標	教員としての資質向上のための努力目標を理解できていない。	教員としての資質向上のための努力目標を理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかりと理解できている。	教員としての資質向上のための努力目標をしっかりと理解でき、それを今後の自らの姿勢・行動につなげることができる。

ND6

授業計画	
第1回	協力いただける学校において教育実習を4週間行う。 教育実習の詳細については、実習校と打ち合わせること。 必要な情報は教育実習事前指導で指示する。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	・実習校や実習指導教員の指導により、授業の準備、授業、授業参観、学級経営、生徒指導、道徳・特別活動など、教師の生活と仕事の教育活動全般にわたって、主体的、積極的に取り組み、実際に体験して学習する。 ・具体的な内容や実施計画については、実習生本人が、教育実習校や実習指導担当教員とよく打ち合わせや相談をおこない、指導を踏まえて取り組むこと。 研究授業の際には、大学の巡回指導教員が実習校を訪問・参加するので、教科指導などについて指導を受ける。
準備学習の具体的な方法	・教育実習生としての自覚を持つこと。 ・教材研究を十分おこなうこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	<評価基準> 実習に積極的に臨んだか <評価方法> (１) レポート (２) 実習校の評価 (３) 教育実習ノート

留意事項	<div><div></div><div>・特別な事情（病欠には診断書、その他は証明書が必要）以外の欠席・遅刻・早退は認めない。</div><div>・「教育実習事前・事後指導」と「教育実習」は一体となっている。そのため、いずれかが不合格の場合は、両方の科目が不合格となる。</div><div>・教職を目指すものとしてふさわしくない行動があった場合は、直ちに実習中止とする。</div><div>・教育実習は、高度な専門的能力が要求されている。失敗ややり直しの許されないものであることを自ら自覚し、謙虚に熱心に取り組まねばならない。</div></div>
------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ノートPCの授業での利用	<div><div></div><div>・ノートPCの利用については教育実習校の指示に従うこと。</div></div>
教員への連絡方法	<div><div></div><div>manabaを利用／その他（教員より別途指示）</div></div>

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	《実践的科目》
-------------------	---------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmpps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EGS4600A0J		
科目名	卒業研究		
副題			
担当教員	大川 淳		
単位数	8単位	配当学年	4年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間		前提科目	
定員		備考	学則第 1 8 条第 2 項適用

科目の教育目標	本科目の目標は、英語英文学科で習得した専門的知識を基盤に、英語英文学演習I/II（3年次ゼミ）で設定したテーマと方法論に従って研究を遂行し、この結果をまとめた研究論文（卒業論文）を執筆することである。 卒業研究は大学における学習／研究活動の総決算であると同時に、大学卒業後それぞれの進路先で活躍するために必要な分析力、批判能力、独創性、表現力などを実践的に涵養する重要な機会に位置付けられる。
教育・学習の個別課題	卒業研究の遂行と論文執筆のため、以下の個別課題を設定する： 1. 研究遂行に必要な先行研究の調査と批評 2. 分析の対象となる作品、テキスト、現象、質的または量的データの収集と整理 3. 具体的な分析方法論の習得と実践 4. 学術論文に適切な論文構成法と論述方法の習得と実践

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
新規性・独自性	必ずしも新しい知見を提供しているとは言えない	従来の研究から容易に予測されるものの、一応新しい知見を提供している	従来の研究の到達点を更新する、新規性を有した知見を提供している	従来の研究とは異なる発想により、独創的な知見を提供している
有用性・公共性	得られた知見が社会的に意義がなく研究分野の発展にほとんど有益ではない	得られた知見が社会的に有意義な部分がある、または研究分野の発展に一部有益である	得られた知見が社会的に有意義である、または、研究分野の発展に有益である	得られた知見が社会的に有意義、かつ、研究分野の発展に極めて有益である
研究倫理（研究に不正行為はないか）	卒業論文の執筆に必要な研究倫理を理解していないため、明らかな不正行為が散見される	卒業論文の執筆に必要な最低限の研究倫理を理解し、遵守しようとしているが、複数の修正が必要である	卒業論文の執筆に必要な研究倫理を理解し、最低限それを遵守した論文である。	卒業論文の執筆に必要な研究倫理を十分理解したうえで、それを完璧に遵守した論文である
一貫性（設定された問いと結論が対応しているか）	問い、または、結論のどちらかがない、あるいはそれらが対応していない	問いと結論が対応しているが、修正の余地がある	問いと結論に対応が見られるが、章立てを含め修正の余地がある	立てられた問いに対して、章立てが明確になされており、結論までの対応に全く矛盾がない
信頼性（適切な研究方法が選択されているか）	適切な研究方法が選択されていない	研究方法に修正の余地がある	研究方法は妥当であり、その結果は信用できる	研究方法が妥当であり、考察など提示された内容すべてにおいて信用できる
形式（執筆要領を遵守しているか）	執筆要領が十分理解されていない	大まかな執筆要領は守られているが、形式的な修正の必要がある	軽微な修正を施せば、形式的に問題がない	執筆要領が守られており、形式的な面で全く問題がない

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 英語英文学科 GLAコース

NDカリキュラム		学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	前期は、定期的に授業を行い、卒論内容について全体で議論する。 後期は、定期的な授業を行うほか、進捗状況に応じて個別面談を行う。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	ブレンド：対面とオンライン併用で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	学生の論文や発表に関して、各指導教員が、対面、またはオンラインによる指導ならびにフィードバックを行う。 指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。
準備学習の具体的な方法	各指導教員の指導に基づき、定期的に面談を行い、計画的に研究を進めること。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	20
評価方法・評価基準	主査と副査の2名による論文審査を行う。評価観点は、研究テーマの学術的意義／創造性／新規性、先行文献調査の妥当性、方法論と分析の妥当性、構成や論述の整合性・論理性、学術的な英語の適切性などを含む。詳細は英語英文学科発行の「卒業論文の手引き」を参照のこと。
留意事項	[1] 卒業論文提出の条件として、草稿(Draft)の提出を必須とする（2023年10月16日締切）。詳細は「卒業論文の手引き」を参照すること。 [2] 各指導教員の説明および指示を十分に理解し、適宜面談を行いながら、卒業論文執筆にあたること。 [3] 英語英文学科発行「卒業論文の手引き」を熟読し、各段階での締め切りや要求されるフォーマットに忠実に従うこと。 [4] manabaの情報を確認し、その指示に従うこと。

ノートPCの授業での利用	授業や面談でのノートPCやタブレットの使用を推奨する
教員への連絡方法	その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	CSS4600A0J		
科目名	卒業研究		
副題			
担当教員	岩崎 れい		
単位数	8単位	配当学年	4年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間	30	前提科目	
定員		備考	学則第 1 8 条第 2 項適用

科目の教育目標	卒業論文ないし卒業制作が、大学 4 年間の学業の総決算としてふさわしい作品になるよう、定期的・系統的に指導を行う。内容面、方法面ともに、緻密な計画、構成が求められる長期の作業だけに、モチベーションが高く維持されるよう、受講者のニーズに合った、よいテーマを決定することが最も重要である。
教育・学習の個別課題	1. 卒業研究ないし卒業制作のテーマを決定する 2. テーマ決定後の研究計画を策定する 3. 参考文献や関連作品等を調査し、情報を集める 4. 論文執筆ないし作品制作の方法について学ぶ 5. 研究ないし制作について、内容面でどうすれば深められ、肉付けができるのか考える

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現実的な執筆計画を立てていない。	実行可能な執筆計画を立てて、教員と相談しながら進めている。	執筆計画を状況に応じて修正しながら、最終目標を意識して作業ができる。	自立して執筆の進行管理ができる。
知識・理解力	自分のテーマについて基本的な知識があいまいである。	自分のテーマについてある程度の知識を持ち、専門書に取り組むことができる。	自分のテーマについて主な先行研究を把握している。	自分のテーマについて国内外の先行研究を説明できる。
言語力	論文の形式にのっとった論述となっていない。	論文の形式を遵守し、十分に推敲した文章となっている。	論文の形式を遵守して、十分に推敲した学術的な文章となっている。	論文の形式を遵守し、論旨が明快に伝わるような構成を備えた学術的な文章となっている。
思考・解決力	自分なりの問題意識を持てていない。	自分で明らかにすべき問題を設定している。	自分が設定した問題に取り組む方法を試行錯誤して見出そうとしている。	自分の問題設定や方法論について、批判的に考えることが出来る。
共生・協働する力	必要な資料や情報を集めていない。	身近な図書館やインターネットで資料や情報を集めている。	外部の図書館・博物館などの施設でも情報収集している。	多様な手段を使い、関係各位と連絡をして情報収集している。
創造・発信力	自分の研究についてプレゼンをしたことがない。	自分の研究について15分ほどのプレゼンができる。	自分の研究について30分ほどのプレゼンができ、質疑応答にも対応できる。	自分の研究について、45分ほどのプレゼンができ、質疑応答にも対応できる。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 国際言語文化学部 国際日本文化学科

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	指導教員と相談の上、無理のない年間計画を立てて、作業を進める。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	ブレンド：対面とオンライン併用で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	ゼミや個別指導により、各担当教員から指導を受ける。 研究内容に関するフィードバックは、口頭・提出物へのコメント記入による返却など、適宜適切な方法をとる。
準備学習の具体的な方法	各指導教員の指導にもとづき、計画的に学習を進めること
準備学習に必要な標準時間数(合計)	30
評価方法・評価基準	提出された論文ないし作品に対し主査（指導教員）および副査（1 名）による口頭試問を行い、その結果をもとに学科教員全員で審議し評価を行う。評価基準の詳細は「論文作成の手引き」に記載があるが、今概略を記せば、以下の通りである。 1. テーマは明確かつ独創的で、課題の解明に努めているか 2. 文章全体がよく彫琢されており、誤字・脱字等がないか 3. 論の構成・展開が緻密かつ明確で、結論に説得力があるか 4. 先行研究に目配りをし、引用文の使用も明確であるか 5. 計画的に取り組み、試問に際しても応答が的確であったか

	詳細は手引きを参照すること。 ※題目、草稿、本論文（制作作品）・要旨、口頭試問、完成論文について提出期限や実施日時が厳しく定められているので、注意すること。
留意事項	研究テーマ、草稿、本論文（制作作品）、いずれについても提出締切の日時が厳しく決められており、そのどれに間に合わなかった場合でも、単位の取得ができなくなるのでとくに注意が必要である。また、提出後の口頭試問への欠席も、同様である。詳細については国際日本文化学科「論文作成の手引き」参照。

ノートPCの授業での利用	調査・執筆などに使用する。
教員への連絡方法	manabaを利用／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	SLS4600A0J		
科目名	卒業研究		
副題			
担当教員	青木 加奈子		
単位数	8単位	配当学年	4年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間		前提科目	
定員		備考	学則第 1 8 条第 2 項適用

科目の教育目標	これまでの専門基礎科目や展開・関連科目、3年次の生活環境特論で学んだ内容を踏まえ、4年間の集大成としてそれぞれが個別に設定した研究課題についての卒業論文に取り組む。各専門分野において設定した課題を検討することを通して、現代社会を取り巻く諸課題に対する深い認識と洞察力を持ち、人間生活の望ましいあり方を追究する姿勢の醸成と、必要な知見を深めることを目的とする。
教育・学習の個別課題	それぞれ個別に設定した研究課題の解明に取り組む。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。文献の扱いに問題がある。	テーマに関する知識が不十分で独創性、有用性にやや欠ける。先行研究の引用が十分でない。	テーマに関する知識が概ね認められ、ある程度の独創性や有用性がある。先行研究の引用もある程度記載されている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。
方法	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試ができる様な記載がされていない。データ収集の方法に問題がある。	研究目的に沿った方法が概ね遂行されている。追試ができる様な記載がある程度認められる。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試ができる様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試ができる様な詳細な記載が認められる。
結果	研究目的に沿った結果が示されていない。手法の選択や解釈に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果が示されているとはいいがたい。手法の選択が適切に行なわれているとはいいがたい。	研究目的に沿った結果が概ね示されている。手法の選択が比較的適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。手法の選択が適切に行われている。
考察	非論理的・主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	論理的、客観的とはいいがたく、研究目的や仮説が検証されたのか、議論が十分でない。根拠がやや不十分なまま、議論や解釈が行われている。	概ね論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、ある程度議論されている。根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論されている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
口頭試問	研究内容の説明にまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答ができない。	他者に伝わるような研究内容の説明や質問に対する回答においてやや不十分な面がある。	研究内容の説明が概ねできており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して比較的回答できている。	研究内容の説明ができており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答できている。
取組過程	スケジュールに沿って研究遂行をできない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論ができない。	スケジュール通りに研究を遂行できる。他者との協調が十分できない面もある。指導教員と議論が十分できない面がある。	スケジュール通りに研究を遂行でき、他者との協調ができる。指導教員との議論がある程度できる。	スケジュールに余裕を持って 研究を遂行でき、他者との協調が積極的にできる。指導教員との議論も積極的にできる。

ND6		
カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 生活環境学科		
	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	各クラス（ゼミ）の担当教員の指示によること。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／フィールドワーク／プレゼンテーション／実習、実験
教育・学習・フィードバックの方法	(1)各専門分野別のクラス（ゼミ）に分かれて学習する。 (2)各専門分野に応じて、適宜の方法で学習をする。
準備学習の具体的な方法	卒業論文作成にあたっては、文献講読、調査・実験、論文作成などを授業時間以外に各自が積極的に取り組むこと。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	60
評価方法・評価基準	以下の点を総合的に評価する。 (1) 卒業論文・要旨（新規性・独自性、有用性・公共性、先行研究への言及、一貫性、信頼性、形式等） (2) 口頭試問（プレゼンテーション、質疑応答等）

	(3) 取組過程（スケジュール管理、他者との協調・協働、リーダーシップ・積極性、指導教員とのディスカッション等）詳細は手引きを参照すること。
留意事項	・前年度の生活環境特論のクラスで継続して履修する。 ・卒論が完成されるまでの提出物については、その都度、面接、メール等によって個別に担当教員がコメントや添削指導等を行う。 ・プレゼンテーションについては、スライドの組み立て、発表方法について、担当教員がコメントを行う。 ・最終的に提出された論文は、口頭試問の場において、主査と副査から質問やコメントを行う。

ノートPCの授業での利用	卒業論文や口頭試問の資料等は、基本的にPCで作成する。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等／オフィスパワー※専任教員のみ／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	≪実践的科目＞実務経験等： 竹原広実：企業での営業企画に向けての業務経験あり 三好明夫：社会福祉士として福祉施設の実習指導者としての実務経験あり 酒井久美子：自治体や社会福祉協議会にて、地域福祉推進にかかわる委員や地域福祉計画（活動計画）策定委員等の経験あり 安川涼子：企業における工学系開発業務の経験あり
-------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等にて起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	PSS4602A0J		
科目名	卒業研究		
副題			
担当教員	伊藤 一美		
単位数	8単位	配当学年	4年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間		前提科目	
定員		備考	学則第 1 8 条第 2 項適用

科目の教育目標	心理学における 4 年間の学習の集大成として、各自が知的興味をもった専門領域を深め、各自が設定したテーマにそくして研究計画を立案・遂行し、卒業論文を作成する。 1. 研究テーマの妥当性について説明できる。 2. 研究テーマにそって、倫理的問題にも適切に対処しながら、研究を遂行できる。 3. 研究結果を適切に分析・記述・考察することができる。 4. 卒業論文の内容について適切に議論ができ、研究成果のプレゼンテーションを通して社会に発信できる。
教育・学習の個別課題	各自が設定したテーマに関連する諸理論と諸知見を深く理解し、考察し、自身の論をまとめ、一定の分量、書式に則り執筆して他者に理解できるように記述する。原則として量的データを必要とするが、質的データを扱ったり、文献研究を選択しても良い。また、「個人研究」あるいは「共同研究」のどちらかで行う。 1. 研究テーマの妥当性、独創性、意義、目的などについて、先行研究を引用しながら説明できる 2. 研究の目的にそって、データの収集方法、データの分析方法などを適切に設定し遂行することができる。 3. 倫理的問題に適切に対処することができる。 4. 得られた結果に対して、他の研究とも比較し、適切に解釈し、論理的に考察することができる。 5. 決められた様式（表紙、本文、要約、引用文献など）にしたがい、図や表を適切に使用して論文をまとめることができる。 6. 研究成果について、他者と議論したり、効果的に発信することができる

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
問題・目的 （独創性、有用性、体系性、実証性、論証性を有しているか。心理学的視点を有しているか。関連文献の検討が十分であるか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	テーマに関する知識に乏しく、独創性や有用性に著しく欠ける。先行研究の引用がされていない、もしくは不適切な引用がされている。引用文献の扱いに倫理的な問題がある。	テーマに関する知識や独創性、有用性、先行研究の引用記載に不十分な点があるものの、一定程度は出来ている。	テーマに関する知識が認められ、独創性や有用性がある。先行研究の引用も適切に記載されている。	テーマに関する知識が十分あり、独創性や有用性に優れる。先行研究の引用も適切に記載され、多角的に概説されている。
方法 （研究の目的にそって、適切な方法で研究が遂行されているか。データ収集において、倫理的な問題が生じていないか。）	研究目的に沿った方法が遂行されていない。追試が出来る様な記載がされていない。データ収集の方法に倫理的問題がある。	研究目的に沿った方法の遂行や、追試が出来る様な記載に不十分な点があるものの、一定程度はできている。	研究目的に沿った方法が遂行されている。追試が出来る様な記載が認められる。	研究目的に沿って明確に方法が遂行されている。追試が出来る様な詳細な記載が認められる。
結果 （研究の目的にそって、適切な統計的手法・分析方法が遂行されているか）	研究目的に沿った結果が示されていない。統計手法の選択に重大な誤りがある。	研究目的に沿った結果の示し方や統計手法の選択に不十分な点があるものの、一定程度適切に行われている。	研究目的に沿った結果が示されている。統計手法の選択が適切に行われている。	研究目的に沿って明確な結果が示されている。統計手法の選択も適切で、明確に結果が記載されている。
考察 （論理的かつ客観的にまとめられているか。他者に理解されるように表現できているか。文献引用などにおいて、倫理的な問題が生じていないか。）	非論理的・主観的であり、研究目的や仮説が検証されたのか、議論されていない。根拠がないまま、議論や解釈が行われている。	論理的、客観的な記載や、研究目的や仮説の検証についての議論に不十分さはあるものの、一定程度、根拠を示して議論や解釈が行われている。	論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、議論されている。根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。	非常に論理的、客観的に記載されており、研究目的や仮説が検証されたかどうか、十分な議論がされている。明確な根拠を示して議論や解釈が適切に行われている。
成果発表 （研究内容をわかりやすくプレゼンテーションできたか。質問に正確に答えられたか。）	研究内容の説明に全くまとまりがなく、他者に伝わらない。研究内容の質問に対する適切な回答が全く出来ない。	他者に伝わるような研究内容の説明や質問に対する回答において不十分さはあるものの、一定程度は出来ている。	研究内容の説明が出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して適切に回答出来ている。	研究内容の説明が論理的に出来ており、他者に伝わっている。研究内容の質問に対して回答に整合性がある。
研究プロセス （スケジュールに沿って研究を遂行出来たか。仲間と共同、協調し、また活発に議論をして研究を遂行出来たか。指導教員と活発に議論しながら研究を遂行出来たか。）	スケジュールに沿って研究遂行が出来ない。他者と協調することなく、自己中心的な研究姿勢である。指導教員と議論が出来ない。	スケジュール通りに研究を遂行することや、他者と協調したり指導教員と議論したりするうえで、不十分な点はあるものの、一定程度は出来ている。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調が積極的に来る。指導教員との議論も積極的に来る。	スケジュールに余裕を持って研究が遂行が出来、他者との協調および他者をまとめる力がある。指導教員との議論も非常に積極的に来る。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 心理学科 コス配属なし

NDカリキュラム		学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画

第1回	各担当教員から個別に指示する。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／プレゼンテーション
教育・学習・フィードバックの方法	各ゼミ別に個別指導を行う。
準備学習の具体的な方法	授業時間およびそれ以外の時間も用いて、以下の学習活動を行うこと。 1．各自の研究テーマに即して、社会動向や学術的な動向に関心を向ける。 2．自分なりの問題意識や疑問をもち、批判的な思考を心掛ける。 3．研究テーマについて、図書や論文、インターネットなどで調べる習慣をつける。 4．Word、Excel、PowerPoint、必要に応じてSPSSなど統計に関するPCスキルを高め、データ管理についても日頃から留意する。 5．自分の発表の際には十分な準備を行い、他者の発表を聞いて、自身の学習に役立てるよう心がける。 6．研究計画の遂行に際して、研究倫理についての留意点を確認する。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	120
評価方法・評価基準	卒業研究は、卒業論文の内容および研究プロセスを総合し、以下の観点とルーブリックに基づき評価される。 卒業論文は、主査(ゼミ担当教員)と副査(他の心理学科教員)によって査読され、卒業研究発表会で研究成果のプレゼンテーション(ポスター発表予定)も行う。 1) 独創性、有用性、体系性、実証性、論証性を有しているか 2) 心理学的視点を有しているか 3) 関連文献の検討が十分であるか 4) 研究の目的にそって適切な方法で研究が遂行されているか 5) 論理的かつ客観的に記述されているか、他者に理解されるように表現できているか 6) データの収集や文献引用などにおいて倫理的な問題を生じていないか 7) 論文の構成および様式(文字数、本文書式、図表、引用文献など)は適切か ※ 詳細は「卒業研究(卒業論文)について」(手引き)を確認のこと。
留意事項	1．卒業研究関連の日程については、学生便覧と掲示およびmanaba等の連絡を参照すること。 2．配布される「卒業研究（卒業論文）について」の手引きを熟読すること。 3．大学院進学時には卒業論文の内容が重視される場合が多いため心づもりすること。

ノートPCの授業での利用	各ゼミ担当教員の指示に従うこと。
教員への連絡方法	manabaを利用／授業前後等

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

授業コード	EDS4601A0J		
科目名	卒業研究		
副題			
担当教員	田中 裕喜		
単位数	8単位	配当学年	4年
開講年度学期	2025年度前期、2025年度後期	曜日講時	集中講義
授業以外に必要な標準学修時間		前提科目	
定員		備考	学則第 1 8 条第 2 項適用

科目の教育目標	こども教育学科における4年間の学びの集大成として、学問分野において問題を設定し、研究計画を立てて遂行する。研究によって得られた知見をまとめ卒業論文を作成するとともに、発表を行う。
教育・学習の個別課題	各自が設定した問題に関する先行研究を理解し、問題を解明するための方法を選択し、研究を通して明らかになったことを分析・考察して、他者に理解できるように論述する。

ルーブリック表				
DP	レベル 1	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	論文として成立していない。	構成に難がある、あるいは説得力に欠けるが、論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力のある論文を書くことができている。	構成がしっかりしており、説得力があり、創意あふれる論文を書くことができています。

ND6

カリキュラム学科 2024年度 前期 大学 現代人間学部 こども教育学科 コス配属なし

	NDカリキュラム	学修率
ND1	自分を育てる力	-
ND2	知識・理解力	-
ND3	言語力	-
ND4	思考・解決力	-
ND5	共生・協働する力	-
ND6	創造・発信力	100%

授業計画	
第1回	第1回目に提示する。
定期試験または定期試験に替わるレポート	実施しない

授業タイプ	対面：全ての回を対面で実施
アクティブラーニングの要素	ディスカッション、ディベート／グループワーク（ペアワーク含む）／フィールドワーク／プレゼンテーション／実習、実験／PBL（課題解決型学習）
教育・学習・フィードバックの方法	個別に指導を行う。
準備学習の具体的な方法	個別に指導を行う。
準備学習に必要な標準時間数(合計)	－
評価方法・評価基準	論文の評価のポイントは、構成がしっかりできているか、研究目的と方法が適切であるか、分析が適切に行われているか、考察が適切に行われているかなどである。その他、研究に取り組む姿勢なども評価の対象となる。
留意事項	卒業論文関連の日程について、各自でしっかりと把握しておくこと。

ノートPCの授業での利用	論文の執筆に用いる。
教員への連絡方法	manabaを利用／その他（教員より別途指示）

テキスト
参考文献
参考URL

実務経験のある教員による実践的科目	
-------------------	--

本授業を受けるにあたり、障がい（難病・慢性疾患等を含む）等に起因した理由により学修の合理的配慮を要する場合は、学生課・保健室を窓口とするキャンパスサポート推進室にご相談ください。／キャンパスサポート推進室 TEL：075-706-3770（学生課）、Email：cmps-support@notredame.ac.jp

京都ノートルダム女子大学履修プログラムに関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、京都ノートルダム女子大学（以下「本学」という。）が学部及び学環・学科の枠を超えたテーマに関する学修及び専門職業人養成に関する学修等の体系的な履修のために設けるプログラム（以下「プログラム」という。）に関して、必要な事項を定める。

(プログラム)

第2条 前条により設けるプログラムの名称及び目的は、以下のとおりとする。

(1) 情報活用力プログラム

情報活用力プログラムは、情報社会において必要な情報科学の知識・技能を身につけるとともに、それらが社会に与える影響を理解した上で、新たな情報を作り出し、課題を発見し、その解決に向けて主体的に解決策を検討し、実践できる人材の養成を目的とする。

(2) エアラインプログラム

エアラインプログラムは、社会人として必要な基礎的な知識・技能、ホスピタリティの在り方等を実践的に身につけ、航空業界はもちろんのこと、幅広くビジネスで率先力たろうとする人材の養成を目的とする。

2 プログラムの単位の修得方法及び修了の要件は、別表に定めるとおりとする。

3 プログラムを修了した者には、所定の修了証を授与する。

4 前2項の規定にかかわらず、情報活用力プログラムに関する別表の科目区分「基礎・基幹」の要件を満たして16単位を修得した者（情報活用力プログラムを修了した者を除く。）は、情報活用力プログラム（基礎）を修了したものとし、申し出により所定の修了証を授与する。

5 日本語教員養成課程については、別に定める。

(自己点検・評価)

第3条 教育センターは、前2条に定める趣旨及び目的に基づいて実施する各プログラムの教育の質保証のため、本学学則第1条の2の規定に準じ、自己点検及び評価を実施し、その改善・充実に努めなければならない。

(主担当)

第4条 プログラムには、その専門性に応じ、当該分野に関連の深い学部長若しくは学環長又は教育センター長の推薦により、教育センター運営委員会において責任者を定めるものとする。

附 則（平成29年2月15日制定）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年1月24日改正）

1 この改正は、平成30年4月1日から施行する。ただし、平成30年度以後の入学者に適用し、平成29年度以前の入学者（平成29年度以前の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。以下同じ。）については、なお従前の例による。

2 臨床の医学、日本語講読Ⅰ、日本語講読Ⅱ、日本語表現Ⅰ及び日本語表現Ⅱに係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成29年度の入学者（平成29年度の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）に適用する。

3 平成29年度以前の入学者に適用する授業科目については、第1項の規定にかかわらず、京都ノ

ートルダム女子大学履修規程（平成29年12月20日改正）附則第3項の規定に準じ、移行措置を講じるものとする。

- 4 平成29年度の入学者がホスピタリティ論又はIntercultural Communication and Adjustmentの単位を修得したときは、第1項の規定にかかわらず、別表①ホスピタリティプログラム、別表②医療サポート語学プログラム（英語）及び別表③日本語教員養成課程のプログラム修了の要件となる単位に含むことができる。
- 5 別表②医療サポート語学プログラム（英語）のプログラム修了の要件に係る改正については、第1項の規定にかかわらず、平成29年度の入学者に適用することができる。この場合において、平成29年度の入学者は、医療サポート語学プログラム病院研修を履修することを要しない。

附 則（平成30年9月19日改正）

- 1 この改正は、平成30年9月20日から施行する。ただし、平成30年度以後の入学者に適用し、平成29年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。
- 2 外国語（英語）、外国語（英語）指導法、小学校英語教育Ⅰ及び小学校英語教育Ⅱに係る改正については、前項の規定にかかわらず、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成31年度以後の入学者に適用し、平成30年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。
- 3 平成29年度の入学者が総合計45単位以上を修得したときは、第1項の規定にかかわらず、この改正後の第2条第3項の規定により修了証を授与することができる。

附 則（平成30年12月19日改正）

この改正は、平成31年4月1日から施行する。ただし、平成30年度以後の入学者に適用し、平成29年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。

附 則（平成31年2月20日改正）

この改正は、平成31年4月1日から施行する。ただし、接遇のための日本語の単位数に係る改正については、改正の日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則（令和2年10月21日改正）

- 1 この改正は、令和3年4月1日から施行する。ただし、令和3年度以後の入学者に適用し、令和2年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。
- 2 前項の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学者が本学情報処理士資格課程所定の単位を修得して修了したときは、第2条第1項第4号に定める情報活用力プログラム（基礎）を修了したものとみなす。

附 則（令和3年3月17日改正）

この改正は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和4年3月16日改正）

この改正は、令和4年4月1日から施行する。ただし、令和4年度以後の入学者に適用し、令和3年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。

附 則（令和5年2月15日改正）

この改正は、令和5年4月1日から施行する。ただし、令和5年度以後の入学者に適用し、令和4年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。

附 則（令和5年10月18日改正）

この改正は、令和5年4月1日から適用する。

附 則（令和6年1月24日改正）

- 1 この改正は、令和6年4月1日から施行する。ただし、令和6年度以後の入学者に適用し、令和5年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。
- 2 前項の規定にかかわらず、別表 1 情報活用力プログラムの情報演習Ⅱに係る改正は、令和5年4月1日から適用する。ただし、令和5年度以後の入学者に適用し、令和4年度以前の入学者については、なお従前の例による。

附 則（令和7年2月19日改正）

この改正は、令和7年4月1日から適用する。ただし、令和7年度以後の入学者に適用し、令和6年度以前の入学者（当該の入学者に該当する学年に転入学又は編入学する者を含む。）については、なお従前の例による。

別表（科目名の前の○印は必修科目、△印は選択必修科目を示す。）

(1) 情報活用力プログラム

区分	コース ナンバー	授業科目名（*は他学科等開放科目）	単位数	開設学科等	備考
基礎・基幹	GEI 1400	△情報演習Ⅰ a	1	教育センター 社会情報学環	△から1単位以上選択必修
	GEI 1401	△情報演習Ⅰ b	1	教育センター 社会情報学環	
	GEI 2400	△情報演習Ⅱ	1	教育センター 社会情報学環	
	GEI 2250 INF 2252	○情報技術リテラシー	2	教育センター 社会情報学環	
	GEI 1200	○情報の科学と倫理	2	教育センター 社会情報学環	
	GEI 2451	○AⅠとデータサイエンス入門	2	教育センター	
	GEI 1450	SNSコミュニケーションスキル	2	教育センター 社会情報学環	8単位以上選択必修
	GEI 2450	情報処理	2	教育センター 社会情報学環	
	GEI 2452 INF 2451	プログラミング演習	2	教育センター 社会情報学環	
	EGF 1100	英語英文学基礎演習Ⅰ	2	英語英文学科	
	EGF 1150	英語英文学基礎演習Ⅱ	2	英語英文学科	
	CSB 1600	基礎演習Ⅰ	2	国際日本文化学科	
	CSB 1650	基礎演習Ⅱ	2	国際日本文化学科	
	SLF 1301	生活環境基礎演習Ⅰ	2	生活環境学科	
	SLF 1251	生活環境基礎演習Ⅱ	2	生活環境学科	
	PSB 1100	心理学基礎演習Ⅰ	2	心理学科	
	PSB 1350	心理学基礎演習Ⅱ	2	心理学科	
	EDB 1203	こども教育基礎演習	2	こども教育学科	
	EDB 1500	こども教育フィールド研修	1	こども教育学科	
	INF 1401	社会情報基礎演習Ⅰ	2	社会情報学環	
	INF 1451	社会情報基礎演習Ⅱ	2	社会情報学環	
	WCD 1100	基礎演習Ⅰ	2	女性キャリアデザイン学環	
	WCD 1400	基礎演習Ⅱ	2	女性キャリアデザイン学環	
	合計		16単位以上		
専門	EGS 3500	英語英文学演習Ⅰ	2	英語英文学科	4単位以上選択必修
	EGS 3550	英語英文学演習Ⅱ	2	英語英文学科	
	CSS 3600	専門演習Ⅰ	2	国際日本文化学科	
	CSS 3650	専門演習Ⅱ	2	国際日本文化学科	
	SLS 3401	生活環境特論	4	生活環境学科	
	PSS 3600	心理学演習	4	心理学科	
	EDS 3600	こども教育演習	4	こども教育学科	
	INF 3600	社会情報演習	4	社会情報学環	
	WCD 3604	専門演習	4	女性キャリアデザイン学環	
	CSA 2259	* インターネット社会論	2	国際日本文化学科 社会情報学環	
	LDR 3203	* マーケティング論	2	生活環境学科 社会情報学環 女性キャリアデザイン学環	
	PSR 3203			心理学科	
	EDN 3402	* 情報教育	2	こども教育学科 社会情報学環	
	CNS 2601	* 子供のネット安全教育の理論と実践	2	こども教育学科 社会情報学環	
	EDP 3403	ICT活用教育	1	こども教育学科 社会情報学環	
	TEA 3853			教育センター	
	GEI 2200	○アルゴリズム基礎	2	教育センター 社会情報学環	
	GEI 3400 INF 3401	○AⅠとデータサイエンス	2	教育センター 社会情報学環	
	合計		8単位以上		

関連	GEN 1150		生命倫理	2	教育センター	10単位以上選択必修
	GEN 1450		暮らしの統計学	2	教育センター	
	GCP 2350		アカデミック・ライティング	2	社会情報学環	
					教育センター	
	GCP 1501		キャリア実習Ⅰ	1	社会情報学環	
	GCP 1502		キャリア実習Ⅱ	1	教育センター	
	GCP 2500		キャリア形成ゼミ	2	教育センター	
	GCP 3502		インターンシップⅠ	1	教育センター	
	GCP 3503		インターンシップⅡ	1	教育センター	
	GEN 1250		暮らしと電気・エネルギー	2	教育センター	
	LDA 1251				生活環境学科	
					社会情報学環	
	EGL 2453	*	ことばのしくみ	2	英語英文学科	
	EGL 3403	*	対人コミュニケーション	2	英語英文学科	
					心理学科	
					女性キャリアデザイン学環	
	EGL 3406	*	ことばの音と形態	2	英語英文学科	
	EGL 3455	*	ことばと社会	2	英語英文学科	
	EGL 3458	*	ことばと意味	2	英語英文学科	
	LDR 2201	*	ビジネスの基礎Ⅰ	2	生活環境学科	
					社会情報学環	
					女性キャリアデザイン学環	
	PSR 2201				心理学科	
	LDR 2252	*	ビジネスの基礎Ⅱ	2	生活環境学科	
					社会情報学環	
					女性キャリアデザイン学環	
	LDR 3253	*	ソーシャルマーケティング論	2	生活環境学科	
					社会情報学環	
					女性キャリアデザイン学環	
	LDR 3254	*	女性起業論	2	生活環境学科	
					社会情報学環	
					女性キャリアデザイン学環	
	PSR 3254				心理学科	
	PSA 2203	*	消費者行動の心理学	2	心理学科	
					社会情報学環	
					女性キャリアデザイン学環	
	PSA 2205	*	知覚・認知心理学	2	心理学科	
					社会情報学環	
	PSA 2254	*	学習・言語心理学	2	心理学科	
					社会情報学環	
	EDN 2253				こども教育学科	
	EDI 4601		初等教育実習Ⅰ a	2	こども教育学科	
	EDI 4602		初等教育実習Ⅱ a	2	こども教育学科	
	EDP 3600		初等教育実習Ⅰ b	2	こども教育学科	
	EDP 3601		初等教育実習Ⅱ b	2	こども教育学科	
	INF 2250	*	I C T ビジネス論	2	社会情報学環	
					女性キャリアデザイン学環	
	TEA 4856		中等教育実習Ⅰ	2	教育センター	
	TEA 4857		中等教育実習Ⅱ	2	教育センター	
	EGS 4600		卒業研究	8	英語英文学科	
	CSS 4600				国際日本文化学科	
	SLS 4600				生活環境学科	
	PSS 4602				心理学科	
	EDS 4601				こども教育学科	
	INF 4600				社会情報学環	
	WCD 4600				女性キャリアデザイン学環	
			各学科専門教育科目のうち情報分野を含むもの	4単位以内		
合計				10単位以上		
総合計				34単位以上		

【プログラム修了の要件】

- 1 上表のとおり単位を修得すること。
- 2 卒業研究及び各学科専門教育科目のうち情報分野を含むものとして算入できる単位は、教育センターが別に定めるところにより、当該科目の学修内容に情報分野を含むものとして確認を受けたものに限る。

(以下略)

「情報活用カプログラム」（学部等横断プログラム）の概要

プログラムの目的と修了で身につく力（全学部・学環共通）

以下の力を身につけた人材の育成。

- ▶情報社会に必要な情報科学の基礎的知識・技能を身につけている。 ▶情報が社会に与える影響を理解できる。
- ▶新たな情報を作り出し、課題を発見できる。 ▶課題の解決に向けて主体的に解決策を検討することができる。



特 色

- ▶情報関連科目の充実に加え、その知識・技能を各専門分野で活用できるよう、各学科・学環の演習科目や関連科目も配置。
- ▶上級情報処理士の科目も含むため、同時に資格取得を目指すことも可能。

修了要件

- ▶プログラムを構成する科目群から、必修の要件を満たして34単位以上を修得

4						・卒業研究 (情報分野を含む内容のもの)
3				・AIとデータサイエンス	・情報教育 ・ICT活用教育 ・マーケティング論 ・各学科等専門演習等	・ソーシャルマーケティング論 ・女性起業論 ・消費者行動の心理学 ・対人コミュニケーション ・インターンシップⅠ・Ⅱ など
2	・情報技術リテラシー	・情報演習Ⅱ	・情報処理 ・プログラミング演習	・アルゴリズム基礎	・インターネット社会論 ・子供のネット安全教育 の理論と実践	・アカデミック・ライティング ・キャリア形成ゼミ ・ICTビジネス論 ・ビジネスの基礎Ⅰ・Ⅱ など
1	・AIとデータサイエンス 入門 ・情報の科学と倫理	・情報演習Ⅰa・b	・SNSコミュニケーションスキル ・各学科等基礎演習等			・暮らしの統計学 ・生命倫理 ・キャリア実習Ⅰ・Ⅱ ・暮らしの電気・エネルギー
区分	必修：6単位	選択必修：1単位以上	選択必修：8単位以上	必修：4単位	選択必修：4単位以上	選択必修：10単位以上
	基礎基幹※			専門		関連

※基幹基礎科目群は「情報活用カプログラム（基礎）」（MDASHリテラシーレベル（認定済み））に該当

サポート体制

- ▶プログラム関連教員との学習相談・・・対面：オフィスアワーなど オンライン：LMS上で質問を受け付け
- ▶プログラム全体に関すること、履修に関する相談・サポート・・・ND教育センター
- ▶情報技術に関するサポート・・・図書館情報センター（システム管理課）

